

住宅つき就職支援プロジェクト“MODEL HOUSE”

**若者地域生活ニーズの把握に向けた
調査報告書**

2019年11月
NPO 法人 HELLOlife

目次

第 I 章 調査概要	1
1. 実施目的と現状	1
2. 実施内容	1
3. 体制	2
第 II 章 若者地域生活ニーズの検討	3
1. 実施概要	3
2. 文献調査	3
3. インタビュー調査	8
4. MODEL HOUSE がサービス提供を目指す若者地域生活ニーズ	13
第 III 章 四條畷市における先行調査（若者地域生活ニーズに関する実態調査結果）	14
1. 実施概要	14
2. 回答者属性	15
3. 若者の雇用状況	16
4. 若者のひとり暮らしへの意向	19
5. 若者地域生活ニーズ	21
6. 住まいに求める設備・機能	41
7. MODELHOUSE 事業のターゲット層	44
第 IV 章 今後の方向性	56
1. 調査結果の総括	56
2. 目指す方向性	62
3. 今後検討すべき事項	63
第 V 章 参考資料	65
1. 若者地域生活ニーズ調査パッケージ（VER.1.0.）	65

第Ⅰ章 調査概要

1. 実施目的と現状

(1) 地域との協働方針の検討

NPO 法人 HELLOlife（以下「HELLOlife」と略記）では、2017 年度のインパクト評価を通じて「ハローライフ構想」が一定の効果を挙げると想定されることを示してきたが、その中核的事業に位置づけられる MODEL HOUSE の詳細な分析は未実施である。MODEL HOUSE はこれまで公益財団法人日本財団（以下「日本財団」と略記）の助成金や大阪府・四條畷市の協力をベースに進められてきたが、今後は本格的な事業化に向けて地域との協働関係をさらに深めることが求められる。

おりしも政府では、「経済財政運営と改革の基本方針 2018」（いわゆる「骨太の方針」）の中で行政・企業・NPO による協働（コレクティブ・インパクト）を進める方向性を示すなど、協働の促進や機運醸成が指摘される一方、国内事例の蓄積は乏しく、独自に方針を検討する必要がある。

(2) 他地域展開のためのツール開発

2018 年度以降、HELLOlife では MODEL HOUSE を大阪府外へも他地域展開を目指すとしており、その方策として全国キャラバン及び官民連携ネットワークの組成を検討中である。地方版ハローワーク事業として MODEL HOUSE をヨコ展開するには、行政の関心に合致する情報を提供し、地域のニーズを満たすことを証明する必要がある。

ただし、「地域のニーズ」は地域ごとに異なるため、（全国一律の情報ではなく）地域でカスタマイズ可能な「枠組み」を提示し、その枠組みに沿って各地域でニーズ調査が行われ合意形成が図られるよう、実用的なツールの開発が求められる。

2. 実施内容

(1) 若者地域生活ニーズの検討

MODEL HOUSE は、若者の地域への定着を多くの関係者に「自分ゴト」と認識してもらう必要がある事業である。そのためには、それぞれの地域、それぞれの関係者の利害が一致し協働が生まれることが力強い協働を生む条件だと考えられる。この協働促進の一助として、若者が地域で安定的に働きながら暮らす意向や地域に求めるもの（以下、「若者地域生活ニーズ」と略記）を検討した。

(2) 四條畷市における先行調査の実施

MODEL HOUSE を先行実施している四條畷市では、これまでの入居者の個別事例を通じ事業の有効性が定性的に確認されてきたが、若者のニーズが地域内にどの程度存在するかは十分に検討されていなかった。そこで、四條畷市・大阪府・日本財団の協力を得て、四條畷市における先行調査（若者地域生活ニーズに関する実態調査）を実施し、若者のニーズに関する調査結果を分析した。

(3) 若者地域生活ニーズニーズ調査パッケージの開発

MODEL HOUSE の規模拡大（スケールアップ）や他地域展開（スケールアウト）を見据え、調査実施手順・質問紙・分析結果サンプルからなるニーズ調査パッケージ（ver.1.0.）を設計した。

3. 体制

調査実施主体	NPO 法人 HELLOlife 【担当】渡辺眞子 【アドバイザー】水谷衣里 【連絡先】06-6147-3286
調査委託先	三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 【担当】家子直幸、渡邊倫

第II章 若者地域生活ニーズの検討

1. 実施概要

MODEL HOUSE は「ハローライフ構想¹」において、若者が地域で安定的に働きながら暮らすための「若者地域生活ニーズ」を充足させる取組であると位置付けられる。HELLOlife ではこれまで、若者地域生活ニーズを記述的に示すとともに、日本財団・大阪府・四條畷市の支援・協力のもと、四條畷市内の清滝団地において第1期 MODEL HOUSE を試行事業として実施してきた。本章では試行事業での経験・知見を踏まえつつ、改めて概念整理を行い、「若者地域生活ニーズ」を定量的に把握・可視化するための基礎的事項を検討した。

検討にあたり、2種類の調査を実施した。第一に文献調査として、HELLOlife が 2017 年度に実施したインパクト評価で整理している「現行の政策に関する文献調査」を概観した上で、さらに類似調査研究として、日本財団の助成を受けて一般財団法人地方自治研究機構が実施した「若年単身者に対する住宅支援等の在り方に関する調査研究」（平成 31 年 3 月）をレビューした。また、第二にインタビュー調査として、第1期 MODEL HOUSE に入居していた方々への個別面談時に聞き取った生活状況を整理するとともに、MODEL HOUSE の関係者や他地域で若者地域生活支援を実施している団体（先行事例）との意見交換の内容を整理した。

検討の結果、MODEL HOUSE がサービス提供を目指す若者地域生活ニーズを、「就労」「生活」「社会参加」「親からの自立」の 4 側面からなる 26 項目で構成されるものとした。なお、これらの項目を中心的設問としつつ、地域の要望を加味した調査を設計し、先行的にアンケート調査を実施した結果を第III章で報告している。

2. 文献調査

(1) 2017 年度調査結果

若者支援施策は、行政が実施している政策分野の中でも比較的新しい分野であり、府省をまたいで検討・実施されている。国レベルで現行の政策を把握するため、ここでは「若者支援」を掲げている政策を特定し、それらについて支援施策の「構成要素」を抽出することで、「ハローライフ構想」の特徴を分析した。文献調査は以下に着目して実施し、「ハローライフ構想」との関連性を検討したものである。

① 若者自立・挑戦プラン（平成 15 年～）

平成 15 年 6 月、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣、経済財政政策担当大臣を構成メンバーとする若者自立・挑戦戦略会議が「若者自立・挑戦プラン」を発表。このプランに基づき、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、内閣府において各種取組みが展開された。この背景として、フリーターが約 200 万人、若年失業者・無業者が約 100 万人と増加している状況が指摘されている。

この状況を踏まえ、人材対策の強化を通じ、若年者の働く意欲を喚起しつつ、全てのやる気のある若年者の職業的自立を促進し、若年失業者等の増加傾向を転換させることを目指す政策が検討された。なお、同プランは、若者に対する体系的なキャリア教育や支援を主眼としており、暮らしの

¹ 「若者一人ひとりの生涯・人生（ライフ）に寄り添う改革」を目指した NPO 法人 HELLOlife における取り組みの総称

充実や周囲とのコミュニケーションに関する支援を重視する「ハローライフ構想」とは方向性が異なるが、地域の主体的な取り組みによる若年者のためのワンストップセンターであるジョブカフェが本格的に整備されるきっかけとなった点では「ハローライフ構想」との関連性がある。

②内閣府における若者支援施策の検討（平成15年～）

内閣府では、平成15年4月以降、若者支援に関する検討を継続的に行っている。「青少年の育成に関する有識者懇談会報告書」（平成15年4月）では、青年期の課題として、①職業的自立、②親からの自立、③公共への参画が挙げられており、「ハローライフ構想」の問題意識との重なりがみられる。

「若者の包括的な自立支援方策に関する検討会報告」（平成17年6月）では、若者が自分自身で将来を見据え、意識的にキャリア形成を行うことができるよう支援していくことの必要性が述べられている。また、まちづくりや地域おこしなど様々なプログラムへの参加を促すことの有効性についても指摘されており、「ハローライフ構想」はこの考え方を体現した取組みであると言える。

③子ども・若者育成支援推進法（平成21年～）

平成21年、子ども・若者育成支援推進法が成立、翌年4月から施行された。子ども・若者育成支援施策の推進のための枠組み整備として基本法的な性格を有しており、国が「子ども・若者育成支援推進大綱」を策定することを定めるとともに、地方公共団体には「都道府県・市町村 子ども若者計画」の策定を努力義務とした。この法律制定の背景には、下記の状況があり、従来の個別分野における縦割り的な対応では限界があるとされたことがある。

- ・児童虐待、いじめ、少年による重大事件の発生、有害情報の氾濫など、子ども・若者をめぐる環境の悪化
- ・ニートやひきこもり、不登校、発達障害等の精神疾患など、子ども・若者が抱える問題の深刻化

④厚生労働省における若者支援施策の検討

厚生労働省の労働分野における検討は、若年者雇用に関する職業能力の育成、キャリア支援に主眼があり、「ハローライフ構想」の志向とは必ずしも一致しない。しかしながら、「若者の人間力を高めるための国民宣言」（平成17年9月15日）では、子どもの頃から人生を考える力やコミュニケーション能力を身につけることの重要性について言及されている。人生を考える力、コミュニケーション能力の醸成は、現在の「ハローライフ構想」の取組みそのものである。

また、若者支援に関連した施策として、「生活困窮者自立支援制度」がある。平成25年12月に成立した生活困窮者自立支援法に基づくこの制度では、アセスメントに基づき、対象者本人の状態に応じた包括的・継続的な支援を行う。就労に向けた支援については、日常生活自立、社会参加、就労訓練事業、一般就労のステージに応じた支援が行われるが、本人の自立に向けて、これらの支援が一体的に行われることが多いとされている。

生活困窮者自立支援制度は、就労支援に限らず、生活支援も一体的に行う点において、「ハローライフ構想」との共通点がみられる。ただし、生活困窮者自立支援制度は、生活リズムが崩れている人、長期失業等により自己有用感を失っている人、アウトリーチによる支援が必要な人など、対象者が幅広く想定されている。また、対象者は若者に限定されない。

⑤若者を対象とした住宅支援に関する検討

これまでの国の若者支援の検討の中では、住宅支援について言及されたものはあまりみられない。しかしながら、一部の有識者等から、「住まいの貧困」の解消を求める意見が出されている。「ハローライフ構想」、特にその中でも MODEL HOUSE プロジェクトの取組みは、これらの意見を具体化した新たな取組みであると位置づけられる。

- ・認定 NPO 法人ビッグイシュー基金 住宅政策提案・検討委員会「若者の住宅問題 住宅政策提案書〔調査編〕」(2014 年 12 月)
- ・稻葉剛「若年労働の変容と住まいの貧困」大原社会問題研究所雑誌No.682 (2015 年 8 月)

⑥「地方版ハローワーク」の創設（平成 28 年～）

「地方版ハローワーク」とは、第 6 次地方分権一括法のうち職業安定法の改正（平成 28 年 5 月に公布・施行）によって、地方公共団体が自ら無料職業紹介事業を行うことができるようになったものである。それ以前も一部の地方公共団体では類似の取組みがなされてきたが、改正によって職業紹介が事由に始められるようになったほか、国による監督が廃止され、創意工夫を活かした無料職業紹介が実施しやすくなった。もともとは全国知事会が平成 22 年から国に提案をしたもので、平成 23 年 6 月には国と地方公共団体の一体的実施、平成 24 年 10 月にはハローワーク特区、平成 26 年 9 月にはハローワーク求人情報のオンライン提供がなされてきた。これら地方移管の効果として、①就職相談から職業紹介まで一貫した支援、②生活相談等きめ細かい支援をワンストップで提供、③身近な場所で継続的な支援、④企業誘致や新産業育成など産業政策と一体化した雇用政策の展開といった効果が実証され、法改正に至ったものである。

これまでに、33 都道府県・130 市町村・1 共同提案（県と市）で事業が開始されている（平成 29 年 3 月 1 日時点）。地方版ハローワークは無料職業紹介を中心としつつ、移住支援・福祉サービス・産業振興施策などの他政策分野も含め、地域の実情に応じたパッケージを地方公共団体が独自に検討できる。

⑦文献調査結果の小括

国で検討してきた若者支援施策の構成要素をみたところ、現行の若者支援施策の構成要素として「就労支援」「生活支援」「社会参加」「親からの独立」の 4 側面に大別できることがわかった。

このうち就労支援と生活支援については、複数の機関を通じて比較的充実した支援が実施されている。他方、社会参加と親からの独立については、既存の枠組みではあまり支援されてこなかった領域である。「ハローライフ構想」は、4 側面のすべてを提供可能なサービスラインを揃えていると言える。特に社会参加については、リアル・バーチャル両面のサードプレイス的機能とコミュニティ形成支援、親からの独立については MODEL HOUSE プロジェクトにおける居住確保が該当すると考えられる。

なお、今後は地方版ハローワーク等の取組みも一層進むと考えられることから、国だけでなく地方公共団体の動向も注視する必要がある。

(2)類似調査研究

ここでは、一般社団法人地方自治研究機構が平成 31 年 3 月に公表した「若年単身者に対する住宅支援等の在り方に関する調査研究」報告書を参考に、若者の自立を促進し地域活性化につながる住宅支援等のあり方について概観する。

① 目的

国が平成 29 年 10 月に創設した「新たな住宅セーフティネット制度」を踏まえ、福島県では同年 12 月に「福島県賃貸住宅供給促進計画」を策定し、住宅確保要配慮者の居住の安定確保や向上に向けて取り組んでいる。県庁内では住宅部局と福祉部局の連携会議を設置し、情報共有や課題解決への取組を進めているが、若者の住宅事情や住宅支援等のあり方については十分に認識されていない。そのため、若者の居住の安定確保や生活の向上を図るための具体的な住宅施策等を構築していくにあたり、基礎資料を整備することを目的として調査研究を実施している。

なお、同調査研究では、既婚者や独立している若者を除いた「20 歳以上 39 歳以下の独身者で親・祖父母等と同居している者（就学者除く）」を「若年単身者」と定義している。

② 実施内容

調査研究は福島県及び地方自治研究機構が実施主体となり、学識経験者や行政関係者等による調査研究委員会を 4 回開催して指導・助言を受けながら、以下の調査を実施している。

・福島県における住宅施策の現状確認

県の住宅支援施策について、住宅セーフティネットの現状を踏まえつつ、各種施策の取組状況を整理するとともに、公営住宅制度の運用上の課題にも言及している。

・都道府県・政令指定都市及び福島県内の市町村へのアンケート調査

自治体における住宅支援等の現状把握のため、47 都道府県、20 指定都市、福島県内 59 市町村を対象としたアンケート調査（メール送付・回収）を実施し、課題認識や取組状況をまとめている。

・若年単身者への意識調査及びグループヒアリング調査

福島県内の若年単身者の意識や実態の把握のため、若年単身者等を対象として、住宅・仕事・結婚などのライフスタイルについて 2 種類のアンケート調査（住民基本台帳からの抽出+インターネットモニター）を実施している。また、回答のあった若年単身者に協力を呼びかけ、計 6 名に独立についてどのように考えているかに關しグループヒアリング調査を実施している。

・事例調査

若者の自立支援や地域活性化を目的としている住宅に関する施策等について、新たな視点・指標を得るために先進的事例を選定し、視察等を含めたヒアリング調査を実施している。全国の 6 事例（大阪府及び HELLOlife 「若者の職業的自立モデル事業」、神戸すまいまちづくり公社「『はたらく KOBE 支援』制度」、神奈川県住宅供給公社「団地再生モデル事業」、新潟市「公営住宅の若年単身者世帯の入居」、山形県「セーフティネット住宅の供給促進」、南陽市「新たな住宅セーフティネット制度の補助金創設」）が取り上げられ、HELLOlife もヒアリングに協力している。

③ 若年単身者への住宅支援等のあり方

以下では、調査研究内で「住宅支援等に求められる事項等」として挙げている内容を引用したものである。

① 基本的な認識（スタンス）

- ・若年単身者は、これまで議論・可視化されなかった住宅確保要配慮者の一類型となる。
- ・若年単身者が独立し、結婚し、子育てを行い、地域で活躍することは、本人の豊かな人生のみならず、地域社会の安全・安心や持続的発展につながる。
- ・そのためには、若者の貧困・雇用対策と共に「住宅対策」の切り口からのアプローチも必要。

- ・若年単身者の事情（親と同居せざるを得ない、地域の賃貸住宅が少ないなど）に応じた支援も必要。

②住宅支援関係

【民間賃貸住宅】

- ・新たな住宅セーフティネット制度は現実的であり、短期的に実施可能である。
- ・民間賃貸住宅は、防犯性・交通利便性、設備水準など若者のニーズに適った物件が多い。課題は、①賃貸人の理解と住宅登録の促進、②市町村による家賃等補助等がある。市町村賃貸住宅供給促進計画で若者を住宅確保要配慮者に位置付け、移住定住を促進するのも有効と考えられる。

【公営住宅】

- ・公営住宅における単身入居の年齢要件を若年へ緩和する手法は、公営住宅が住宅セーフティネットの中核であることや、より住宅の確保に配慮を要する単身高齢者等の入居機会の減少につながることから、応募倍率が高い状況においては困難と判断される。なお、各事業主体は、地域の住宅事情や公営住宅の応募倍率を踏まえて適切に対応していく必要がある。
- ・また、将来的には、多くの災害・復興公営住宅で生じる空室を段階的に一般の低額所得者へ開放していくこととなり、当該地域における様々な住宅確保要配慮者の居住実態や住宅の供給状況等から、若年単身者への開放も視野に入れることは可能となる。
- ・「公営住宅の地域対応活用（目的外使用）」は短期的、試行的に実施可能。大規模な公営住宅団地において、上層階の空室を低廉な家賃で提供し、自治会活動等への参加で社会性を醸成し、多様な年齢層の集住（ミックス・コミュニティ）による安全・安心の確保とコミュニティの活性化を図ることで、様々な効果が期待できる。老朽化したファミリー向け住戸（3LDK等）が多く、入居者ニーズに適う改修（リノベーション）が必要となる。

【持家】

- ・独立している単身者が、親の介護や経済的理由から親元へ同居するケースへの支援も必要。

例) 福島県多世代同居・近居推進事業：親世帯と子ども世帯が新たに同居・近居するための新築、中古住宅の取得費、二世帯住宅へのリフォーム費用を補助。

○住宅性能等

- ・男性に対しては、住環境や築年数、階数等は余り考慮しなくても可。
- ・女性に対しては、防犯性・通勤利便性や治安の良い住宅を提供。ワンルーム、可変性・回遊性のある間取り、上質な空間等の工夫が効果的。
- ・部屋数は2部屋程度まで。

○家賃設定

- ・実質支払家賃（家賃補助額）は収入に応じて設定（応能家賃が原則）。
- ・若年単身者の高年齢化に対応し、家賃補助の年齢要件は弾力的（幅広）に設定。
- ・単身者がファミリー世帯（結婚・子育て）への移行後も家賃を補助し暮らしを支援。

③住宅対策と雇用対策等との連携

- ・経済的自立のためには、住宅対策による家賃支援と雇用対策による就労支援の双方が不可欠。
- ・就労環境の整備として、住宅対策による職住近接（通勤利便性）と通勤費支援の両面が有効。
- ・住宅・雇用対策とあわせ、結婚・子育て対策（出会いの場、仕事と育児の両立等）との連携も効果的。

※公営住宅団地内の出会いの場の提供などもあり得る。

出典：一般社団法人地方自治研究機構「若年単身者に対する住宅支援等の在り方に関する調査研究」（平成31年3月）

3. インタビュー調査

(1) MODEL HOUSE 先行入居者への個別面談

MODEL HOUSE の第 1 期入居者 6 人に対し、若者地域生活ニーズを検討する上で、まずは生活状況の整理を行った。調査項目は ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health、国際生活機能分類) を参考に検討し、インタビューの実施方法は HELLOlife 職員による個別面談形式（半構造化）とした。インタビューは 2019 年 8 月～9 月にかけて実施し、実施時間はおおむね一人あたり 30 分程度だった。

① 調査項目・手法

ICF のうち MODEL HOUSE に関連があると考えられた以下の 10 項目について、入居者とスタッフとの個別面談の中で「これまでできたこと・できていないこと」「これからやりたいこと」として関連するキーワードが挙がったものを記録した。

- ・セルフケア（健康管理、身だしなみ等）
- ・必需品の入手（住居、物品やサービスの入手等）
- ・家事（調理、掃除、洗濯等）
- ・対人関係
- ・教育（職業訓練等）
- ・仕事と雇用
- ・経済生活（買い物、契約、金銭管理等）
- ・コミュニティライフ・社会生活・市民生活（余暇等）
- ・支援と関係（家族、友人、地域等）
- ・態度（家族、友人、地域等）

② 調査結果

MODEL HOUSE の第 1 期入居者からは、生活状況について以下のように聴取した。

図表 II - 1 MODEL HOUSE 第 1 期入居者から聴取した生活状況

項目	聴取内容
セルフケア（健康管理、身だしなみ等）	<ul style="list-style-type: none">・これまでストレスがたまつた時は人に相談したり、寝たり散歩したりしていた。現在も体調は変わらず良好だが、働くようになり仕事に関するストレスがたまるようになり、基本的に寝不足である。ただ、そういう時は周囲に相談し、いろいろな意見をもらい視野を広げられている。なお、エアコンがないため、体調を崩しやすくなつたかもしれない。<ul style="list-style-type: none">・実家にいた時は近所に医療機関があったが、清滝団地ではどこに行けばよいか分からなかつたため、体調を崩した際はとにかく寝ていた。・一人暮らし始めたので、自炊しているが偏った食事になっている。そのため、栄養を取れているかどうか不安。野菜不であるが、どうやって取ればいいのか分からない。・食生活の乱れ（野菜を食べない、コンビニのパスタが好き）。・身体的な健康はあまり変わりないが、精神的健康だったら今のはうがよい。
必需品の入手（住居、物品やサービスの入手等）	<ul style="list-style-type: none">・日常生活を送る上で起こるトラブル（家の維持管理）にどのように対応すればいいか困ったことはあった。実家暮らしの時は、例えばトイレ詰まりや台所のサビ取り等は親が

	<p>対応してくれていたが、MODEL HOUSE に来てからはポストに貼ってあった水のトラブル処理業者に自ら電話するようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上層階のため、水や大型家具を運んで上がれないのが難点。冷蔵庫がなく、MODEL HOUSE の共用部分にあたるコミュニティースペース（1 階）を利用している。インターネットで宅配も含め利用し始めているが、配送料がかかる場合はためらってしまう。 ここに来るまで重ねてきた苦労に比べると、今の暮らしはとても良いと感じる。何か失敗や不便があっても、自分のこととして捉えて解決ができる。 一人暮らしが初めてで、かつ段取りを組み立てるのが苦手なので、働きながら生活環境を整えるのに苦労した。
家事（調理、掃除、洗濯等）	<ul style="list-style-type: none"> 収納のやり方が分からず、どこに何を片付けたら良いか分からないため、部屋の片付けには苦手意識があるが、コミュニティースペースは片付けている。周囲に迷惑をかけたくない、周囲の目が気になると感じる。 強制的にする環境にあえて自分を置いた。実家にいるときよりは家事などを自然とやるようになった。 仕事が忙しすぎて家事をする時間がない。 実家にいたときには部屋が散らかっていたが、いまはキレイに保てている。
対人関係	<ul style="list-style-type: none"> 仕事の都合で深夜帰宅になるが、MODEL HOUSE の入居者や地域住民とトラブルなく生活している。地域住民には自分から挨拶するようにしているが、生活の時間帯が合わないため、自治会費納入で確認印をもらえず苦労している。 コミュニティースペースを使いたいことがあっても、時間をずらして使っていた。他人から情報が漏れてしまうのではないかと不安があり、誰にも何も相談できないことがあった。 職場でもプロジェクトでも一步踏み込んだ関係性に発展させることが苦手。 自分から人との関係を作っていくことが苦手である。 自分の考えや感情を言葉にして伝えることが苦手である。 困った時に相談したり助けを求めることが苦手である。
教育（職業訓練等）	－
仕事と雇用	<ul style="list-style-type: none"> 通勤に苦労するため、もう少し駅までの距離が近ければよいと感じている。 対人関係、自分がこの仕事であっているかどうか、仕事がんばりがち・やりすぎるところがあるので、プライベートのバランスも考える。 1 年以上仕事していない状態だから、仕事をどうやって探すか、どうやって応募するかも分からなかった。働き始めてからは、体力面でのしんどさがある。また志望理由（調理）と異なる業務（接客）をやる上で意欲がわからなかつたが、異なる業務にも面白さを感じた。一方で、接客業務は慣れないためにストレスを感じることもある。 求人を見ても自分が何をしたいかが分からない。 周りに迷惑をかけてないかなという心配が一番あった。 ちゃんと遅刻せずに行けるか分からないという不安があった。 職場で後輩が出来た時にどのように接していくのか分からない不安があった。

経済生活（買い物、契約、金銭管理等）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の固定費を計算し、貯蓄に充てられている。光熱費は安く助かっており、貯金も計画的に進められている。ただし、健康保険料や急な出費への対応など、考えなければならぬことも増えてきた。 ・金銭管理が苦手である。支出の管理ができない。また、収入も不規則なので、どんなだけ入ってくるかが事前に予測できない。 ・水光熱費以外は支出を把握していない。 ・家賃がかかっていないのに家計がギリギリなので将来やっていけるかという不安がある。 ・一人暮らし自体が初めてで、水道電気ガスの申し込みのやり方が書いてはあるけど、ちゃんと出来ているかなという不安があった。 ・一人暮らし始めてから貯金するようになった。 ・貯金がいまの状況では出来ない。
コミュニティライフ・社会生活・市民生活（余暇等）	<ul style="list-style-type: none"> ・団地の地理的特性上、外出にはそれなりに時間かける“覚悟”がいる。予定を詰め込みすぎるといいが、暇だと不安になり、何もしなかった日などは罪悪感がある。時間の使い方に困る面もあるが、他の入居者の話を聞く中で、図書館に行くようになった。 ・地域の方々からどう思われているのか分からず、就職支援を兼ねて来ている若者と認識しているので、「仕事どう？見つかった？」と声をかけてくださるが、「ちゃんと仕事見つかりました！」とは答えられていないので、それを聞いて近所の方がどう感じているのか気になる。 ・時間管理が下手なので、休日は予定を入れないと昼過ぎまでだらけてしまことがある。 ・地域の人とはほどよい距離感なので困ったことがない。
支援と関係（家族、友人、地域等）	<ul style="list-style-type: none"> ・“ご近所の目”を初めて経験した。洗濯物を干しているか、ごみを出したか、といったことが見られている。ただ、地域に住む以上、そういうことも仕方ないと思えるようになった。同様に、HELLOlife に対してもコミュニティスペースの利用で迷惑をかけてはいけないと意識があって、スリッパの導入などを提案した。 ・色々うるさくされていたので家族との関係が嫌だったが、離れて暮らして仕事始めて応援してくれるようになった。
態度（家族、友人、地域等）	<ul style="list-style-type: none"> ・親と物理的に切り離されたことで、自分の人生を考えられるようになったと感じる。友人には、遊びにくくなった、付き合いが悪くなつた、と思われているかもしれない。 ・定期的に実家に帰っており、完全に親元を離れられていない。

(2) 関係者及び先行事例実施団体との意見交換

MODEL HOUSE を取り巻く関係者や、MODEL HOUSE にとって参考に資する取組みを先行的に実施している団体を対象として個別の意見交換を実施した。なお、ここでは若者地域生活ニーズを検討する観点から、調査結果のうち「若者地域生活ニーズに関する認識」のみについて抜粋し整理している。他の調査項目を含めた意見交換メモは、巻末で参考資料として掲載した。

①調査対象

MODEL HOUSE の主要な関係者のうち事業立案段階から協力を得てきた大阪府と、MODEL HOUSE と支援対象層が類似しており事業内容としても多面的な取組を展開している実績を有する団体に、意見交換への協力を依頼した。ご協力いただいたのは以下の 5 団体である。

- ・大阪府住宅まちづくり部住宅経営室
- ・大阪府商工労働部雇用推進室就業促進課
- ・公益財団法人京都市ユースサービス協会
- ・株式会社 K2 インターナショナルジャパン
- ・大東ビジネス創造センター（D-Biz）

②調査項目

大阪府の 2 課及び D-Biz は MODEL HOUSE の直接的ステークホルダーでもあるため、若者地域生活ニーズに関する認識、及び MODEL HOUSE プロジェクトのあり方に関する意見を求めた。京都市ユースサービス協会、K2 インターナショナルジャパン、及び D-Biz には、先行事例実施団体として、団体事業概要と若者地域生活ニーズに関する認識を尋ねた。

○ステークホルダーへの調査項目

- ・若者地域生活ニーズに関する認識
- ・MODEL HOUSE プロジェクトのあり方に関する意見

○先行事例実施団体への調査項目

- ・団体・事業概要
- ・若者地域生活ニーズに関する認識

③調査結果（若者地域生活ニーズに関する認識）

調査対象からは、若者地域生活ニーズに関して大きく 3 種類の意見が示された。第一に、若者自身がどのようなニーズを有しているかについてであり、これはニーズの保有者（=若者自身）が自覚的に何をしたいか・してほしいかを認識していることが前提である。これを「狭義のニーズ」とした場合、第二に、若者自身ではなくその周辺（親など）に必要だったり、若者自身がニーズを自覚していないても支援者が必要だと感じたりするもの（広義のニーズ）も挙げられた。また、第三に、ステークホルダーから若者に向けられている期待と、その結果として提供される機会についても、若者のニーズを充足させたり引き出したりする可能性があることから、ここで記載した。

○若者自身のニーズ（狭義のニーズ）

- ・自分で稼いで生活できる状態を「自立」と考えているが、経済面以外でも自立が求められる。「自立」を他者に頼らないで生活できる状態だと考える若者も多いが、何かの時に頼ることができる周囲とのネットワークを形成した状態だと考えるべきである。いまの若者は、それがうまくできていない。（就業促進課）
- ・同じ若者でもニーズや生活実態は異なり、例えば中学生は学校と家がすべてという子どもが多い。学校や家庭以外の第 3 の場で、子どもから大人まで多様な人がいて、必要があればだれかに相談することができる事が重要。また、地域の中で何か活動することがあることは子どもにとって非常に大きな学びにもなる。（京都市ユースサービス協会）

- ・対象者にはコミュニケーションに課題を抱える若者が多く、近くに相談相手がいるかどうかで生活のレベルは格段に変わる。本人が自覚的にソーシャル・スキル・トレーニングのようなことを望んでいるケースもある。（K2 インターナショナル）

○若者に関連した周辺のニーズ（広義のニーズ）

- ・若者自身の「ニーズ」と言っても、本人が必要だと考えていることと、周囲がその若者に必要だと考えていること（潜在的ニーズ）は別である。大人がエンパワーメントしながら社会として受け入れることが必要。（就業促進課）
- ・若者の地域生活を考える上では、若者だけの課題でなく、その親世代が地域とつながっていない、という課題も同時に存在する。社会とのつながりに対するニーズは高い一方で、つながりを感じる場所が少ない。（京都市ユースサービス協会）
- ・若者を取り巻く人間関係、特に親への支援も切り離せない課題であり、介護なども含め親が抱える問題への対応も担っていきたいと考えている。これは広い意味では若者のニーズでもあり、地域のニーズでもある。（K2 インターナショナル）

○若者に提供される期待・機会

- ・公営住宅は高齢化等で地域コミュニティの活力の低下が課題となっており、若者が自治会や地域活動の担い手として活躍するような取組みが必要と考えている。（住宅経営室）
- ・大東市は地域の活動も活発で、地元志向・地元愛は強い。企業経営者も理想を言えば地元の若者を採用したいと考える傾向がある。企業はよく「即戦力」と言うが定義は明確でなく、多くの場合は企業内が多忙すぎるため「教えなくてもできる人」を意味する。しかし、教える人がいなければ、その企业文化に溶け込むことや実務分野の貢献や改善をしたりするのは無理である。新しい人材を受け入れる体制・仕組みを考えていない企業は結果的に離職率も高い。（D-Biz）

4. MODEL HOUSE がサービス提供を目指す若者地域生活ニーズ

文献調査とインタビュー調査、及び MODEL HOUSE の今後の事業展開に関する方向性を踏まえ、本調査では若者地域生活ニーズを「就労」「生活」「社会参加」「親からの自立」の 4 側面からなる 26 項目で構成されるものとした。

図表 II - 2 本調査における「若者地域生活ニーズ」構成項目

側面	項目
就労 (5 項目)	安定しており、生活する上で困らない収入を得られること
	継続して働き続けられる仕事があること
	就労に関する情報（企業情報・就労支援団体など）にアクセスできること
	就労に関して相談できる人・団体がいること
	今後のキャリアにおけるロールモデルがいること
生活 (8 項目)	必要な物品（食料・衣服）を必要なときにいつでも購入できること
	定期的に休暇を得られること
	趣味があること（気晴らしができること）
	生活リズムが規則的なこと
	（必要な時に）医者にかかれること
	生活に困ったときに相談できる人・団体がいること
	（必要な時に）生活保護を受給できること
	（必要な時に）死亡・障がい・病気などに備えるための保険に加入していること
社会参加 (6 項目)	安心できる居場所があること
	友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑であること
	友人や周囲の人から尊重されていると感じられること
	友人や周囲の人との人間関係に困ったときに相談できる人・団体がいること
	コミュニティ活動など地域とのつながりがあること
	他者へ貢献できていると感じられること
親からの 自立 (7 項目)	家族との関係が良好であること
	困ったときに家族に相談できること
	家族から尊重されていると感じられること
	家族関係に困ったときに相談できる人・団体がいること
	住まいが劣悪な環境ではないこと（雨漏り・冷暖房などの故障）
	家賃が安い住居を得られること
	転居に関して必要な情報にアクセスできること

第 III 章 四條畷市における先行調査（若者地域生活ニーズに関する実態調査結果）

1. 実施概要

若者が地域で安定的に働きながら暮らすことに対してどのようなニーズ（若者地域生活ニーズ）を有しているかを明らかにするとともに、試行的な取組として実施した MODEL HOUSE プロジェクトに対する潜在的な対象者がどの程度地域にいるか、またどのような支援が求められているかについて、定量的に把握・整理することが求められる。

本調査では、下記の通り、アンケート調査を大阪府四条畷市において先行的に実施した。

図表 III - 1 四條畷市におけるニーズ調査の先行実施の概要

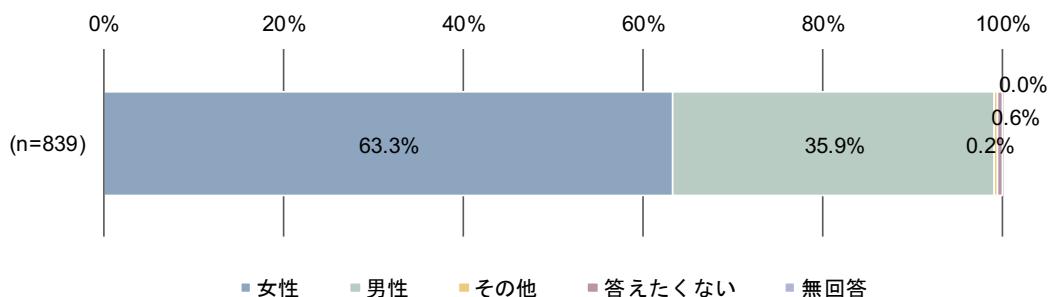
調査名	若者地域生活ニーズに関する実態調査
調査期間	平成 31 年 3 月 28 日（木）～4 月 10 日（水）【2 週間】
調査実施体制	実施主体：NPO 法人 HELLOlife 調査委託先：三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング（株）
調査手法	ウェブアンケート調査 ※ウェブアンケート画面の URL・QR コードを記載したはがきを郵送配布
調査対象	四條畷市在住の満 19～満 39 歳男女 6,995 名 ※四條畷市の住民基本台帳から 7,000 名を抽出、うち調査票不着を除く 6,995 名が対象
回収状況	回収数 857 件 / 回収率 12.3% 有効回収数 839 件 / 有効回収率 12.0%
調査項目	<p>【調査項目】</p> <p>(1) 回答者属性 性別、年齢、職業、就業希望の有無、年収（個人）、年収（世帯）、生活する上での主な収入源、雇用保険の加入の有無、住居形態、同居家族、ひとり暮らしの希望の有無、ひとり暮らしを希望する理由</p> <p>(2) 若者地域生活ニーズに関する設問 「就労」「生活」「社会参加」「親からの自立」の 4 側面に関する生活する上でのニーズ（「重要度」及び「充足度」を把握）</p> <p>(3) 住まいに求める機能に関する設問 「物件の設備・仕様」「コミュニケーション・地域参加」「支援」の 3 つの側面に関する住まいに求める機能</p>
調査結果を見る上で注意点	<ul style="list-style-type: none">本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数を指す。百分率（%）の計算は、小数第 2 位を四捨五入し、小数第 1 位まで表示している。したがって、四捨五入の影響で、%を足しあわせて 100%にならない場合や、文中に記述する合計値（%）がグラフ上で表示されている値（%）を足し合わせた値と合致しない場合がある。本文中の%の小計は、各項目の値を四捨五入した上で足し合っている。回答者数が 30 未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

2. 回答者属性

(1) 性別

回答者属性の性別について、「女性」と回答する割合が63.3%であり、「男性」が35.9%である。

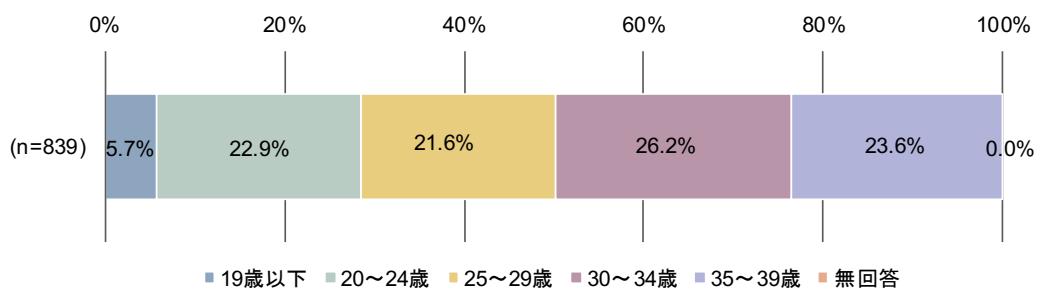
図表 III - 2 性別



(2) 年齢

回答者属性の年齢について、「30~34歳」と回答する割合が26.2%で最も高く、次いで「35~39歳」(23.6%)、「20~24歳」(22.9%)である。

図表 III - 3 年齢



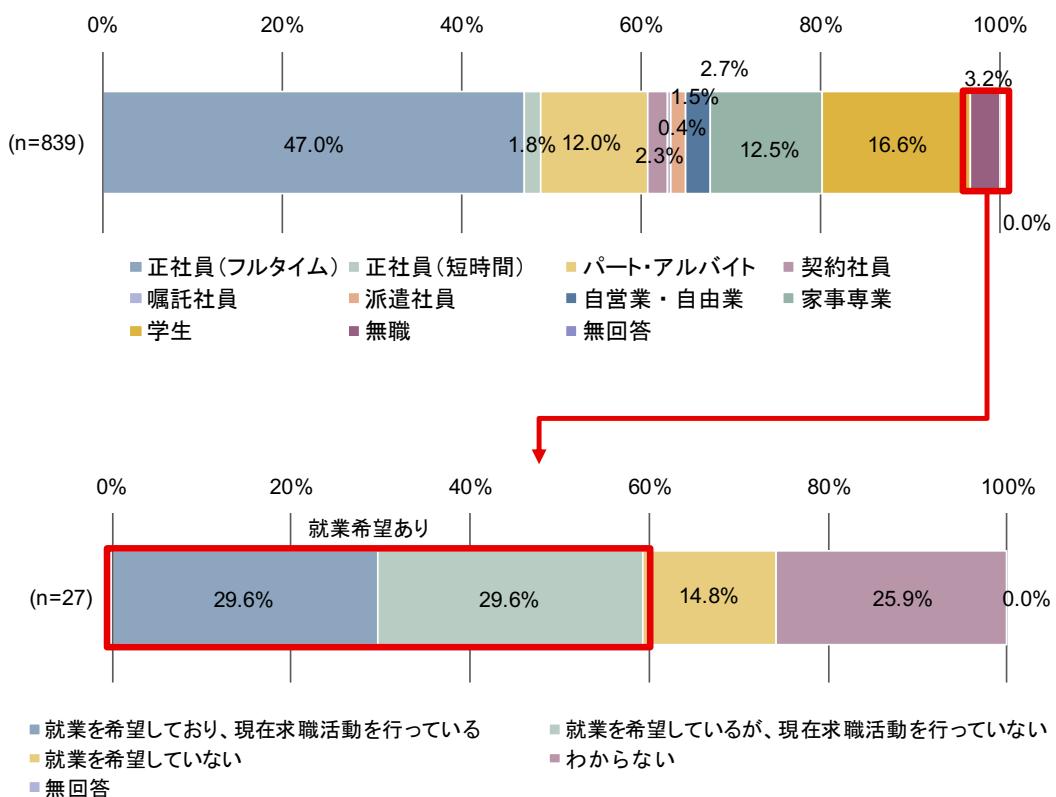
3. 若者の雇用状況

(1) 雇用状況

雇用状況について、「正社員（フルタイム）」と回答する割合が47.0%で最も高く、「正社員（短時間）」(1.8%)と合わせると正規雇用は48.7%に上る。一方で、非正規雇用（「パート・アルバイト」「契約社員」「嘱託社員」「派遣社員」の合計値）は16.2%であり、「無職」と回答する割合は3.2%である。

また、「無職」と回答した方の就業希望の有無については、就業希望ありと回答する割合²は59.3%であり、うち現在就職活動を行っていると回答する割合は29.6%である。

図表 III - 4 [上段] 職業／
[下段]（「無職」を選択した方のうち）就業希望の有無



² 「就業を希望しており、現在求職活動を行っている」「就業を希望しているが、現在求職活動を行っていない」の合計値

(2) 回答者本人の収入及び世帯年収

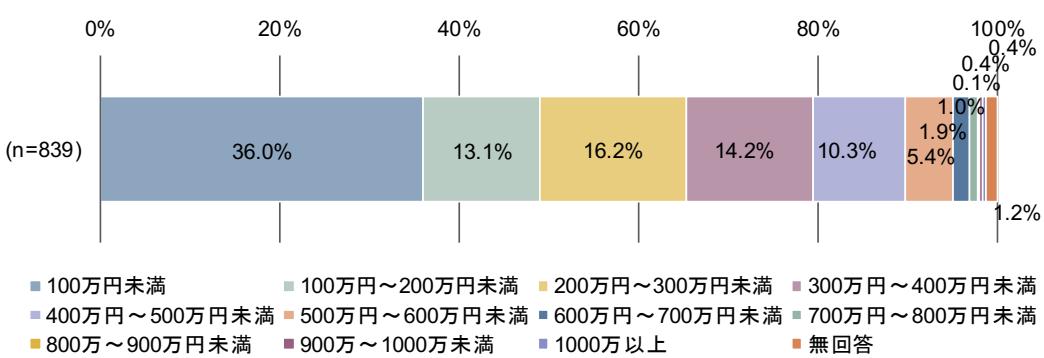
回答者本人の収入（年間）について、「100万円未満」と回答する割合が36.0%で最も多く、次いで「200万円～300万円未満」(16.2%)、「300万円～400万円未満」(14.2%)である。

職業別にみると、正社員で「200万円～300万円未満」「300万円～400万円未満」「400～500万円未満」、「パート・アルバイト」で「100万円～200万円未満」と回答する割合が全体と比較して高い傾向にある。

次に、世帯収入（年間）については、「300万円～500万円未満」と回答する割合が25.6%で最も高く、次いで「500万円～700万円未満」(21.5%)である。

また、生活を送る上で主な収入源をみると、「あなた（回答者）自身の収入」と回答する割合が41.0%で最も高く、次いで「配偶者・パートナーの収入」(30.6%)、「親の収入」(27.5%)である。

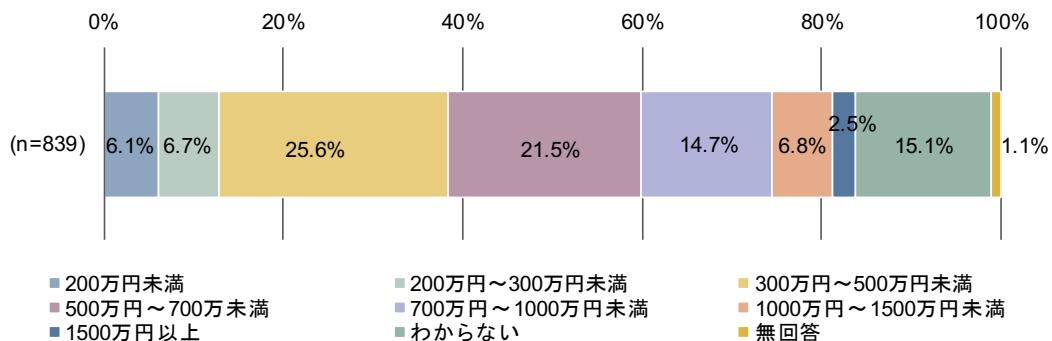
図表 III - 5 回答者本人の収入（年間）



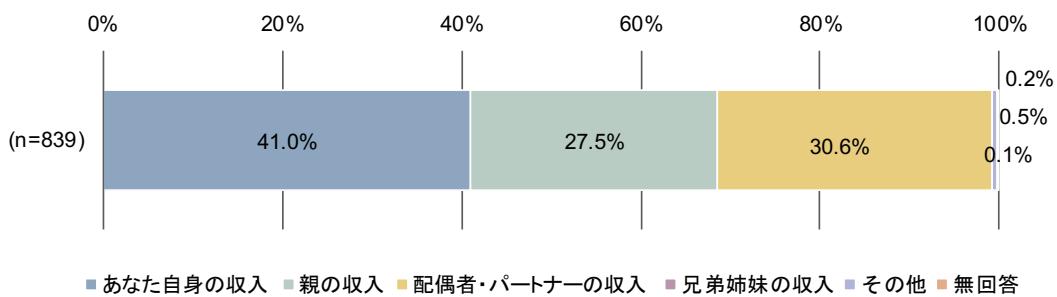
図表 III - 6 【職業別】回答者本人の収入（年間）

	合計	100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900～1000万円未満	1000万円以上	無回答
合計	839	302	110	136	119	86	45	16	8	1	3	3	10
	100.0%	36.0%	13.1%	16.2%	14.2%	10.3%	5.4%	1.9%	1.0%	0.1%	0.4%	0.4%	1.2%
正社員 (フルタイム)	394	5	19	106	110	83	42	15	7	1	2	3	1
	100.0%	1.3%	4.8%	26.9%	27.9%	21.1%	10.7%	3.8%	1.8%	0.3%	0.5%	0.8%	0.3%
正社員 (短時間)	15	2	3	6	3	1	0	0	0	0	0	0	0
	100.0%	13.3%	20.0%	40.0%	20.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
パート・ アルバイト	101	45	50	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	100.0%	44.6%	49.5%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
契約社員	19	0	9	7	1	1	0	0	1	0	0	0	0
	100.0%	0.0%	47.4%	36.8%	5.3%	5.3%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
嘱託社員	3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
派遣社員	13	0	8	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0%	0.0%	61.5%	30.8%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自営業・自 由業	23	6	6	3	3	0	3	1	0	0	1	0	0
	100.0%	26.1%	26.1%	13.0%	13.0%	0.0%	13.0%	4.3%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%
家事専業	105	100	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
	100.0%	95.2%	0.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%
学生	139	126	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	100.0%	90.6%	7.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%
無職	27	18	4	3	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	100.0%	66.7%	14.8%	11.1%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%

図表 III - 7 世帯収入（年間）



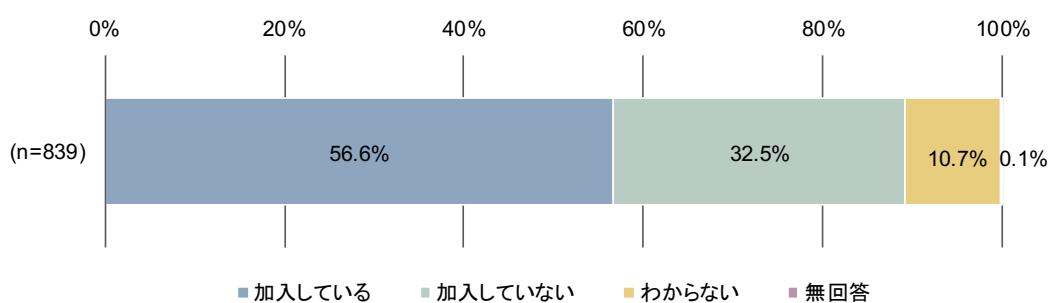
図表 III - 8 主な収入源



(3) 雇用保険の加入の有無

雇用保険の加入の有無について、「加入している」と回答する割合は 56.6% であり、「加入していない」(32.5%) を上回る。

図表 III - 9 雇用保険の加入の有無



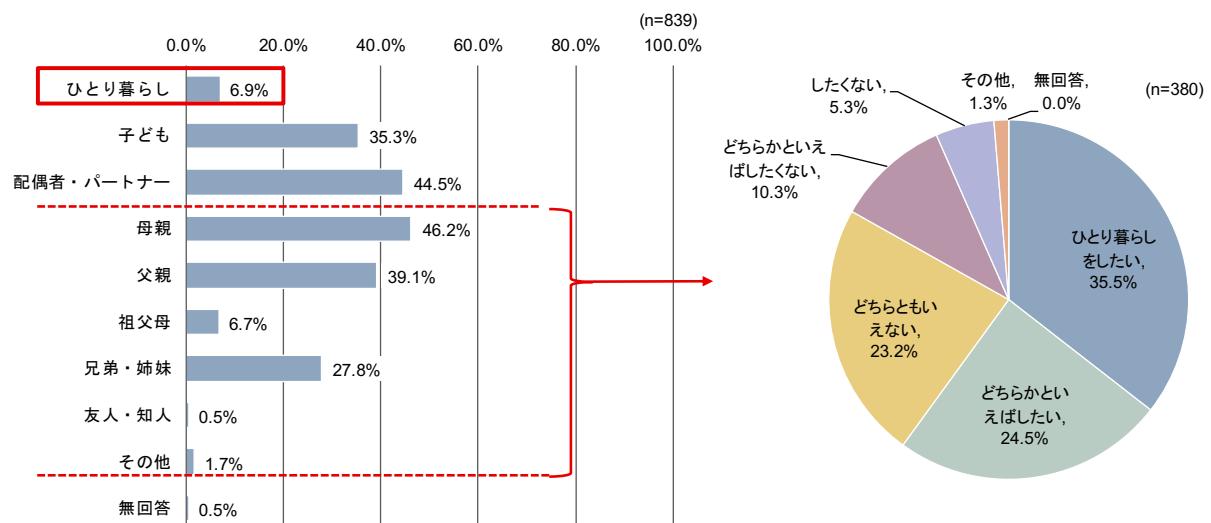
4. 若者のひとり暮らしへの意向

(1) 同居家族の有無・構成、ひとり暮らしの意向の有無

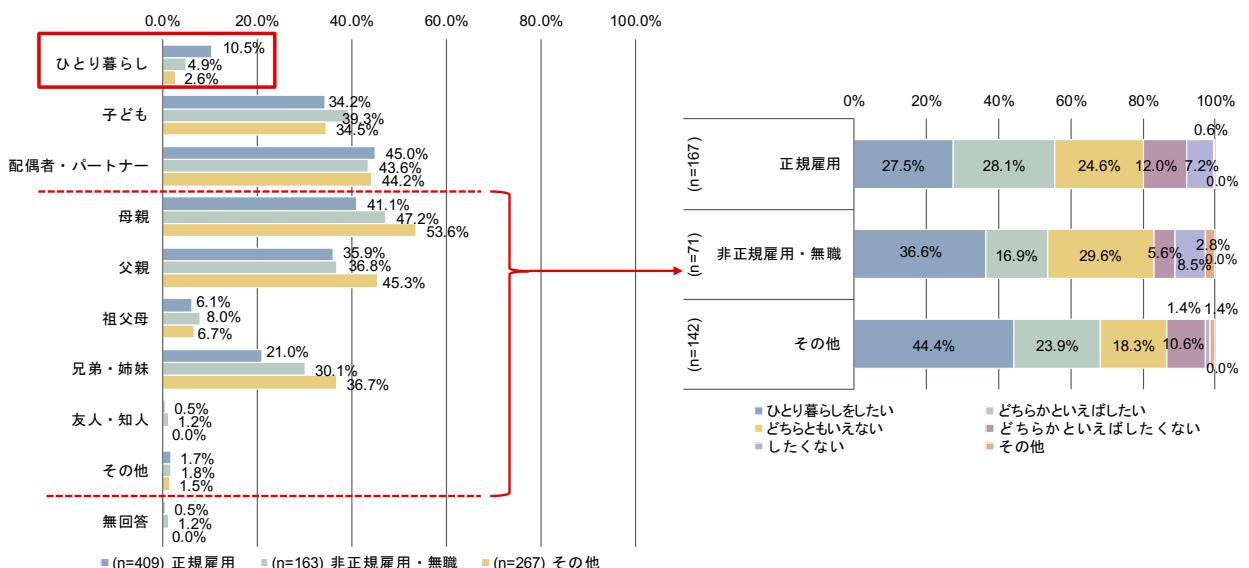
現在、「ひとり暮らし」をしている割合は6.9%であり、9割程度が「同居家族あり」（「子ども」「配偶者・パートナー」「母親」「父親」「祖父母」「兄弟・姉妹」「知人・友人」「その他」のいずれかを選択）と回答している。また、現在「同居家族あり」と回答している回答者について、ひとり暮らしの意向の有無をみると、「ひとり暮らしをしたい」（35.5%）が最も高く、次いで「どちらかといえばひとり暮らしをしたい」（24.5%）であり、約6割がひとり暮らしの意向があるといえる。

就業状態別にみると、「正規雇用」で「ひとり暮らし」の割合は10.5%であるのに対して、「非正規雇用・無職」では4.9%に留まる。また、ひとり暮らしの意向の有無をみると、「ひとり暮らしをしたい」「どちらかといえばひとり暮らしをしたい」と回答する割合の合計値は、「正規雇用」と「非正規雇用・無職」で大きな差はないが、一方で「ひとり暮らしをしたい」と回答する割合だけをみると「正規雇用」では27.5%であるのに対して、「非正規雇用・無職」は36.6%に上る。

図表 III - 10 【左】同居家族の有無・構成／【右】ひとり暮らしの意向



図表 III - 11 【左】【就業状態別】同居家族の有無・構成／【右】【就業状態別】ひとり暮らしの意向

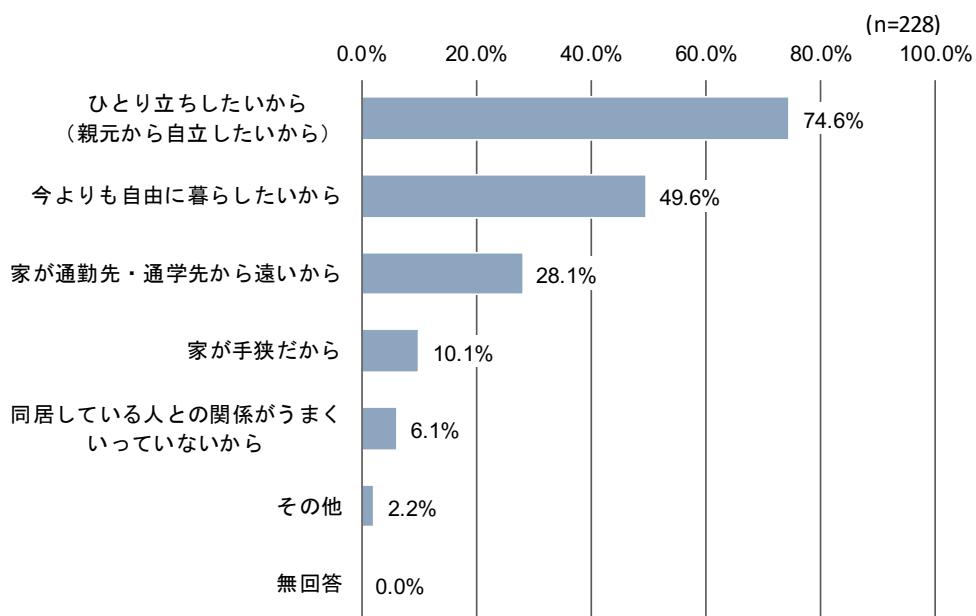


(2) ひとり暮らしを希望する理由

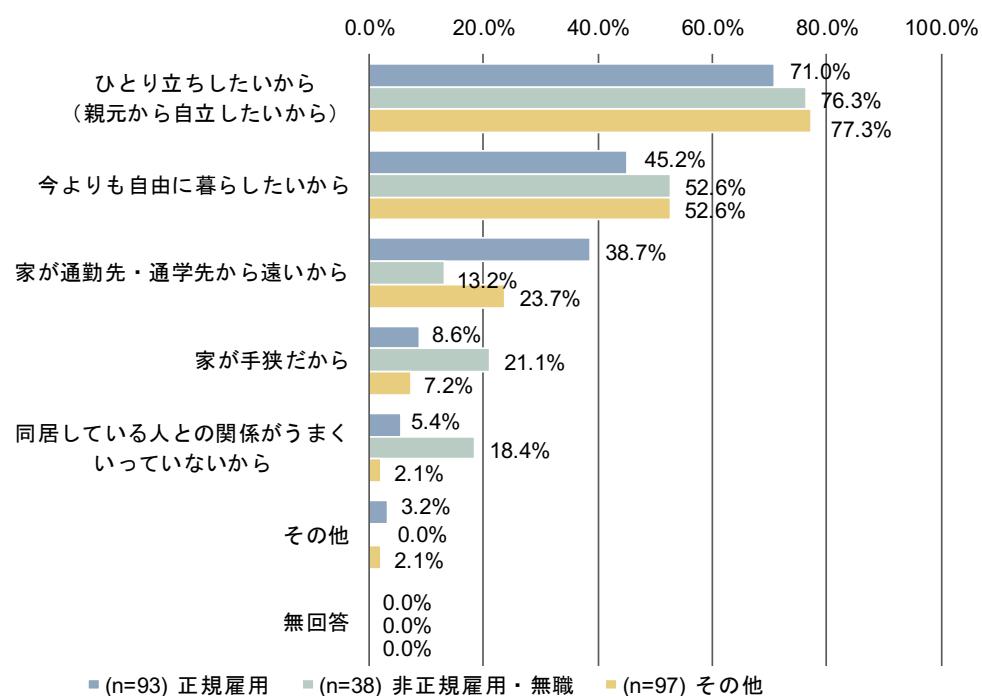
ひとり暮らしを希望する理由について、「ひとり立ちしたいから（親元から自立したいから）」と回答する割合が74.6%で最も多く、次いで「今よりも自由に暮らしたいから」(49.6%)、「家が通勤先・通学先から遠いから」(28.1%)である。

就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」では、特に「家が手狭だから」「同居している人との関係がうまくいっていないから」と回答する割合が「正規雇用」と比較して高い。

図表 III - 12 ひとり暮らしを希望する理由



図表 III - 13 【就業状態別】ひとり暮らしを希望する理由



5. 若者地域生活ニーズ

(1) 「就労」に関するニーズ

① 重要度について

「就労」に関するニーズについて、「重要度」³をみると、「安定しており、生活する上で困らない収入を得られること」が重要であると回答する割合が97.1%で最も高く、次いで「継続して働き続けられる仕事があること」(92.1%)、「就労に関して相談できる人・団体がいること」(67.9%)である。

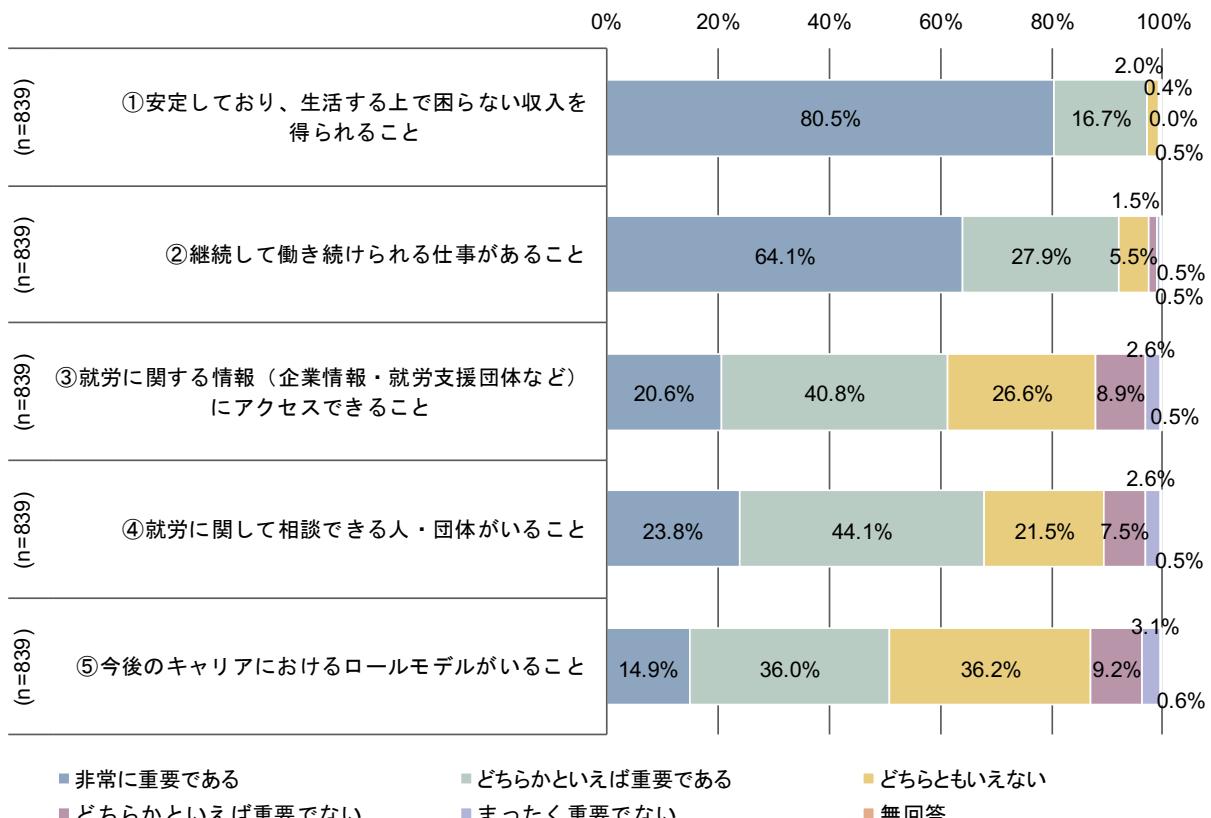
就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」で「今後のキャリアにおけるロールモデルがいること」が重要であると回答する割合は、「正規雇用」と比較して低い。

② 充足度について

「充足度」⁴をみると、重要度が高かった「安心しており、生活する上で困らない収入を得られること」では63.3%、「継続して働き続けられる仕事があること」では61.4%であった。また、「就労に関する情報にアクセスできること」「就労に関して相談できる人・団体がいること」「キャリアにおけるロールモデルがいること」といった項目の充足度はいずれも過半数を下回っている。

就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」で「安定しており、生活する上で困らない収入を得られること」「継続して働き続けられる仕事があること」「今後のキャリアにおけるロールモデルがいる」が充足していると回答する割合は、「正規雇用」と比較して低い。

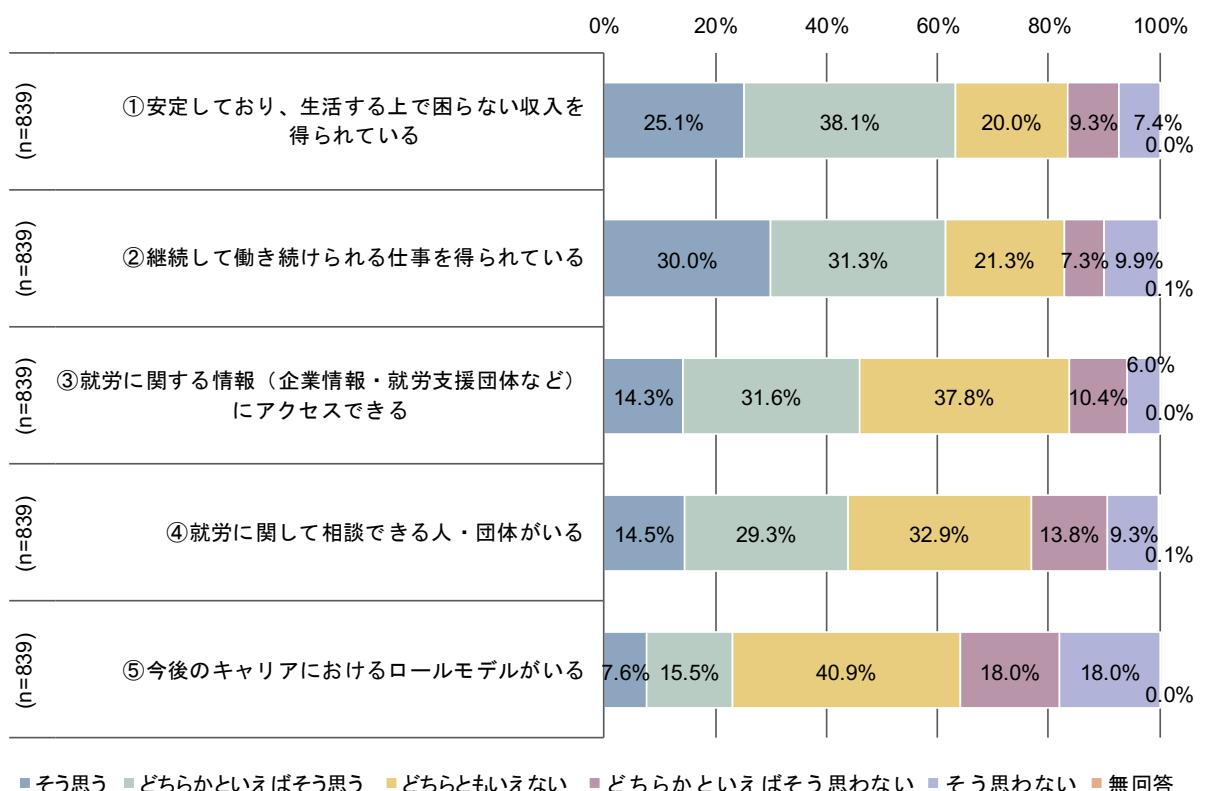
図表 III - 14 【重要度】「就労」に関するニーズ



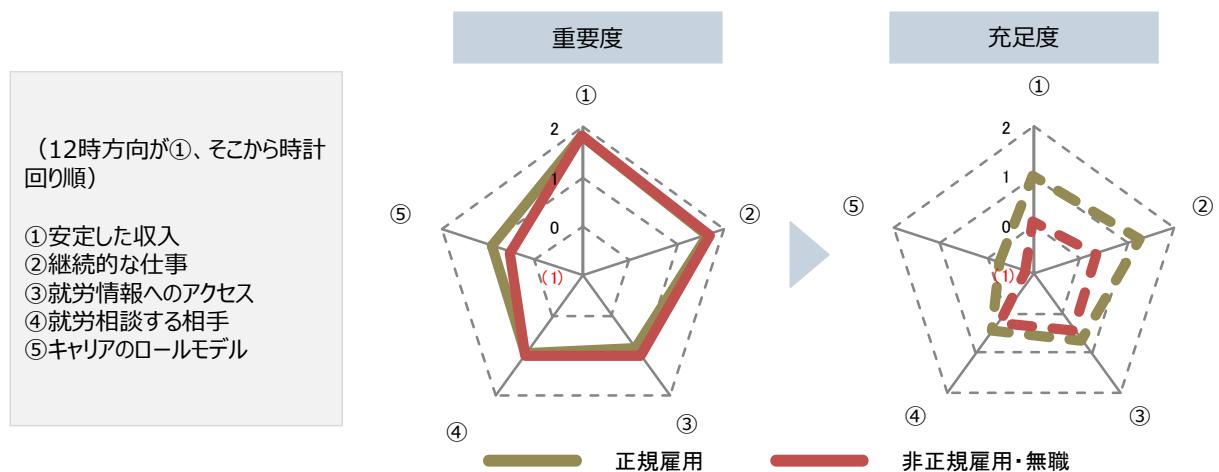
³ 「重要度」とは「非常に重要である」「どちらかといえば重要である」と回答した割合の合計値を指す（以下、同様）

⁴ 「充足度」とは「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の合計値を指す（以下、同様）

図表 III - 15 【充足度】「就労」に関するニーズ



図表 III - 16 【就業状態別】「就労」に関するニーズ⁵



⁵ 各項目の「重要度」と「充足度」について、選択肢をスコア化した上で評価点を算出している。算出方法は、図表 III - 34 及び図表 III - 35 に詳述

図表 III - 17 【就業状態別】【重要度】「就労」に関するニーズ

【重要度】	上段：回答数 下段：割合(%)	合計	非常に 重要で ある	どちらか といえ ば重要 である	どちらと もいえな い	どちらか といえ ば重要で ない	まったく 重要で ない	無回答
①安定しており、生活する上で困らない収入を得られること	合計	839	675	140	17	3	0	4
		100.0%	80.5%	16.7%	2.0%	0.4%	0.0%	0.5%
	正規雇用	409	335	66	3	2	0	3
		100.0%	81.9%	16.1%	0.7%	0.5%	0.0%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	129	28	6	0	0	0
		100.0%	79.1%	17.2%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	267	211	46	8	1	0	1
		100.0%	79.0%	17.2%	3.0%	0.4%	0.0%	0.4%
②継続して働き続けられる仕事があること	合計	839	538	234	46	13	4	4
		100.0%	64.1%	27.9%	5.5%	1.5%	0.5%	0.5%
	正規雇用	409	272	108	19	4	3	3
		100.0%	66.5%	26.4%	4.6%	1.0%	0.7%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	109	40	12	1	1	0
		100.0%	66.9%	24.5%	7.4%	0.6%	0.6%	0.0%
	その他	267	157	86	15	8	0	1
		100.0%	58.8%	32.2%	5.6%	3.0%	0.0%	0.4%
③就労に関する情報（企業情報・就労支援団体など）にアクセスできること	合計	839	173	342	223	75	22	4
		100.0%	20.6%	40.8%	26.6%	8.9%	2.6%	0.5%
	正規雇用	409	79	154	114	46	13	3
		100.0%	19.3%	37.7%	27.9%	11.2%	3.2%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	34	66	48	11	4	0
		100.0%	20.9%	40.5%	29.4%	6.7%	2.5%	0.0%
	その他	267	60	122	61	18	5	1
		100.0%	22.5%	45.7%	22.8%	6.7%	1.9%	0.4%
④就労に関して相談できる人・団体がいること	合計	839	200	370	180	63	22	4
		100.0%	23.8%	44.1%	21.5%	7.5%	2.6%	0.5%
	正規雇用	409	98	172	87	35	14	3
		100.0%	24.0%	42.1%	21.3%	8.6%	3.4%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	33	76	38	12	4	0
		100.0%	20.2%	46.6%	23.3%	7.4%	2.5%	0.0%
	その他	267	69	122	55	16	4	1
		100.0%	25.8%	45.7%	20.6%	6.0%	1.5%	0.4%
⑤今後のキャリアにおけるロールモデルがいること	合計	839	125	302	304	77	26	5
		100.0%	14.9%	36.0%	36.2%	9.2%	3.1%	0.6%
	正規雇用	409	77	147	136	32	13	4
		100.0%	18.8%	35.9%	33.3%	7.8%	3.2%	1.0%
	非正規雇用・無職	163	15	57	64	20	7	0
		100.0%	9.2%	35.0%	39.3%	12.3%	4.3%	0.0%
	その他	267	33	98	104	25	6	1
		100.0%	12.4%	36.7%	39.0%	9.4%	2.2%	0.4%

図表 III - 18 【就業状態別】【充足度】「就労」に関するニーズ

【充足度】	上段：回答数 下段：割合(%)	合計	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえない	どちらか といえば そう思わない	そう思わ ない	無回答
①安定しており、生活する上で困らない収入を得られること	合計	839	211	320	168	78	62	0
		100.0%	25.1%	38.1%	20.0%	9.3%	7.4%	0.0%
	正規雇用	409	113	179	70	26	21	0
		100.0%	27.6%	43.8%	17.1%	6.4%	5.1%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	23	52	31	26	31	0
		100.0%	14.1%	31.9%	19.0%	16.0%	19.0%	0.0%
	その他	267	75	89	67	26	10	0
		100.0%	28.1%	33.3%	25.1%	9.7%	3.7%	0.0%
②継続して働き続けられる仕事があること	合計	839	252	263	179	61	83	1
		100.0%	30.0%	31.3%	21.3%	7.3%	9.9%	0.1%
	正規雇用	409	171	159	50	19	10	0
		100.0%	41.8%	38.9%	12.2%	4.6%	2.4%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	33	52	31	18	29	0
		100.0%	20.2%	31.9%	19.0%	11.0%	17.8%	0.0%
	その他	267	48	52	98	24	44	1
		100.0%	18.0%	19.5%	36.7%	9.0%	16.5%	0.4%
③就労に関する情報（企業情報・就労支援団体など）にアクセスできること	合計	839	120	265	317	87	50	0
		100.0%	14.3%	31.6%	37.8%	10.4%	6.0%	0.0%
	正規雇用	409	60	132	154	44	19	0
		100.0%	14.7%	32.3%	37.7%	10.8%	4.6%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	20	49	61	18	15	0
		100.0%	12.3%	30.1%	37.4%	11.0%	9.2%	0.0%
	その他	267	40	84	102	25	16	0
		100.0%	15.0%	31.5%	38.2%	9.4%	6.0%	0.0%
④就労に関して相談できる人・団体がいる	合計	839	122	246	276	116	78	1
		100.0%	14.5%	29.3%	32.9%	13.8%	9.3%	0.1%
	正規雇用	409	57	128	132	64	27	1
		100.0%	13.9%	31.3%	32.3%	15.6%	6.6%	0.2%
	非正規雇用・無職	163	22	42	54	26	19	0
		100.0%	13.5%	25.8%	33.1%	16.0%	11.7%	0.0%
	その他	267	43	76	90	26	32	0
		100.0%	16.1%	28.5%	33.7%	9.7%	12.0%	0.0%
⑤今後のキャリアにおけるロールモデルがいる	合計	839	64	130	343	151	151	0
		100.0%	7.6%	15.5%	40.9%	18.0%	18.0%	0.0%
	正規雇用	409	33	74	157	81	64	0
		100.0%	8.1%	18.1%	38.4%	19.8%	15.6%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	9	16	69	26	43	0
		100.0%	5.5%	9.8%	42.3%	16.0%	26.4%	0.0%
	その他	267	22	40	117	44	44	0
		100.0%	8.2%	15.0%	43.8%	16.5%	16.5%	0.0%

(2) 「生活」に関するニーズ

① 重要度について

「生活」に関するニーズについて、「重要度」をみると、「定期的に休暇を得られること」が重要であると回答する割合が95.2%で最も高く、次いで「医者にかかること」(94.0%)、「趣味があること」(91.9%)である。

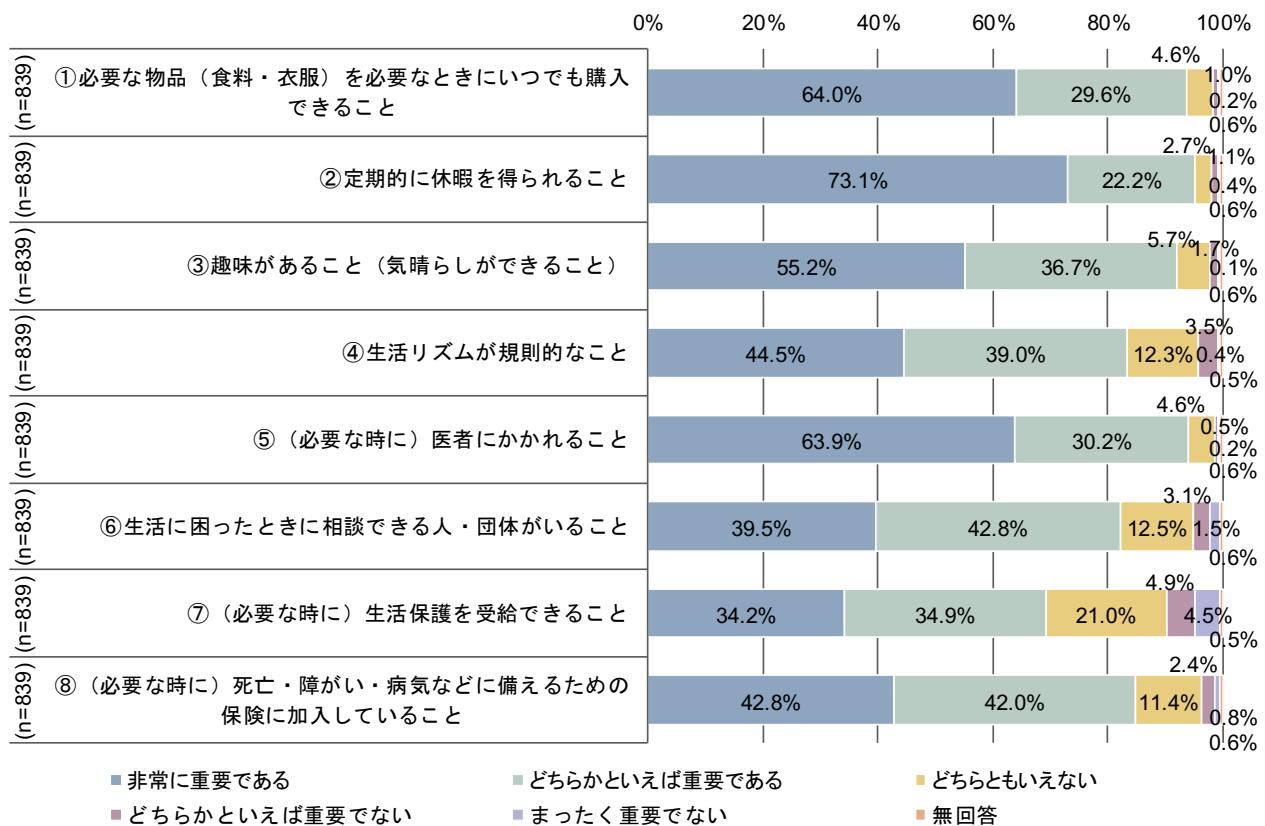
就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」で「生活に困ったときに相談できる人・団体がいること」「生活保護を受給できること」が重要であると回答する割合は「正規雇用」と比較して若干高い傾向にある。

② 充足度について

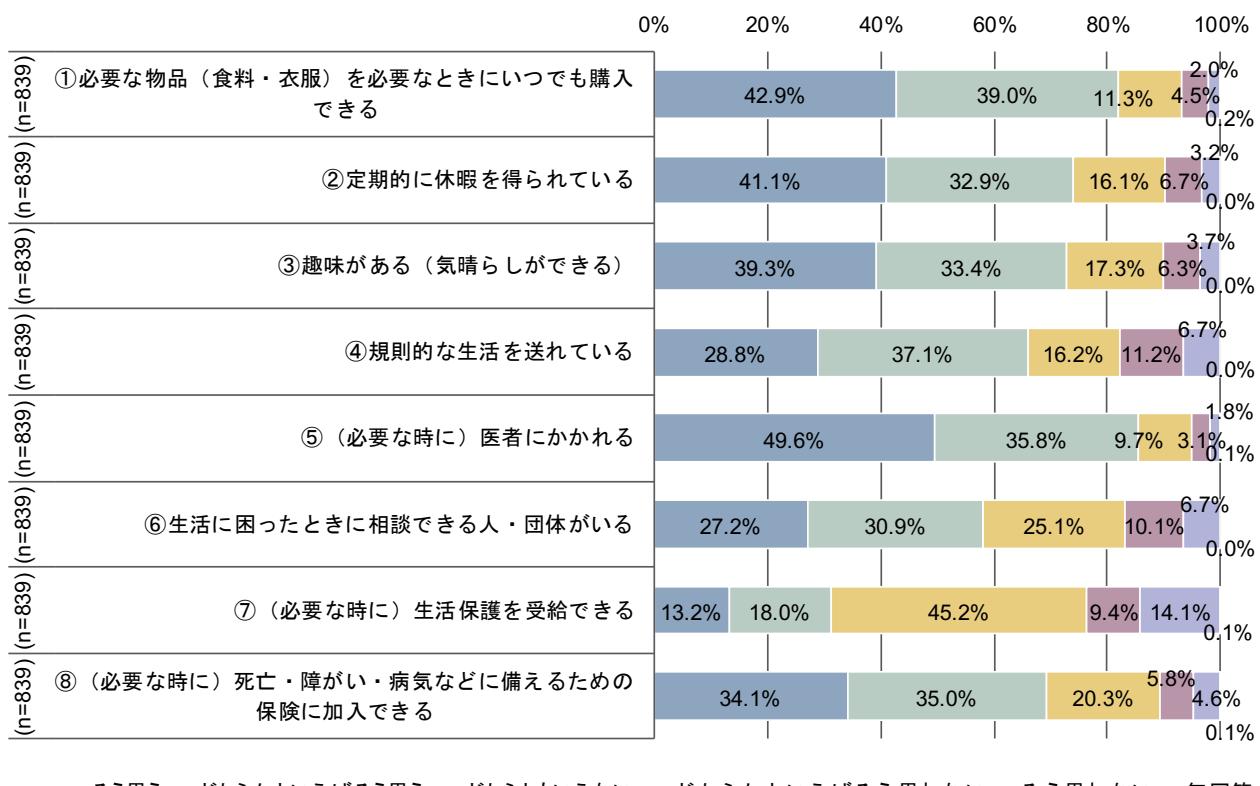
「充足度」をみると、重要度が高かった「定期的に休暇を得られること」では74.0%、「医者にかかること」では85.3%であった。また、「生活に困ったときに相談できる人・団体がいる」といった項目の充足度は58.0%に留まる。

就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」で「必要な物品（食料・衣服）を必要なときにいつでも購入できる」「死亡・障がい・病気などに備えるための保険に加入できる」が充足していると回答する割合は、「正規雇用」と比較して低い。

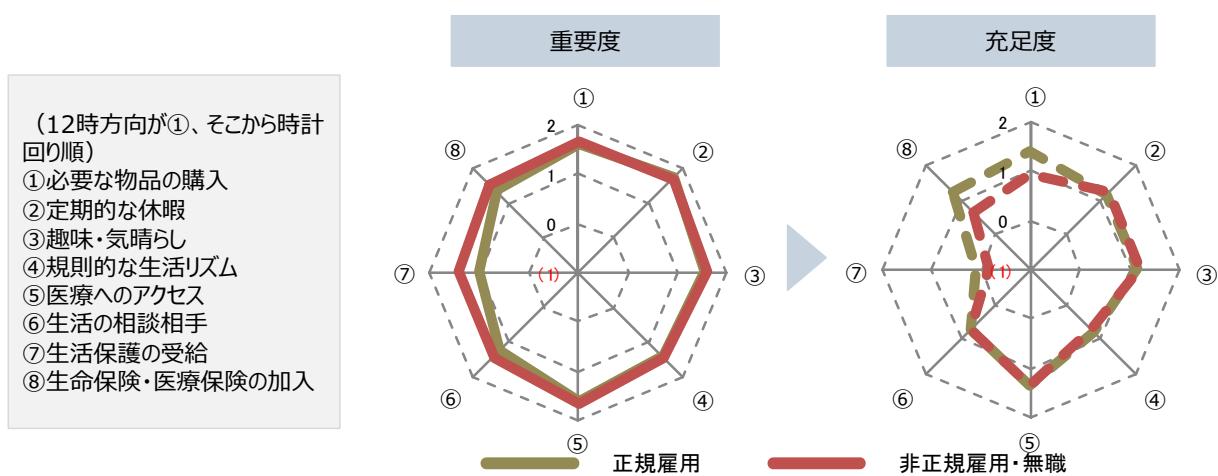
図表 III - 19 【重要度】「生活」に関するニーズ



図表 III - 20 【充足度】「生活」に関するニーズ⁶



図表 III - 21 【就業状態別】「生活」に関するニーズ⁶



⁶ 各項目の「重要度」と「充足度」について、選択肢をスコア化した上で評価点を算出している。算出方法は、図表 III - 34 及び図表 III - 35 に詳述

図表 III - 22 【就業状態別】【重要度】「生活」に関するニーズ

【重要度】	上段：回答数 下段：割合(%)	合計	非常に 重要で ある	どちらか といえな い	どちらと もいえな い	どちらか といえな い	まったく 重要で ない	無回答
①必要な物品（食料・衣服）を必要なときについつでも購入できること	合計	839	537	248	39	8	2	5
		100.0%	64.0%	29.6%	4.6%	1.0%	0.2%	0.6%
	正規雇用	409	245	131	22	5	2	4
		100.0%	59.9%	32.0%	5.4%	1.2%	0.5%	1.0%
	非正規雇用・無職	163	112	39	9	3	0	0
		100.0%	68.7%	23.9%	5.5%	1.8%	0.0%	0.0%
	その他	267	180	78	8	0	0	1
		100.0%	67.4%	29.2%	3.0%	0.0%	0.0%	0.4%
②定期的に休暇を得られること	合計	839	613	186	23	9	3	5
		100.0%	73.1%	22.2%	2.7%	1.1%	0.4%	0.6%
	正規雇用	409	299	91	11	5	0	3
		100.0%	73.1%	22.2%	2.7%	1.2%	0.0%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	119	36	4	1	2	1
		100.0%	73.0%	22.1%	2.5%	0.6%	1.2%	0.6%
	その他	267	195	59	8	3	1	1
		100.0%	73.0%	22.1%	3.0%	1.1%	0.4%	0.4%
③趣味があること（気晴らしができること）	合計	839	463	308	48	14	1	5
		100.0%	55.2%	36.7%	5.7%	1.7%	0.1%	0.6%
	正規雇用	409	222	148	28	8	0	3
		100.0%	54.3%	36.2%	6.8%	2.0%	0.0%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	96	60	5	1	0	1
		100.0%	58.9%	36.8%	3.1%	0.6%	0.0%	0.6%
	その他	267	145	100	15	5	1	1
		100.0%	54.3%	37.5%	5.6%	1.9%	0.4%	0.4%
④生活リズムが規則的なこと	合計	839	373	327	103	29	3	4
		100.0%	44.5%	39.0%	12.3%	3.5%	0.4%	0.5%
	正規雇用	409	177	155	58	15	1	3
		100.0%	43.3%	37.9%	14.2%	3.7%	0.2%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	74	65	18	6	0	0
		100.0%	45.4%	39.9%	11.0%	3.7%	0.0%	0.0%
	その他	267	122	107	27	8	2	1
		100.0%	45.7%	40.1%	10.1%	3.0%	0.7%	0.4%
⑤（必要な時に）医者にかかること	合計	839	536	253	39	4	2	5
		100.0%	63.9%	30.2%	4.6%	0.5%	0.2%	0.6%
	正規雇用	409	245	133	23	4	1	3
		100.0%	59.9%	32.5%	5.6%	1.0%	0.2%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	105	46	11	0	0	1
		100.0%	64.4%	28.2%	6.7%	0.0%	0.0%	0.6%
	その他	267	186	74	5	0	1	1
		100.0%	69.7%	27.7%	1.9%	0.0%	0.4%	0.4%
⑥生活に困ったときに相談できる人・団体がいること	合計	839	331	359	105	26	13	5
		100.0%	39.5%	42.8%	12.5%	3.1%	1.5%	0.6%
	正規雇用	409	150	170	61	15	10	3
		100.0%	36.7%	41.6%	14.9%	3.7%	2.4%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	75	64	18	6	0	0
		100.0%	46.0%	39.3%	11.0%	3.7%	0.0%	0.0%
	その他	267	106	125	26	5	3	2
		100.0%	39.7%	46.8%	9.7%	1.9%	1.1%	0.7%
⑦（必要な時に）生活保護を受給できること	合計	839	287	293	176	41	38	4
		100.0%	34.2%	34.9%	21.0%	4.9%	4.5%	0.5%
	正規雇用	409	128	141	87	21	29	3
		100.0%	31.3%	34.5%	21.3%	5.1%	7.1%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	68	49	39	6	1	0
		100.0%	41.7%	30.1%	23.9%	3.7%	0.6%	0.0%
	その他	267	91	103	50	14	8	1
		100.0%	34.1%	38.6%	18.7%	5.2%	3.0%	0.4%
⑧（必要な時に）死亡・障がい・病気などに備えるための保険に加入していること	合計	839	359	352	96	20	7	5
		100.0%	42.8%	42.0%	11.4%	2.4%	0.8%	0.6%
	正規雇用	409	160	175	56	11	4	3
		100.0%	39.1%	42.8%	13.7%	2.7%	1.0%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	78	60	23	2	0	0
		100.0%	47.9%	36.8%	14.1%	1.2%	0.0%	0.0%
	その他	267	121	117	17	7	3	2
		100.0%	45.3%	43.8%	6.4%	2.6%	1.1%	0.7%

図表 III - 23 【就業状態別】【充足度】「生活」に関するニーズ

【充足度】	上段：回答数 下段：割合(%)	合計	そう思う	どちらか といえ ば そう思 う	どちらと もいえな い	どちらか といえ ば そう思 わない	そう思わ ない	無回答
①必要な物品（食料・衣服）を必要なときについつでも購入できる	合計	839	360	327	95	38	17	2
		100.0%	42.9%	39.0%	11.3%	4.5%	2.0%	0.2%
	正規雇用	409	180	172	41	10	5	1
		100.0%	44.0%	42.1%	10.0%	2.4%	1.2%	0.2%
	非正規雇用・無職	163	49	61	28	17	8	0
		100.0%	30.1%	37.4%	17.2%	10.4%	4.9%	0.0%
	その他	267	131	94	26	11	4	1
		100.0%	49.1%	35.2%	9.7%	4.1%	1.5%	0.4%
②定期的に休暇を得られている	合計	839	345	276	135	56	27	0
		100.0%	41.1%	32.9%	16.1%	6.7%	3.2%	0.0%
	正規雇用	409	166	144	56	29	14	0
		100.0%	40.6%	35.2%	13.7%	7.1%	3.4%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	66	54	26	13	4	0
		100.0%	40.5%	33.1%	16.0%	8.0%	2.5%	0.0%
	その他	267	113	78	53	14	9	0
		100.0%	42.3%	29.2%	19.9%	5.2%	3.4%	0.0%
③趣味がある（気晴らしができる）	合計	839	330	280	145	53	31	0
		100.0%	39.3%	33.4%	17.3%	6.3%	3.7%	0.0%
	正規雇用	409	144	150	73	32	10	0
		100.0%	35.2%	36.7%	17.8%	7.8%	2.4%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	63	49	37	7	7	0
		100.0%	38.7%	30.1%	22.7%	4.3%	4.3%	0.0%
	その他	267	123	81	35	14	14	0
		100.0%	46.1%	30.3%	13.1%	5.2%	5.2%	0.0%
④規則的な生活を送っている	合計	839	242	311	136	94	56	0
		100.0%	28.8%	37.1%	16.2%	11.2%	6.7%	0.0%
	正規雇用	409	111	162	61	49	26	0
		100.0%	27.1%	39.6%	14.9%	12.0%	6.4%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	44	56	29	17	17	0
		100.0%	27.0%	34.4%	17.8%	10.4%	10.4%	0.0%
	その他	267	87	93	46	28	13	0
		100.0%	32.6%	34.8%	17.2%	10.5%	4.9%	0.0%
⑤（必要な時に）医者にかかる	合計	839	416	300	81	26	15	1
		100.0%	49.6%	35.8%	9.7%	3.1%	1.8%	0.1%
	正規雇用	409	185	162	42	11	8	1
		100.0%	45.2%	39.6%	10.3%	2.7%	2.0%	0.2%
	非正規雇用・無職	163	77	61	15	5	5	0
		100.0%	47.2%	37.4%	9.2%	3.1%	3.1%	0.0%
	その他	267	154	77	24	10	2	0
		100.0%	57.7%	28.8%	9.0%	3.7%	0.7%	0.0%
⑥生活に困ったときに相談できる人・団体がいる	合計	839	228	259	211	85	56	0
		100.0%	27.2%	30.9%	25.1%	10.1%	6.7%	0.0%
	正規雇用	409	98	132	104	47	28	0
		100.0%	24.0%	32.3%	25.4%	11.5%	6.8%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	48	42	38	22	13	0
		100.0%	29.4%	25.8%	23.3%	13.5%	8.0%	0.0%
	その他	267	82	85	69	16	15	0
		100.0%	30.7%	31.8%	25.8%	6.0%	5.6%	0.0%
⑦（必要な時に）生活保護を受給できる	合計	839	111	151	379	79	118	1
		100.0%	13.2%	18.0%	45.2%	9.4%	14.1%	0.1%
	正規雇用	409	48	74	190	45	52	0
		100.0%	11.7%	18.1%	46.5%	11.0%	12.7%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	25	23	66	13	36	0
		100.0%	15.3%	14.1%	40.5%	8.0%	22.1%	0.0%
	その他	267	38	54	123	21	30	1
		100.0%	14.2%	20.2%	46.1%	7.9%	11.2%	0.4%
⑧（必要な時に）死亡・障がい・病気などに備えるための保険に加入できる	合計	839	286	294	170	49	39	1
		100.0%	34.1%	35.0%	20.3%	5.8%	4.6%	0.1%
	正規雇用	409	148	157	75	22	6	1
		100.0%	36.2%	38.4%	18.3%	5.4%	1.5%	0.2%
	非正規雇用・無職	163	46	50	33	13	21	0
		100.0%	28.2%	30.7%	20.2%	8.0%	12.9%	0.0%
	その他	267	92	87	62	14	12	0
		100.0%	34.5%	32.6%	23.2%	5.2%	4.5%	0.0%

(3) 「社会参加」に関するニーズ

① 重要度について

「社会参加」に関するニーズについて、「重要度」をみると、「安心できる居場所があること」が重要であると回答する割合が97.3%で最も高く、次いで「友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑であること」(92.0%)である。また、地域コミュニティとの関わりについては、「コミュニティ活動など地域とのつながりがあること」(54.1%)、「他者へ貢献できていると感じられること」(63.6%)であり、いずれも過半数を超えてい。

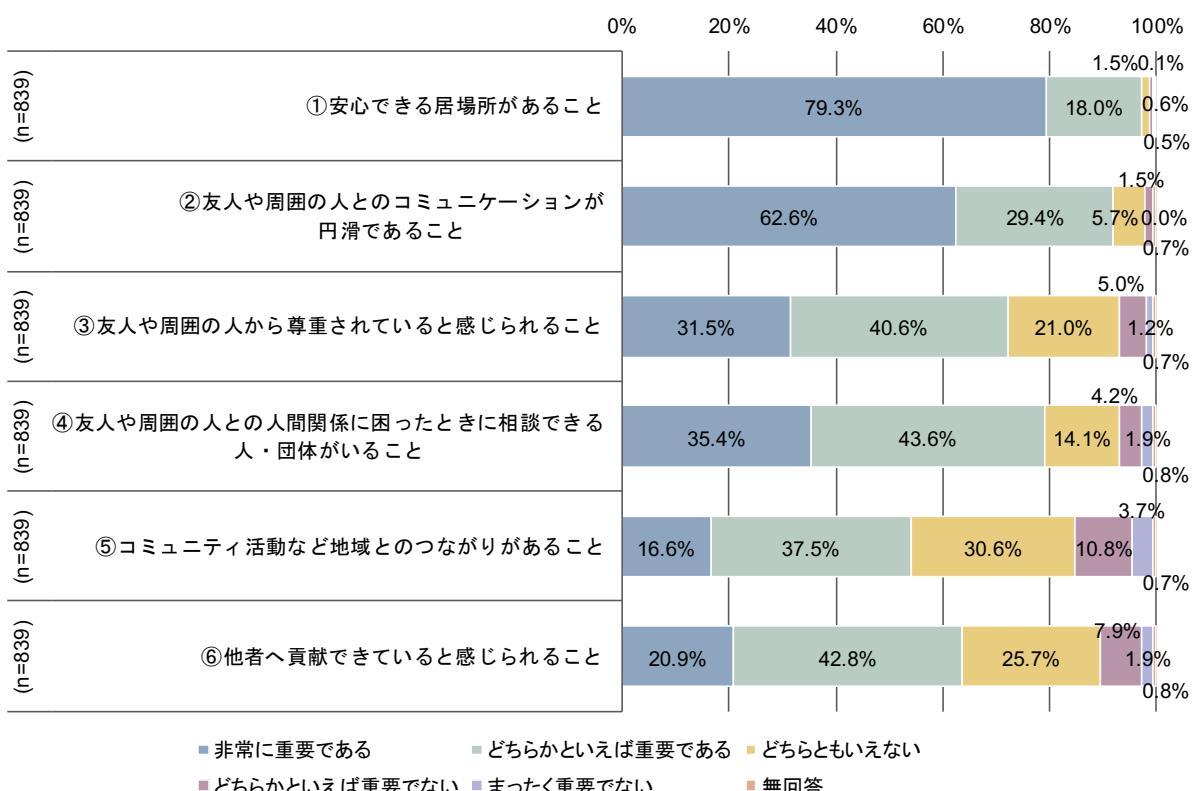
就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」で「友人や周囲の人から尊重されていると感じられること」が重要であると回答する割合は「正規雇用」と比較して若干低い傾向にある。なお、「コミュニティ活動など地域とのつながりがあること」「他者へ貢献できていると感じられること」については「正規雇用」と「非正規雇用・無職」の間に大きな差はなかった。

② 充足度について

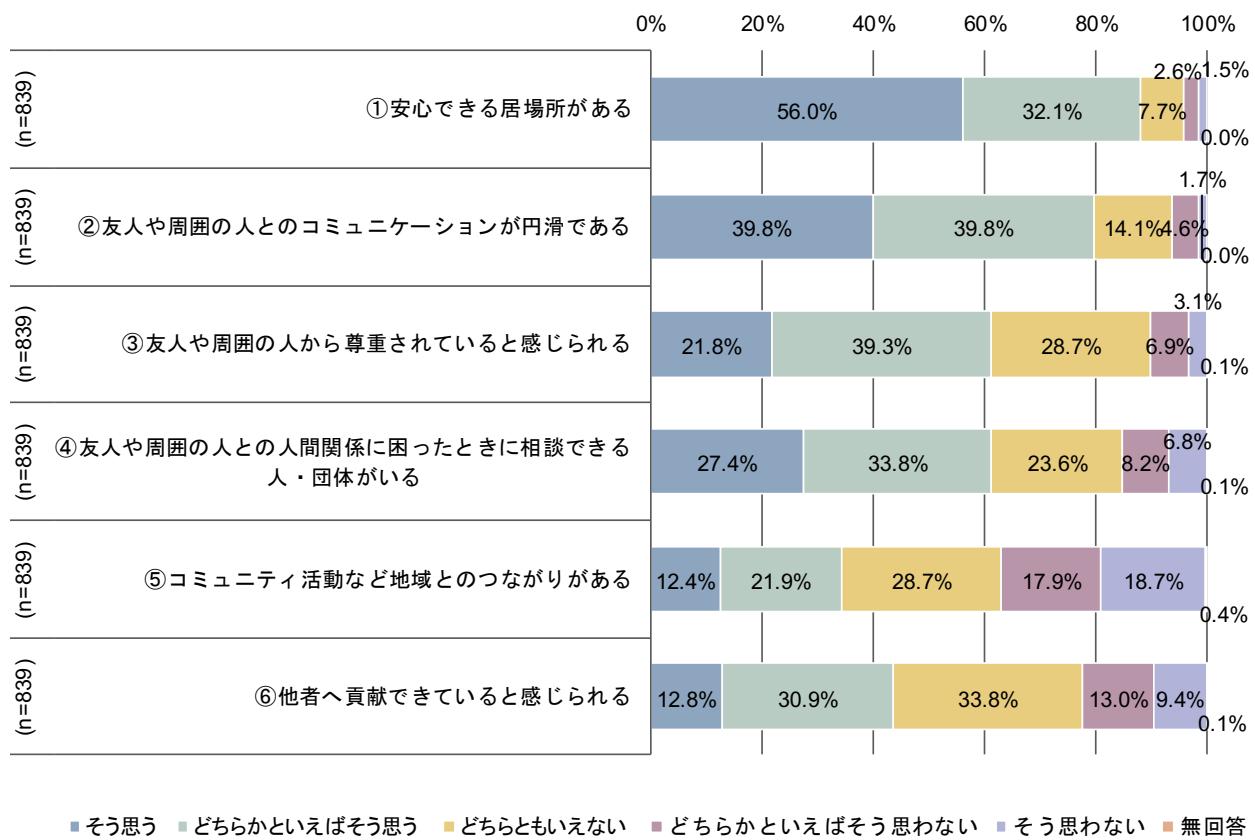
「充足度」をみると、重要度が高かった「安心できる居場所があること」では88.1%、「友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑である」では79.6%であった。また、地域コミュニティとの関わりについて、「コミュニティ活動など地域とのつながりがあること」で34.3%、「他者へ貢献できていると感じられること」で43.6%といずれも過半数を下回った。

就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」で「友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑である」「友人や周囲の人から尊重されていると感じられる」「他者へ貢献できていると感じられること」が充足していると回答する割合は、「正規雇用」と比較して低い。

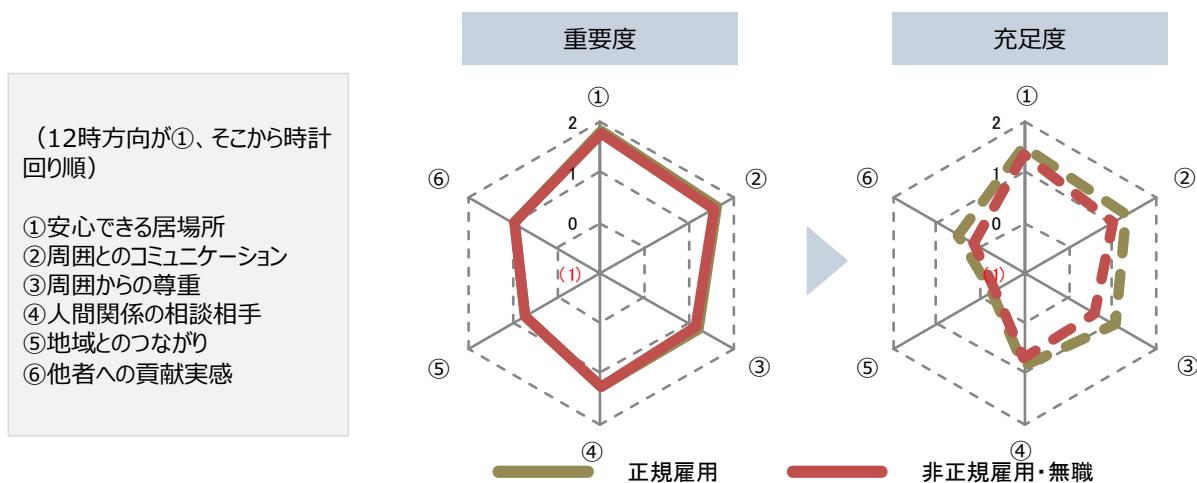
図表 III - 24 【重要度】「社会参加」に関するニーズ



図表 III - 25 【充足度】「社会参加」に関するニーズ



図表 III - 26 【就業状態別】「社会参加」に関するニーズ⁷



⁷ 各項目の「重要度」と「充足度」について、選択肢をスコア化した上で評価点を算出している。算出方法は、図表 III - 34 及び図表 III - 35 に詳述

図表 III - 27 【就業状態別】【重要度】「社会参加」に関するニーズ

【重要度】	上段：回答数 下段：割合(%)	合計	非常に 重要で ある	どちらか といえ て重要で ある	どちらと もいえな い	どちらか といえ て重要で ない	まったく 重要で ない	無回答
①安心できる居場所があること	合計	839	665	151	13	5	1	4
		100.0%	79.3%	18.0%	1.5%	0.6%	0.1%	0.5%
	正規雇用	409	318	78	8	2	0	3
		100.0%	77.8%	19.1%	2.0%	0.5%	0.0%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	126	32	3	2	0	0
		100.0%	77.3%	19.6%	1.8%	1.2%	0.0%	0.0%
	その他	267	221	41	2	1	1	1
		100.0%	82.8%	15.4%	0.7%	0.4%	0.4%	0.4%
②友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑であること	合計	839	525	247	48	13	0	6
		100.0%	62.6%	29.4%	5.7%	1.5%	0.0%	0.7%
	正規雇用	409	256	115	25	8	0	5
		100.0%	62.6%	28.1%	6.1%	2.0%	0.0%	1.2%
	非正規雇用・無職	163	92	57	11	3	0	0
		100.0%	56.4%	35.0%	6.7%	1.8%	0.0%	0.0%
	その他	267	177	75	12	2	0	1
		100.0%	66.3%	28.1%	4.5%	0.7%	0.0%	0.4%
③友人や周囲の人から尊重されていると感じられること	合計	839	264	341	176	42	10	6
		100.0%	31.5%	40.6%	21.0%	5.0%	1.2%	0.7%
	正規雇用	409	136	169	72	20	7	5
		100.0%	33.3%	41.3%	17.6%	4.9%	1.7%	1.2%
	非正規雇用・無職	163	37	66	51	8	1	0
		100.0%	22.7%	40.5%	31.3%	4.9%	0.6%	0.0%
	その他	267	91	106	53	14	2	1
		100.0%	34.1%	39.7%	19.9%	5.2%	0.7%	0.4%
④友人や周囲の人との人間関係に困ったときに相談できる人・団体がいること	合計	839	297	366	118	35	16	7
		100.0%	35.4%	43.6%	14.1%	4.2%	1.9%	0.8%
	正規雇用	409	146	167	65	20	6	5
		100.0%	35.7%	40.8%	15.9%	4.9%	1.5%	1.2%
	非正規雇用・無職	163	54	77	23	7	2	0
		100.0%	33.1%	47.2%	14.1%	4.3%	1.2%	0.0%
	その他	267	97	122	30	8	8	2
		100.0%	36.3%	45.7%	11.2%	3.0%	3.0%	0.7%
⑤コミュニティ活動など地域とのつながりがあること	合計	839	139	315	257	91	31	6
		100.0%	16.6%	37.5%	30.6%	10.8%	3.7%	0.7%
	正規雇用	409	66	137	140	50	13	3
		100.0%	16.1%	33.5%	34.2%	12.2%	3.2%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	20	62	60	13	8	0
		100.0%	12.3%	38.0%	36.8%	8.0%	4.9%	0.0%
	その他	267	53	116	57	28	10	3
		100.0%	19.9%	43.4%	21.3%	10.5%	3.7%	1.1%
⑥他者へ貢献できていると感じられること	合計	839	175	359	216	66	16	7
		100.0%	20.9%	42.8%	25.7%	7.9%	1.9%	0.8%
	正規雇用	409	87	169	106	36	7	4
		100.0%	21.3%	41.3%	25.9%	8.8%	1.7%	1.0%
	非正規雇用・無職	163	25	79	46	10	3	0
		100.0%	15.3%	48.5%	28.2%	6.1%	1.8%	0.0%
	その他	267	63	111	64	20	6	3
		100.0%	23.6%	41.6%	24.0%	7.5%	2.2%	1.1%

図表 III - 28 【就業状態別】【充足度】「社会参加」に関するニーズ

【充足度】	上段：回答数 下段：割合(%)	合計	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえない	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答
①安心できる居場所がある	合計	839	470	269	65	22	13	0
		100.0%	56.0%	32.1%	7.7%	2.6%	1.5%	0.0%
	正規雇用	409	219	140	33	12	5	0
		100.0%	53.5%	34.2%	8.1%	2.9%	1.2%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	83	52	15	7	6	0
		100.0%	50.9%	31.9%	9.2%	4.3%	3.7%	0.0%
	その他	267	168	77	17	3	2	0
		100.0%	62.9%	28.8%	6.4%	1.1%	0.7%	0.0%
②友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑である	合計	839	334	334	118	39	14	0
		100.0%	39.8%	39.8%	14.1%	4.6%	1.7%	0.0%
	正規雇用	409	162	165	55	24	3	0
		100.0%	39.6%	40.3%	13.4%	5.9%	0.7%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	49	69	27	9	9	0
		100.0%	30.1%	42.3%	16.6%	5.5%	5.5%	0.0%
	その他	267	123	100	36	6	2	0
		100.0%	46.1%	37.5%	13.5%	2.2%	0.7%	0.0%
③友人や周囲の人から尊重され ていると感じられる	合計	839	183	330	241	58	26	1
		100.0%	21.8%	39.3%	28.7%	6.9%	3.1%	0.1%
	正規雇用	409	98	153	122	25	11	0
		100.0%	24.0%	37.4%	29.8%	6.1%	2.7%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	22	60	54	17	10	0
		100.0%	13.5%	36.8%	33.1%	10.4%	6.1%	0.0%
	その他	267	63	117	65	16	5	1
		100.0%	23.6%	43.8%	24.3%	6.0%	1.9%	0.4%
④友人や周囲の人との人間関 係に困ったときに相談できる人・ 団体がいる	合計	839	230	284	198	69	57	1
		100.0%	27.4%	33.8%	23.6%	8.2%	6.8%	0.1%
	正規雇用	409	106	134	105	41	23	0
		100.0%	25.9%	32.8%	25.7%	10.0%	5.6%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	42	48	42	13	18	0
		100.0%	25.8%	29.4%	25.8%	8.0%	11.0%	0.0%
	その他	267	82	102	51	15	16	1
		100.0%	30.7%	38.2%	19.1%	5.6%	6.0%	0.4%
⑤コミュニティ活動など地域とのつ ながりがある	合計	839	104	184	241	150	157	3
		100.0%	12.4%	21.9%	28.7%	17.9%	18.7%	0.4%
	正規雇用	409	43	84	125	77	79	1
		100.0%	10.5%	20.5%	30.6%	18.8%	19.3%	0.2%
	非正規雇用・無職	163	16	32	47	32	35	1
		100.0%	9.8%	19.6%	28.8%	19.6%	21.5%	0.6%
	その他	267	45	68	69	41	43	1
		100.0%	16.9%	25.5%	25.8%	15.4%	16.1%	0.4%
⑥他者へ貢献できていると感じら れる	合計	839	107	259	284	109	79	1
		100.0%	12.8%	30.9%	33.8%	13.0%	9.4%	0.1%
	正規雇用	409	54	137	140	52	26	0
		100.0%	13.2%	33.5%	34.2%	12.7%	6.4%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	14	50	55	25	19	0
		100.0%	8.6%	30.7%	33.7%	15.3%	11.7%	0.0%
	その他	267	39	72	89	32	34	1
		100.0%	14.6%	27.0%	33.3%	12.0%	12.7%	0.4%

(4) 「親からの自立」に関するニーズ

① 重要度について

「親からの自立」に関するニーズについて、「重要度」をみると、「住まいが劣悪な環境ではないこと」が重要であると回答する割合が95.6%で最も高く、次いで「家族との関係が良好であること」(93.7%)、「困ったときに家族に相談できること」(90.0%)である。

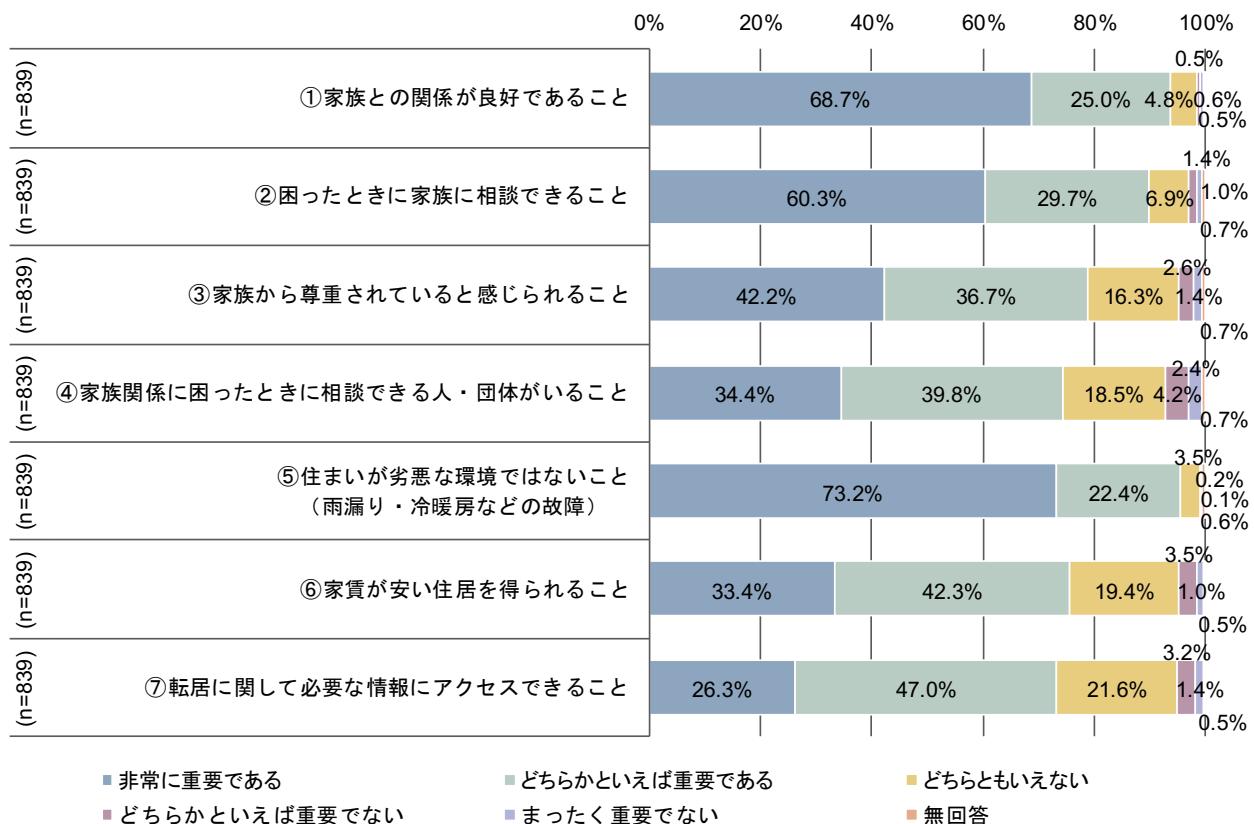
就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」で「転居に関して必要な情報にアクセスできること」「家賃の安さ」が重要であると回答する割合は「正規雇用」と比較して若干高い傾向にある。

② 充足度について

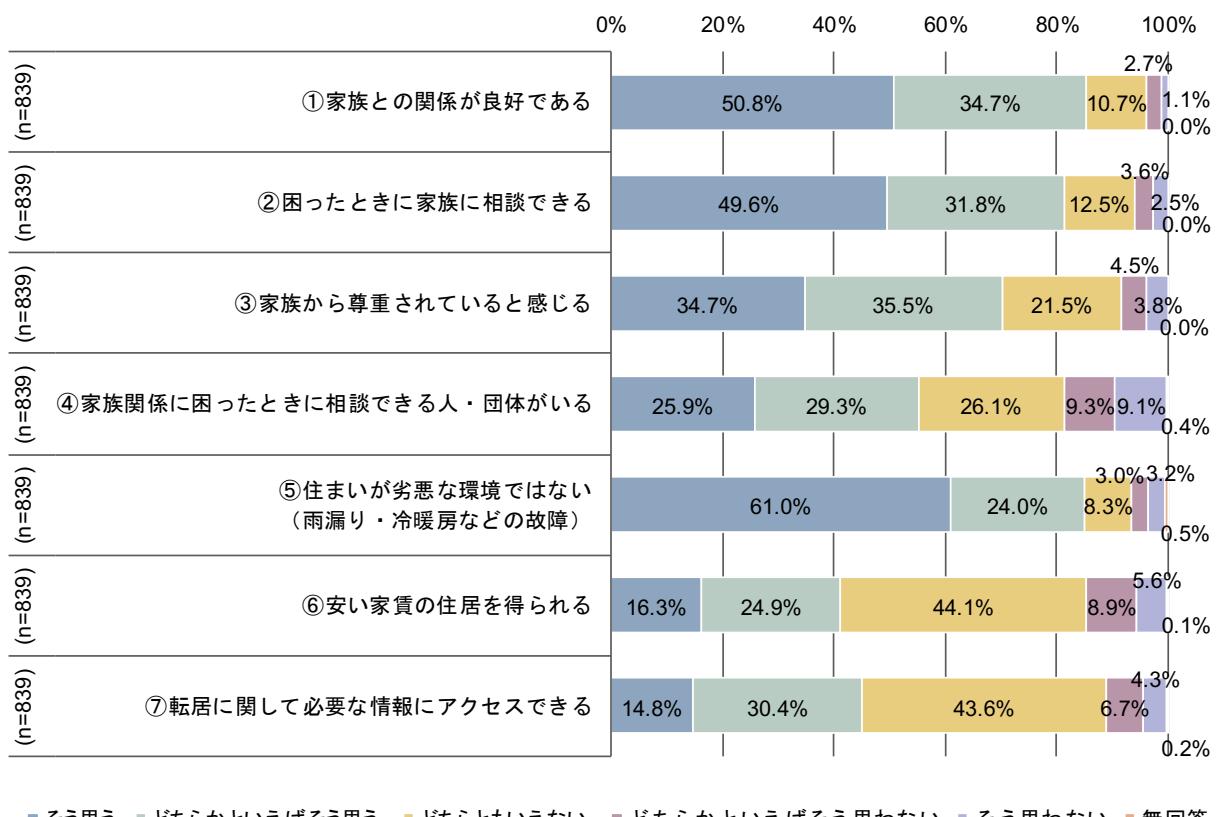
「充足度」をみると、重要度が高かった「家族との関係が良好である」では85.5%、「住まいが劣悪な環境ではないこと」では85.0%であった。一方で、「家族関係に困ったときに相談できる人・団体がいる」は55.2%に留まり、また「安い家賃の住居を得られる」「転居に関して必要な情報にアクセスできる」はいずれも過半数を下回った。

就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」で「家族との関係が良好である」「困ったときに家族に相談できること」「家族から尊重されていると感じられること」「住まいが劣悪な環境ではない」「安い家賃の住居を得られる」が充足していると回答する割合は、「正規雇用」と比較して若干低い傾向にある。

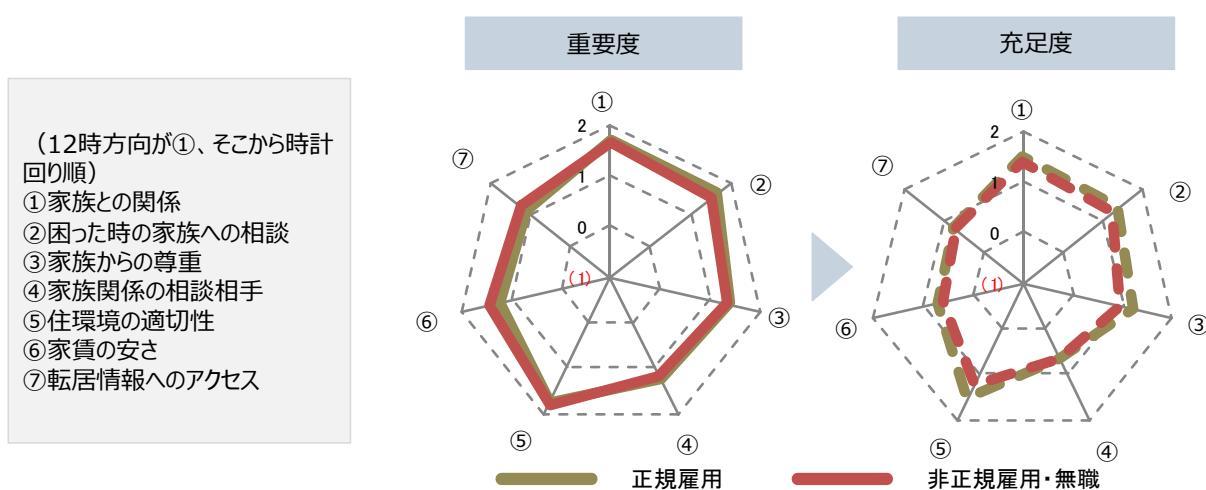
図表 III - 29 【重要度】「親からの自立」に関するニーズ



図表 III - 30 【充足度】「親からの自立」に関するニーズ



図表 III - 31 【就業状態別】「親からの自立」に関するニーズ⁸



⁸ 各項目の「重要度」と「充足度」について、選択肢をスコア化した上で評価点を算出している。算出方法は、図表 III - 34 及び図表 III - 35 に詳述

図表 III - 32 【就業状態別】【重要度】「親からの自立」に関するニーズ

【重要度】	上段：回答数 下段：割合(%)	合計	非常に 重要で ある	どちらか といえば 重要で ある	どちらと もいえな い	どちらか といえば 重要で ない	まったく 重要で ない	無回答
①家族との関係が良好であること	合計	839	576	210	40	4	5	4
		100.0%	68.7%	25.0%	4.8%	0.5%	0.6%	0.5%
	正規雇用	409	282	96	23	3	2	3
		100.0%	68.9%	23.5%	5.6%	0.7%	0.5%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	109	44	7	0	3	0
②困ったときに家族に相談できること	合計	839	506	249	58	12	8	6
		100.0%	60.3%	29.7%	6.9%	1.4%	1.0%	0.7%
	正規雇用	409	254	111	32	5	3	4
		100.0%	62.1%	27.1%	7.8%	1.2%	0.7%	1.0%
	非正規雇用・無職	163	93	53	11	2	4	0
③家族から尊重されていると感じられること	合計	839	354	308	137	22	12	6
		100.0%	42.2%	36.7%	16.3%	2.6%	1.4%	0.7%
	正規雇用	409	172	153	63	12	5	4
		100.0%	42.1%	37.4%	15.4%	2.9%	1.2%	1.0%
	非正規雇用・無職	163	65	58	32	3	5	0
④家族関係に困ったときに相談できる人・団体がいること	合計	839	289	334	155	35	20	6
		100.0%	34.4%	39.8%	18.5%	4.2%	2.4%	0.7%
	正規雇用	409	139	154	84	19	9	4
		100.0%	34.0%	37.7%	20.5%	4.6%	2.2%	1.0%
	非正規雇用・無職	163	53	69	29	6	6	0
⑤住まいが劣悪な環境ではないこと（雨漏り・冷暖房などの故障）	合計	839	614	188	29	2	1	5
		100.0%	73.2%	22.4%	3.5%	0.2%	0.1%	0.6%
	正規雇用	409	292	97	14	1	1	4
		100.0%	71.4%	23.7%	3.4%	0.2%	0.2%	1.0%
	非正規雇用・無職	163	121	33	9	0	0	0
⑥家賃が安い住居を得られるうこと	合計	839	280	355	163	29	8	4
		100.0%	33.4%	42.3%	19.4%	3.5%	1.0%	0.5%
	正規雇用	409	125	174	84	17	6	3
		100.0%	30.6%	42.5%	20.5%	4.2%	1.5%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	67	58	33	5	0	0
⑦転居に関して必要な情報にアクセスできること	合計	839	221	394	181	27	12	4
		100.0%	26.3%	47.0%	21.6%	3.2%	1.4%	0.5%
	正規雇用	409	97	181	102	17	9	3
		100.0%	23.7%	44.3%	24.9%	4.2%	2.2%	0.7%
	非正規雇用・無職	163	50	74	31	7	1	0
		100.0%	30.7%	45.4%	19.0%	4.3%	0.6%	0.0%
	その他	267	74	139	48	3	2	1
		100.0%	27.7%	52.1%	18.0%	1.1%	0.7%	0.4%

図表 III - 33 【就業状態別】【充足度】「親からの自立」に関するニーズ

【充足度】	上段：回答数 下段：割合(%)	合計	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえない	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答
①家族との関係が良好である	合計	839	426	291	90	23	9	0
		100.0%	50.8%	34.7%	10.7%	2.7%	1.1%	0.0%
	正規雇用	409	206	142	45	13	3	0
		100.0%	50.4%	34.7%	11.0%	3.2%	0.7%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	76	54	24	3	6	0
②困ったときに家族に相談できる		100.0%	46.6%	33.1%	14.7%	1.8%	3.7%	0.0%
	合計	267	144	95	21	7	0	0
		100.0%	53.9%	35.6%	7.9%	2.6%	0.0%	0.0%
	正規雇用	409	198	134	51	18	8	0
		100.0%	48.4%	32.8%	12.5%	4.4%	2.0%	0.0%
③家族から尊重されていると感じ る	合計	163	73	52	23	6	9	0
		100.0%	44.8%	31.9%	14.1%	3.7%	5.5%	0.0%
	非正規雇用・無職	267	145	81	31	6	4	0
		100.0%	54.3%	30.3%	11.6%	2.2%	1.5%	0.0%
	その他	409	150	137	89	21	12	0
④家族関係に困ったときに相談 できる人・団体がいる	合計	163	47	60	37	6	13	0
		100.0%	28.8%	36.8%	22.7%	3.7%	8.0%	0.0%
	正規雇用	267	94	101	54	11	7	0
		100.0%	35.2%	37.8%	20.2%	4.1%	2.6%	0.0%
	非正規雇用・無職	409	118	114	46	37	0	0
⑤住まいが劣悪な環境ではない (雨漏り・冷暖房などの故障)	合計	267	83	81	63	20	19	1
		100.0%	24.5%	28.8%	25.8%	7.4%	12.3%	1.2%
	正規雇用	409	94	118	114	46	37	0
		100.0%	23.0%	28.9%	27.9%	11.2%	9.0%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	40	47	42	12	20	2
⑥安い家賃の住居を得られる	合計	409	243	109	40	6	11	0
		100.0%	59.4%	26.7%	9.8%	1.5%	2.7%	0.0%
	正規雇用	163	91	37	12	10	12	1
		100.0%	55.8%	22.7%	7.4%	6.1%	7.4%	0.6%
	非正規雇用・無職	267	178	55	18	9	4	3
⑦転居に関して必要な情報にア クセスできる	合計	163	29	32	77	15	10	0
		100.0%	17.8%	19.6%	47.2%	9.2%	6.1%	0.0%
	正規雇用	267	39	67	119	28	13	1
		100.0%	14.6%	25.1%	44.6%	10.5%	4.9%	0.4%
	その他	409	110	174	32	24	0	0
	合計	163	22	47	75	10	9	0
		100.0%	14.4%	29.8%	43.5%	7.3%	4.6%	0.2%
	正規雇用	267	43	86	113	16	8	1
		100.0%	13.5%	28.8%	46.0%	6.1%	5.5%	0.0%
	非正規雇用・無職	409	59	122	178	30	19	1

(5) 「非正規雇用・無職」における若者地域生活ニーズにおける重要度と充足度の関係

「非正規雇用・無職」における若者地域生活ニーズについて、各項目の「重要度」と「充足度」について、下記表の通りに選択肢をスコア化した上で、評価点を算出し、各種分析（以下の①、②）を実施した。

図表 III - 34 スコア表

選択肢		点数
【重要度】 重要	【充足度】 そう思う	+ 2
【重要度】 どちらかといえば重要	【充足度】 どちらかといえばそう思う	+ 1
【重要度】 どちらでもない	【充足度】 どちらでもない	0
【重要度】 どちらかといえば重要でない	【充足度】 どちらかといえばそう思わない	+ 1
【重要度】 重要でない	【充足度】 そう思わない	+ 2

図表 III - 35 計算式

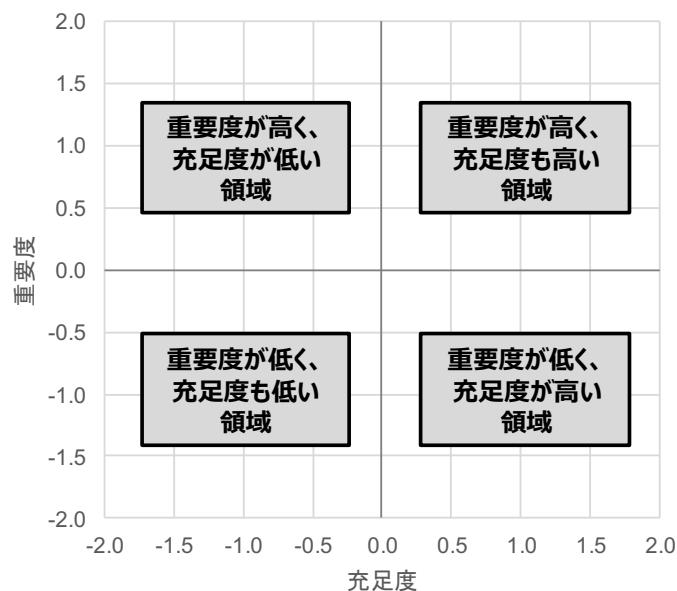
$$\text{重要度} = \frac{\text{「重要」} \times 2 \text{点} + \text{「どちらかといえば重要」} \times 1 \text{点} + \text{「どちらでもない」} \times 0 \text{点} + \text{「どちらかといえば重要でない」} \times 1 \text{点} + \text{「重要でない」} \times 2 \text{点}}{\text{有効回答者数} \text{ (有効回答数から「無回答」を除く)}}$$

$$\text{充足度} = \frac{\text{「そう思う」} \times 2 \text{点} + \text{「どちらかといえばそう思う」} \times 1 \text{点} + \text{「どちらでもない」} \times 0 \text{点} + \text{「どちらかといえばそう思わない」} \times 1 \text{点} + \text{「そう思わない」} \times 2 \text{点}}{\text{有効回答者数} \text{ (有効回答数から「無回答」を除く)}}$$

① 「重要度」 × 「充足度」の関係（クロスマッピング）

各項目の「重要度」と「充足度」について、上記の評価点より、散布図を作成した。縦軸は「重要度」、横軸は「充足度」を表し、4つの領域に分類し、傾向を示している。4つの領域は、「重要度が高く、充足度も高い領域」「重要度が高く、充足度が低い領域」「重要度が低く、充足度が低い領域」「重要度が低く、充足度が高い領域」としている。

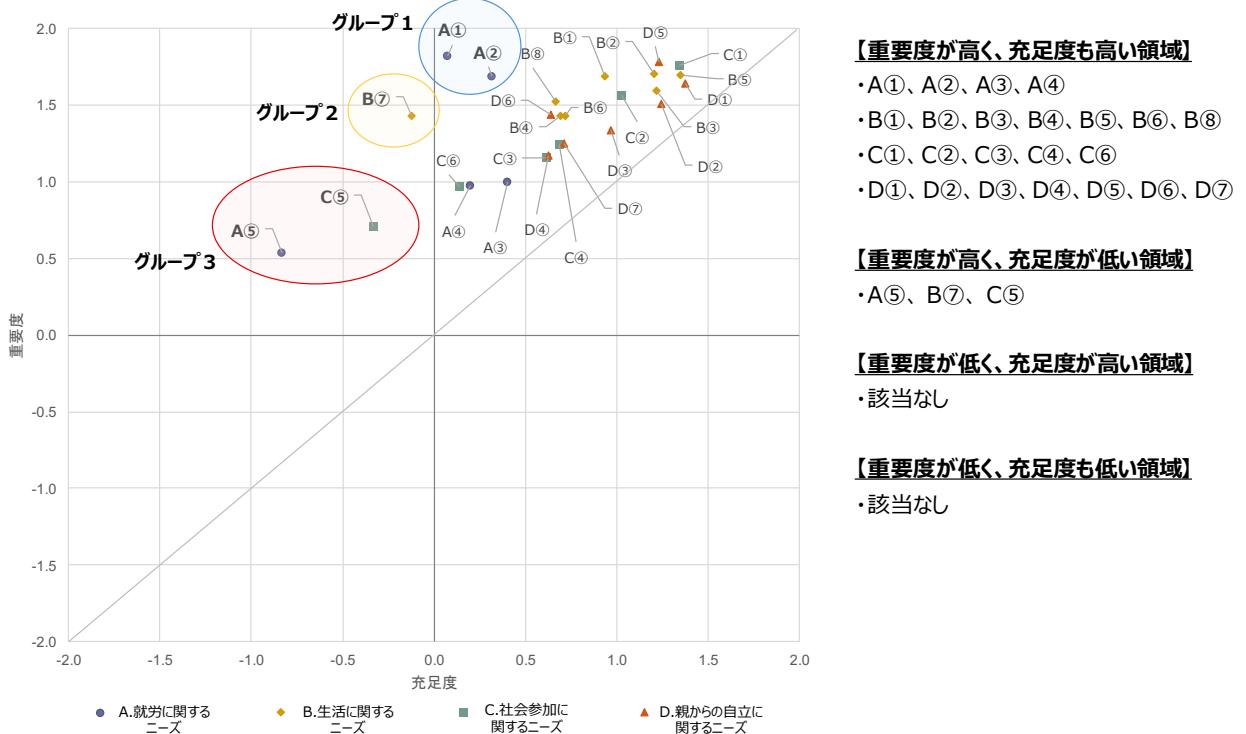
図表 III - 36 散布図の見方



各項目の重要度と充足度をみると、「重要度が高く、充足度も高い領域」に大半の項目が位置している。その中でも、「A①安定しており、生活する上で困らない収入を得られること」「A②継続して働き続けられる仕事があること」については、同領域の他の項目と比較して、相対的に重要度は高いが充足度は低い傾向がある（グループ1）。

次に、「重要度が高く、充足度が低い領域」では、特に「B⑦（必要な時に）生活保護を受給できること」は重要度が高い項目の中でも、充足度が低い（グループ2）。また、「A⑤今後のキャリアにおけるロールモデルがいること」「C⑤コミュニティ活動など地域とのつながりがあること」については、重要度も充足度も共に低い（グループ3）。

図表 III - 37 【非正規・無職】重要度×充足度



図表 III - 38 【非正規・無職】項目別の重要度及び充足度（スコア）

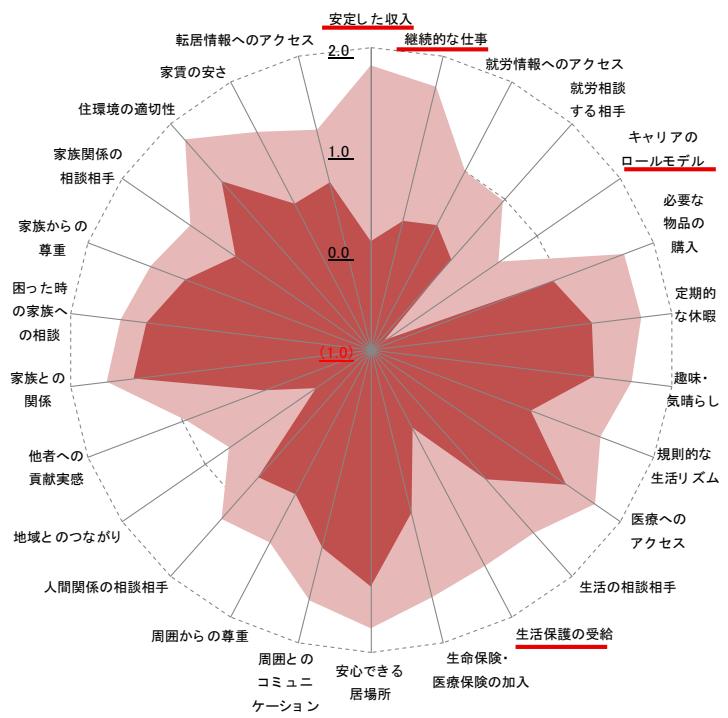
	項目	充足度	重要度
A.就労に関するニーズ	①安定しており、生活する上で困らない収入を得られること	A①	0.07576
	②継続して働き続けられる仕事があること	A②	0.31818
	③就労に関する情報（企業情報・就労支援団体など）にアクセスできること	A③	0.40196
	④就労に関して相談できる人・団体がいること	A④	0.20183
	⑤今後のキャリアにおけるロールモデルがいること	A⑤	-0.8298
B.生活に関するニーズ	①必要な物品（食料・衣服）を必要なときにいつでも購入できること	B①	0.93333
	②定期的に休暇を得られること	B②	1.20438
	③趣味があること（気晴らしができること）	B③	1.22222
	④生活リズムが規則的なこと	B④	0.69403
	⑤（必要な時に）医者にかかることがある	B⑤	1.35135
	⑥生活に困ったときに相談できる人・団体がいること	B⑥	0.72
	⑦（必要な時に）生活保護を受給できること	B⑦	-0.1237
	⑧（必要な時に）死亡・障がい・病気などに備えるための保険に加入していること	B⑧	0.66923
C.社会参加に関するニーズ	①安心できる居場所があること	C①	1.34459
	②友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑であること	C②	1.02941
	③友人や周囲の人から尊重されていると感じられること	C③	0.61468
	④友人や周囲の人との人間関係に困ったときに相談できる人・団体がいること	C④	0.68595
	⑤コミュニティ活動など地域とのつながりがあること	C⑤	-0.3304
	⑥他者へ貢献できていると感じられること	C⑥	0.13889
D.親からの自立に関するニーズ	①家族との関係が良好であること	D①	1.3741
	②困ったときに家族に相談できること	D②	1.24286
	③家族から尊重されていると感じられること	D③	0.96825
	④家族関係に困ったときに相談できる人・団体がいること	D④	0.63025
	⑤住まいが劣悪な環境ではないこと（雨漏り・冷暖房などの故障）	D⑤	1.23333
	⑥家賃が安い住居を得られること	D⑥	0.63953
	⑦転居に関して必要な情報にアクセスできること	D⑦	0.71591

② 「非正規雇用・無職」における「重要度」及び「充足度」の差

「非正規雇用・無職」である若者の地域生活ニーズについて、「重要度」と「充足度」の各評価点の差をみると、特に「安定した収入」(1.75)で最も大きな差がある。次に、「生活保護の受給」(1.55)、「継続的な仕事」(1.37)、「キャリアのロールモデル」(1.37)が続いている。

図表 III - 39 「非正規・無職」における「重要度」及び「充足度」の差

ニーズ項目		a)重要度	b)充足度	a) - b)
就労	安定した収入	1.82	0.08	1.75
	継続的な仕事	1.69	0.32	1.37
	就労情報へのアクセス	1.00	0.40	0.60
	就労相談する相手	0.98	0.20	0.77
	キャリアのロールモデル	0.54	-0.83	1.37
生活	必要な物品の購入	1.69	0.93	0.75
	定期的な休暇	1.70	1.20	0.50
	趣味・気晴らし	1.60	1.22	0.38
	規則的な生活リズム	1.43	0.69	0.73
	医療へのアクセス	1.70	1.35	0.34
	生活の相談相手	1.43	0.72	0.71
	生活保護の受給	1.43	-0.12	1.55
	生命保険・医療保険の加入	1.53	0.67	0.86
社会参加	安心できる居場所	1.76	1.34	0.42
	周囲とのコミュニケーション	1.57	1.03	0.54
	周囲からの尊重	1.16	0.61	0.55
	人間関係の相談相手	1.24	0.69	0.56
	地域とのつながり	0.71	-0.33	1.04
	他者への貢献実感	0.97	0.14	0.83
親からの自立	家族との関係	1.64	1.37	0.27
	困った時の家族への相談	1.51	1.24	0.26
	家族からの尊重	1.34	0.97	0.37
	家族関係の相談相手	1.17	0.63	0.54
	住環境の適切性	1.79	1.23	0.55
	家賃の安さ	1.44	0.64	0.80
	転居情報へのアクセス	1.25	0.72	0.53



(凡例) 薄い赤：重要度、濃い赤：充足度

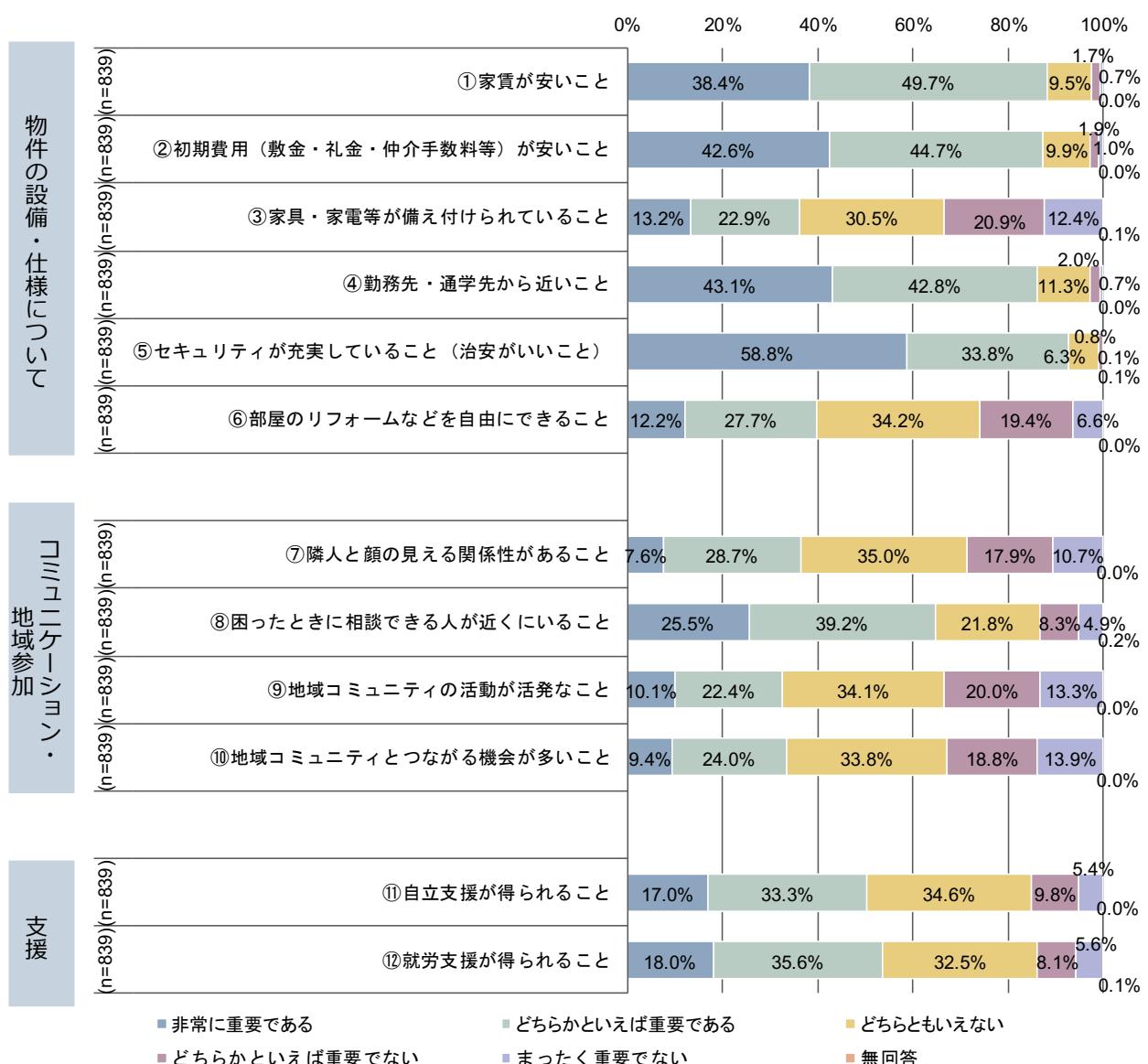
6. 住まいに求める設備・機能

住まいに求める設備・機能について、「物件の設備・仕様について」では「セキュリティが充実していること（治安がいいこと）」と回答する割合⁹が92.6%（「非常に重要である」「どちらかといえば重要である」の合計値）で最も高い。次いで、「家賃が安いこと」(88.1%)、「初期費用（敷金・礼金・仲介手数料等）が安いこと」(87.2%)などの経済的負担に関する項目や、「勤務先・通学先から近いこと」(85.9%)といった交通アクセス面に関する項目が挙げられる。

「コミュニケーション・地域参加」では、「困ったときに相談できる人が近くにいること」と回答する割合が64.7%と高い傾向にある。また、「地域コミュニティの活動が活発なこと」「地域コミュニティとつながる機会が多いこと」といった機能もそれぞれ約3割に上る。

また、就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」では「自立支援が得られること」「就労支援が得られること」が重要だと回答する割合が、それぞれ過半数を超えており。

図表 III - 40 住まいに求める設備・機能について



⁹ 「非常に重要である」「どちらかといえば重要である」の合計値

図表 III - 41 【就業状態別】住まいに求める設備・機能について

【重要度】	上段：回答数 下段：割合(%)	合計	非常に 重要で ある	どちらか といえば 重要で ある	どちらと もいえな い	どちらか といえば 重要で ない	まったく 重要で ない	無回答
①家賃が安いこと	合計	839	322	417	80	14	6	0
		100.0%	38.4%	49.7%	9.5%	1.7%	0.7%	0.0%
	正規雇用	409	148	206	41	9	5	0
		100.0%	36.2%	50.4%	10.0%	2.2%	1.2%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	67	82	13	1	0	0
		100.0%	41.1%	50.3%	8.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	その他	267	107	129	26	4	1	0
		100.0%	40.1%	48.3%	9.7%	1.5%	0.4%	0.0%
②初期費用（敷金・礼金・仲介手数料等）が安いこと	合計	839	357	375	83	16	8	0
		100.0%	42.6%	44.7%	9.9%	1.9%	1.0%	0.0%
	正規雇用	409	157	183	53	10	6	0
		100.0%	38.4%	44.7%	13.0%	2.4%	1.5%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	78	74	10	1	0	0
		100.0%	47.9%	45.4%	6.1%	0.6%	0.0%	0.0%
	その他	267	122	118	20	5	2	0
		100.0%	45.7%	44.2%	7.5%	1.9%	0.7%	0.0%
③家具・家電等が備え付けられ ていること	合計	839	111	192	256	175	104	1
		100.0%	13.2%	22.9%	30.5%	20.9%	12.4%	0.1%
	正規雇用	409	41	87	124	100	56	1
		100.0%	10.0%	21.3%	30.3%	24.4%	13.7%	0.2%
	非正規雇用・無職	163	22	35	58	36	12	0
		100.0%	13.5%	21.5%	35.6%	22.1%	7.4%	0.0%
	その他	267	48	70	74	39	36	0
		100.0%	18.0%	26.2%	27.7%	14.6%	13.5%	0.0%
④勤務先・通学先から近いこと	合計	839	362	359	95	17	6	0
		100.0%	43.1%	42.8%	11.3%	2.0%	0.7%	0.0%
	正規雇用	409	167	182	45	9	6	0
		100.0%	40.8%	44.5%	11.0%	2.2%	1.5%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	68	69	22	4	0	0
		100.0%	41.7%	42.3%	13.5%	2.5%	0.0%	0.0%
	その他	267	127	108	28	4	0	0
		100.0%	47.6%	40.4%	10.5%	1.5%	0.0%	0.0%
⑤セキュリティが充実していること (治安がいいこと)	合計	839	493	284	53	7	1	1
		100.0%	58.8%	33.8%	6.3%	0.8%	0.1%	0.1%
	正規雇用	409	229	143	32	3	1	1
		100.0%	56.0%	35.0%	7.8%	0.7%	0.2%	0.2%
	非正規雇用・無職	163	90	61	9	3	0	0
		100.0%	55.2%	37.4%	5.5%	1.8%	0.0%	0.0%
	その他	267	174	80	12	1	0	0
		100.0%	65.2%	30.0%	4.5%	0.4%	0.0%	0.0%
⑥部屋のリフォームなどを自由に できること	合計	839	102	232	287	163	55	0
		100.0%	12.2%	27.7%	34.2%	19.4%	6.6%	0.0%
	正規雇用	409	42	110	142	83	32	0
		100.0%	10.3%	26.9%	34.7%	20.3%	7.8%	0.0%
	非正規雇用・無職	163	24	37	65	29	8	0
		100.0%	14.7%	22.7%	39.9%	17.8%	4.9%	0.0%
	その他	267	36	85	80	51	15	0
		100.0%	13.5%	31.8%	30.0%	19.1%	5.6%	0.0%

【重要度】		上段：回答数 下段：割合(%)	合計	非常に 重要で ある	どちらか といえ ば 重要で ある	どちらと もいえな い	どちらか といえ ば 重要で ない	まったく 重要で ない	無回答
⑦隣人と顔の見える関係性があること	合計	839	64	241	294	150	90	0	
		100.0%	7.6%	28.7%	35.0%	17.9%	10.7%	0.0%	
	正規雇用	409	23	113	141	83	49	0	
		100.0%	5.6%	27.6%	34.5%	20.3%	12.0%	0.0%	
	非正規雇用・無職	163	13	43	59	35	13	0	
		100.0%	8.0%	26.4%	36.2%	21.5%	8.0%	0.0%	
	その他	267	28	85	94	32	28	0	
		100.0%	10.5%	31.8%	35.2%	12.0%	10.5%	0.0%	
⑧困ったときに相談できる人が近くにいること	合計	839	214	329	183	70	41	2	
		100.0%	25.5%	39.2%	21.8%	8.3%	4.9%	0.2%	
	正規雇用	409	88	163	96	38	23	1	
		100.0%	21.5%	39.9%	23.5%	9.3%	5.6%	0.2%	
	非正規雇用・無職	163	45	61	39	12	6	0	
		100.0%	27.6%	37.4%	23.9%	7.4%	3.7%	0.0%	
	その他	267	81	105	48	20	12	1	
		100.0%	30.3%	39.3%	18.0%	7.5%	4.5%	0.4%	
⑨地域コミュニティの活動が活発なこと	合計	839	85	188	286	168	112	0	
		100.0%	10.1%	22.4%	34.1%	20.0%	13.3%	0.0%	
	正規雇用	409	31	83	136	92	67	0	
		100.0%	7.6%	20.3%	33.3%	22.5%	16.4%	0.0%	
	非正規雇用・無職	163	13	36	59	39	16	0	
		100.0%	8.0%	22.1%	36.2%	23.9%	9.8%	0.0%	
	その他	267	41	69	91	37	29	0	
		100.0%	15.4%	25.8%	34.1%	13.9%	10.9%	0.0%	
⑩地域コミュニティとつながる機会が多いこと	合計	839	79	201	284	158	117	0	
		100.0%	9.4%	24.0%	33.8%	18.8%	13.9%	0.0%	
	正規雇用	409	27	90	139	86	67	0	
		100.0%	6.6%	22.0%	34.0%	21.0%	16.4%	0.0%	
	非正規雇用・無職	163	12	36	62	35	18	0	
		100.0%	7.4%	22.1%	38.0%	21.5%	11.0%	0.0%	
	その他	267	40	75	83	37	32	0	
		100.0%	15.0%	28.1%	31.1%	13.9%	12.0%	0.0%	
【重要度】		上段：回答数 下段：割合(%)	合計	非常に 重要で ある	どちらか といえ ば 重要で ある	どちらと もいえな い	どちらか といえ ば 重要で ない	まったく 重要で ない	無回答
⑪自立支援が得られるこ	合計	839	143	279	290	82	45	0	
		100.0%	17.0%	33.3%	34.6%	9.8%	5.4%	0.0%	
	正規雇用	409	58	122	146	48	35	0	
		100.0%	14.2%	29.8%	35.7%	11.7%	8.6%	0.0%	
	非正規雇用・無職	163	33	52	56	18	4	0	
		100.0%	20.2%	31.9%	34.4%	11.0%	2.5%	0.0%	
	その他	267	52	105	88	16	6	0	
		100.0%	19.5%	39.3%	33.0%	6.0%	2.2%	0.0%	
⑫就労支援が得られるこ	合計	839	151	299	273	68	47	1	
		100.0%	18.0%	35.6%	32.5%	8.1%	5.6%	0.1%	
	正規雇用	409	63	126	143	41	36	0	
		100.0%	15.4%	30.8%	35.0%	10.0%	8.8%	0.0%	
	非正規雇用・無職	163	34	60	52	12	4	1	
		100.0%	20.9%	36.8%	31.9%	7.4%	2.5%	0.6%	
	その他	267	54	113	78	15	7	0	
		100.0%	20.2%	42.3%	29.2%	5.6%	2.6%	0.0%	

7. MODELHOUSE 事業のターゲット層

(1) 四條畷市におけるターゲット層の有無・属性

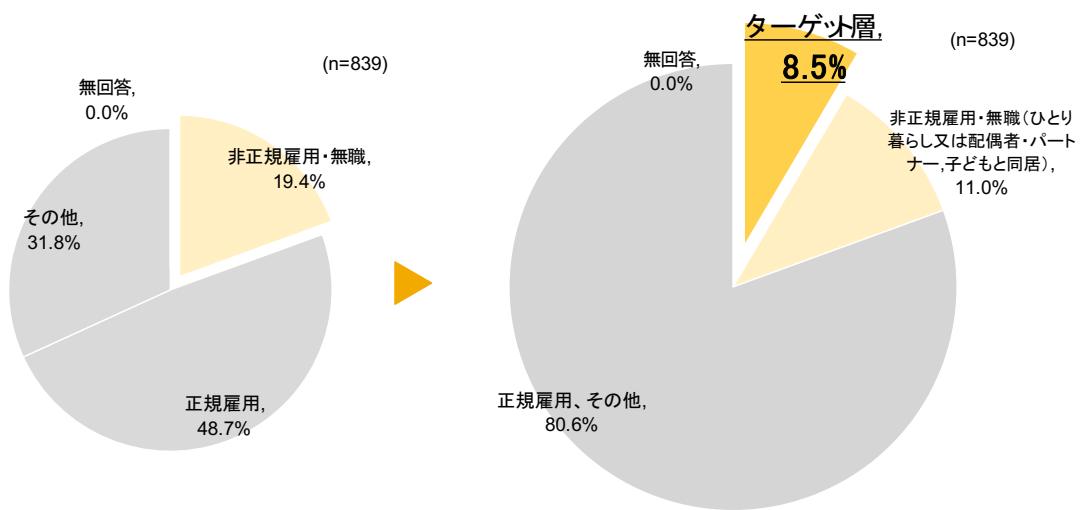
MODEL HOUSE プロジェクトにおけるターゲット層

- ✓ 「非正規雇用・無職」かつ「ひとり暮らしをしていない（同居家族あり※配偶者・パートナー、子どもを除く）」層を指す

① 四條畷市におけるターゲット層のボリューム

四條畷市における「非正規雇用・無職」という就業状態の若者は 19.4% である。そのうち、ひとり暮らしをしていない（同居家族あり※配偶者・パートナー、子どもを除く）若者をターゲットとすると、その割合は 8.5% である。

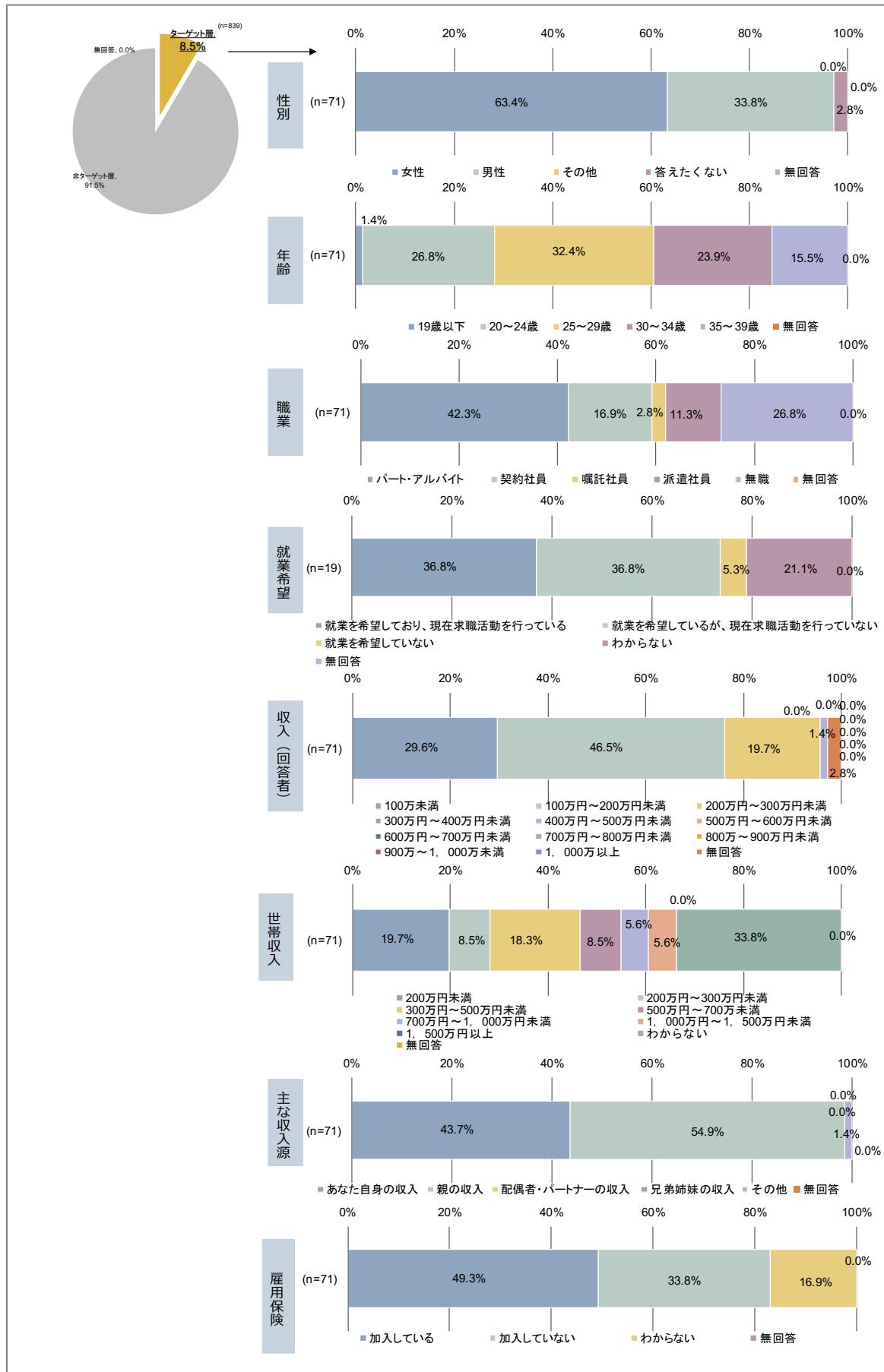
図表 III-42 MODEL HOUSE プロジェクトのターゲット層のボリューム



② 四條畷市におけるターゲット層の属性

【性別】	：「女性」が 63.4% であり、「男性」が 33.8% である
【年齢】	：「25~29 歳」が 32.4% で最も高く、次いで「20~24 歳」(26.8%)「30~34 歳」(23.9%) である
【職業】	：「パート・アルバイト」が 42.3% で最も高く、次いで「無職」(26.8%)「契約社員」(16.9%) である
【就業希望】	：「就業を希望しており、現在求職活動を行っている」(36.8%)、「就業を希望しているが、現在求職活動を行っていない」(36.8%) を合わせると就業希望者は 7 割を超える
【収入（回答者）】	：「100 万円~200 万円未満」が 46.5% で最も高く、次いで「100 万未満」(29.6%) である 収入が 200 万未満の若者は 7 割強に上る
【世帯収入】	：「分からない」が 33.8% で最も高く、次いで「200 万未満」(19.7%)「300~500 万未満」(18.3%) である
【主な収入源】	：「親の収入」が 54.9% で最も高く、次いで「自身の収入」(43.7%) である
【雇用保険の加入の有無】	：「加入している」が 49.3% であり、「加入していない」が 33.8% である

図表 III - 43 MODEL HOUSE プロジェクトのターゲット層の属性

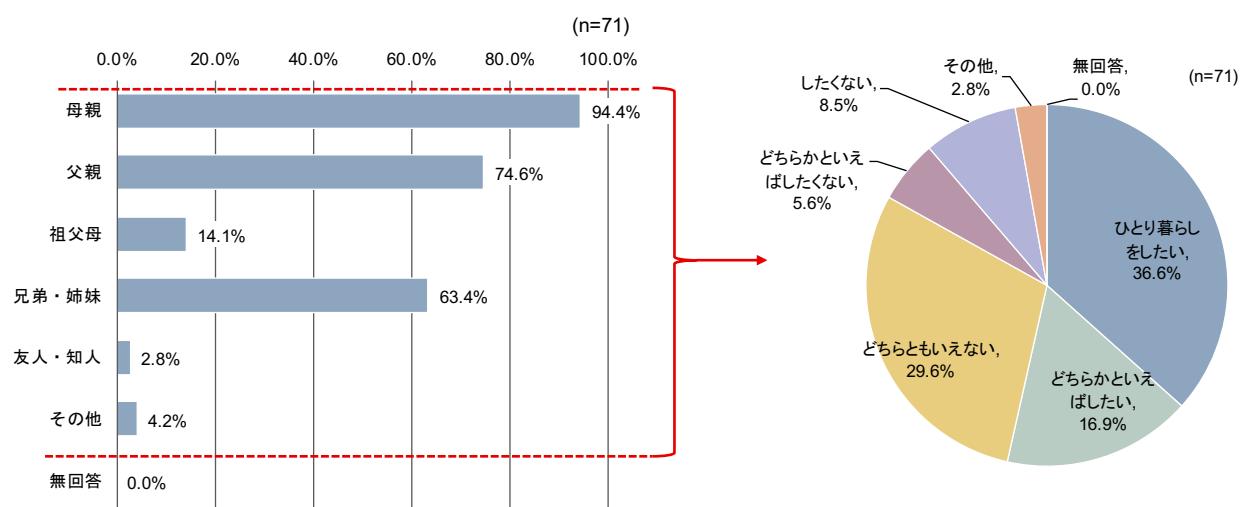


(2) ターゲット層における同居家族の構成、ひとり暮らしの意向の有無・理由

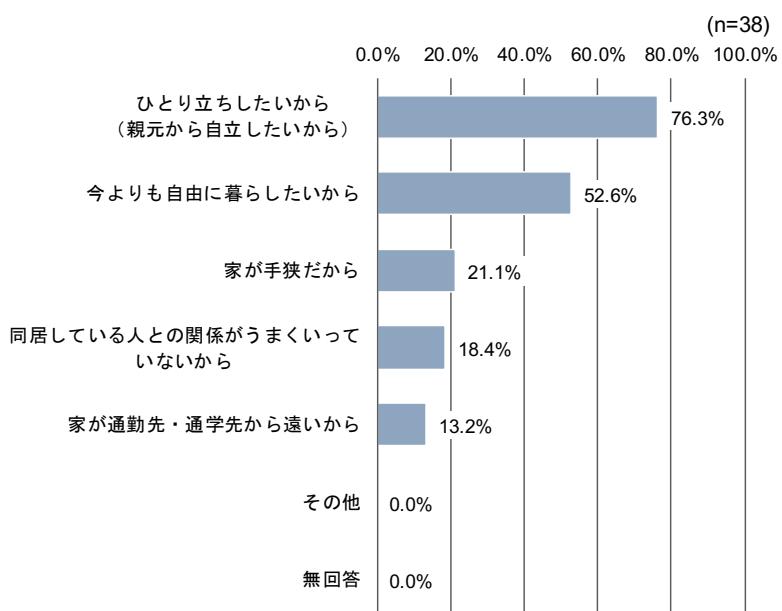
現在、ターゲット層のうち、ひとり暮らしの意向の有無をみると、「ひとり暮らしをしたい」(36.6%)、「どちらかといえばひとり暮らしをしたい」(16.9%)であり、約5割がひとり暮らしの意向があることが分かる。

また、ひとり暮らしを希望する理由をみると、「ひとり立ちしたいから」と回答する割合が76.3%で最も高く、次いで「今よりも自由に暮らしたいから」(52.6%)、「家が手狭だから」(21.1%)である。

図表 III - 44 [左] 同居家族の構成／[右] ひとり暮らしの意向



図表 III - 45 ひとり暮らしを希望する理由



(3) 四條畷市におけるターゲット層の地域生活ニーズ

① 「就労」に関するニーズ

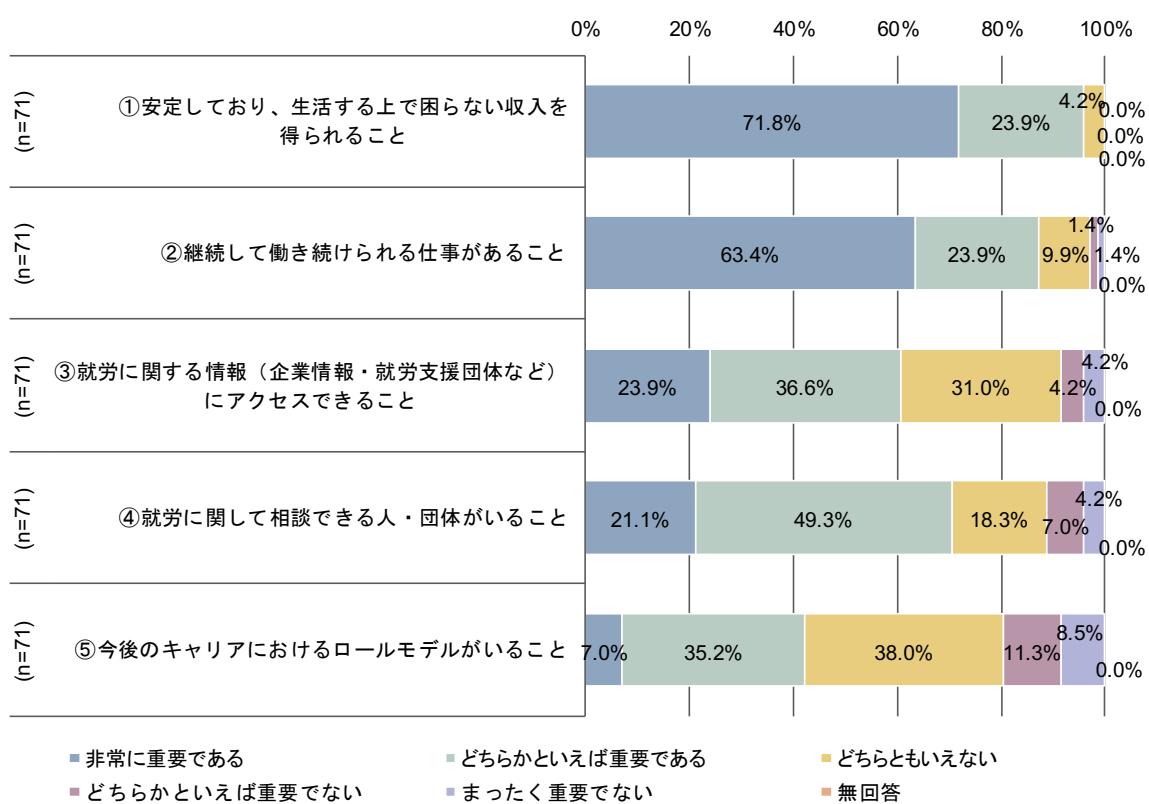
i. 重要度について

「就労」に関するニーズについて、「重要度」をみると、「安定しており、生活する上で困らない収入を得られること」が重要であると回答する割合が95.8%で最も高く、次いで「継続して働き続けられる仕事があること」(87.3%)である。また、「就労に関する情報（企業情報・就労支援団体など）にアクセスできること」(60.6%)、「就労に関して相談できる人・団体がいること」(70.4%)であり、いずれも過半数を超えてい。

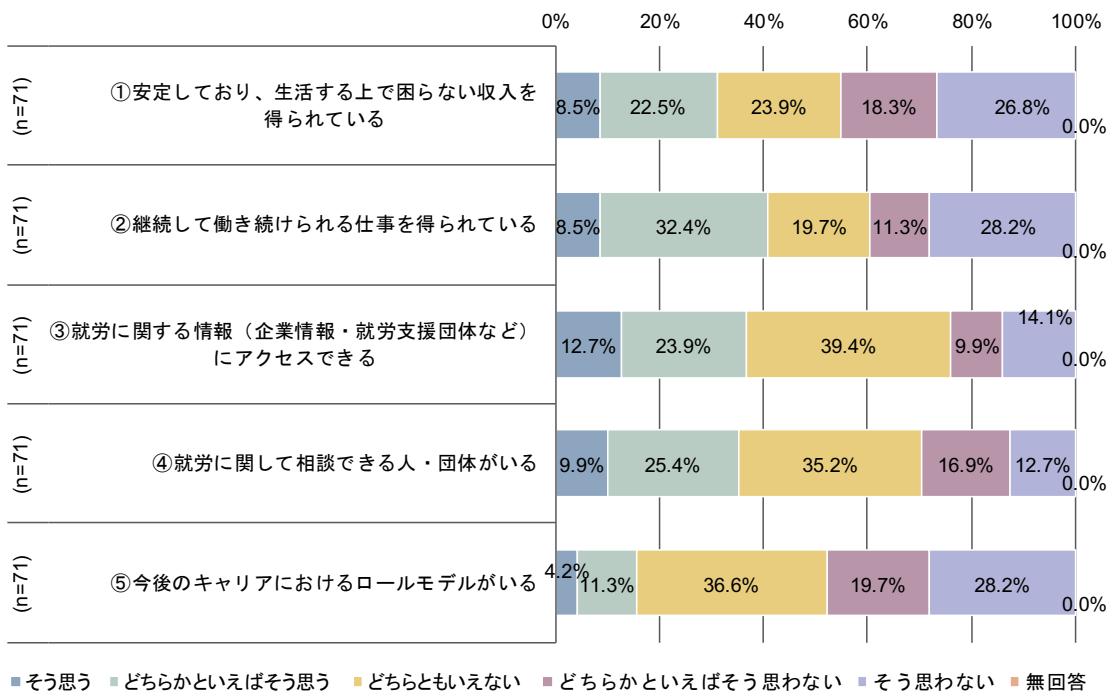
ii. 充足度について

「充足度」をみると、重要度が高かった「安定しており、生活する上で困らない収入を得られること」では31.0%、「継続して働き続けられる仕事があること」では40.8%であった。また、「就労に関する情報（企業情報・就労支援団体など）にアクセスできること」「就労に関して相談できる人・団体がいること」はいずれも3割程度であり、「今後のキャリアにおけるロールモデルがいる」は15.5%に留まる。

図表 III - 46 【重要度】「就労」に関するニーズ



図表 III - 47 【充足度】「就労」に関するニーズ



② 「生活」に関するニーズ

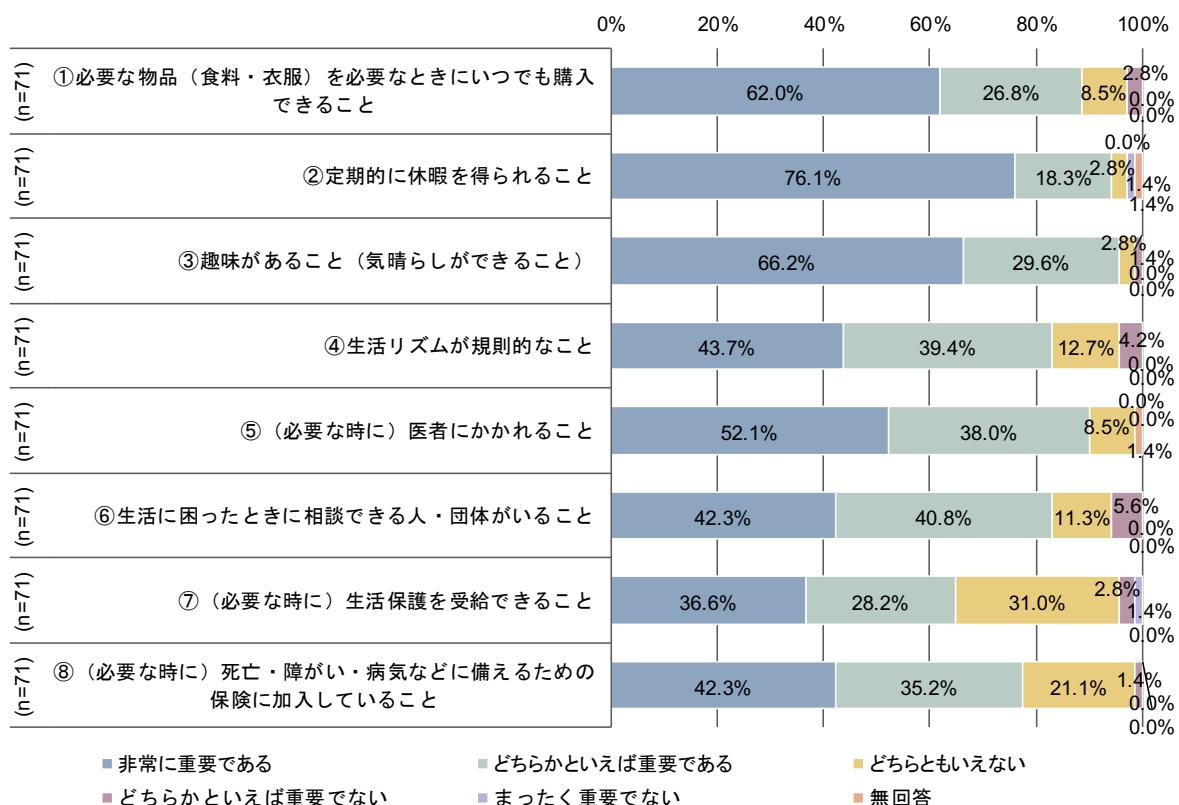
i. 重要度について

「生活」に関するニーズについて、「重要度」をみると、「趣味があること」が重要であると回答する割合が95.8%で最も高く、次いで「定期的に休暇を得られること」(94.4%)、「(必要な時に)医者にかかれること」(90.1%)である。また、「生活リズムが規則的なこと」「生活に困ったときに相談できる人・団体がいること」が重要であると回答する割合はいずれも8割を超えてい。

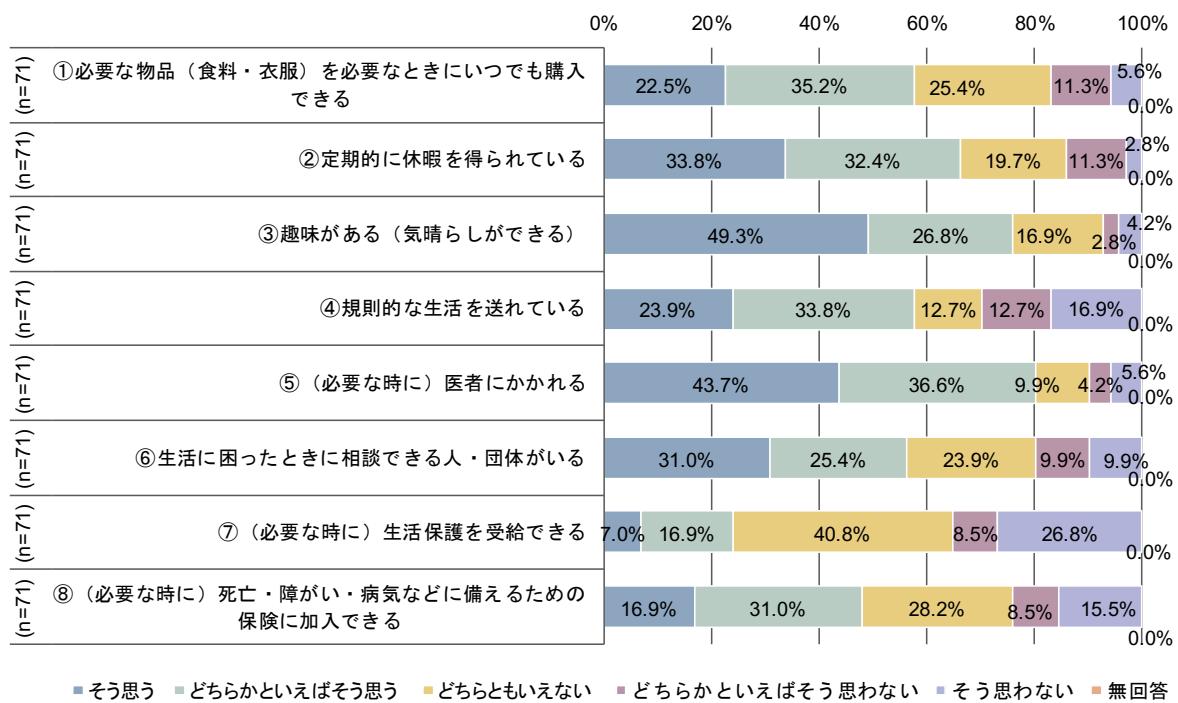
ii. 充足度について

「充足度」をみると、重要度が高かった「趣味があること」では76.1%、「定期的に休暇を得られている」では66.2%であった。また、「生活リズムが規則的なこと」では57.7%、「生活に困ったときに相談できる人・団体がいること」は56.3%である。

図表 III - 48 【重要度】「生活」に関するニーズ



図表 III - 49 【充足度】「生活」に関するニーズ



③ 「社会参加」に関するニーズ

i. 重要度について

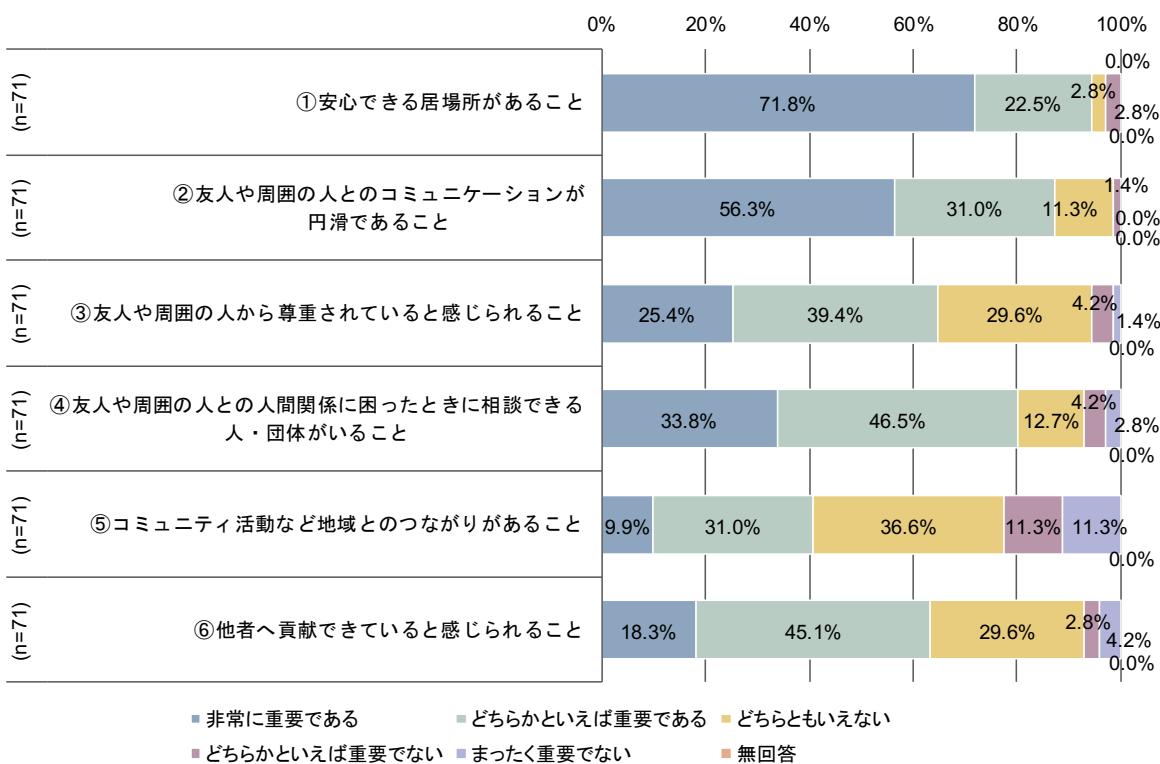
「社会参加」に関するニーズについて、「重要度」をみると、「安心できる居場所があること」が重要であると回答する割合が94.4%で最も高く、次いで「友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑であること」(87.3%)、「友人や周囲の人との人間関係に困ったときに相談できる人・団体がいること」(80.3%)である。

また、地域コミュニティとの関わりについては、「コミュニティ活動など地域とのつながりがあること」は40.8%で相対的に低い一方で、「他者へ貢献できていると感じられること」は63.4%で過半数を超えており、地域とのつながりに対する意識が高く、地域社会への貢献意欲も高いことが示されている。

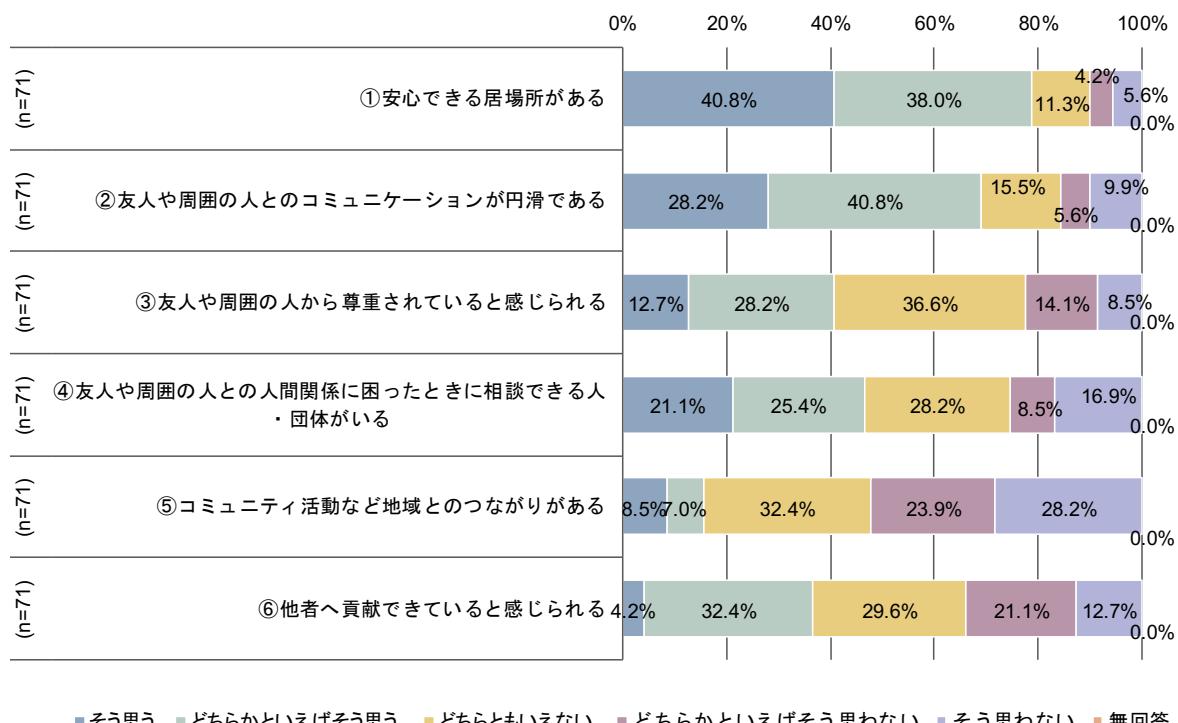
ii. 充足度について

「充足度」をみると、重要度が高かった「安心できる居場所があること」では78.9%、「友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑である」では69.0%であった。また、地域コミュニティとの関わりについて、「コミュニティ活動など地域とのつながりがある」は15.5%、「他者へ貢献できていると感じられる」は36.6%に留まる。

図表 III - 50 【重要度】「社会参加」に関するニーズ



図表 III - 51 【充足度】「社会参加」に関するニーズ



④ 「親からの自立」に関するニーズ

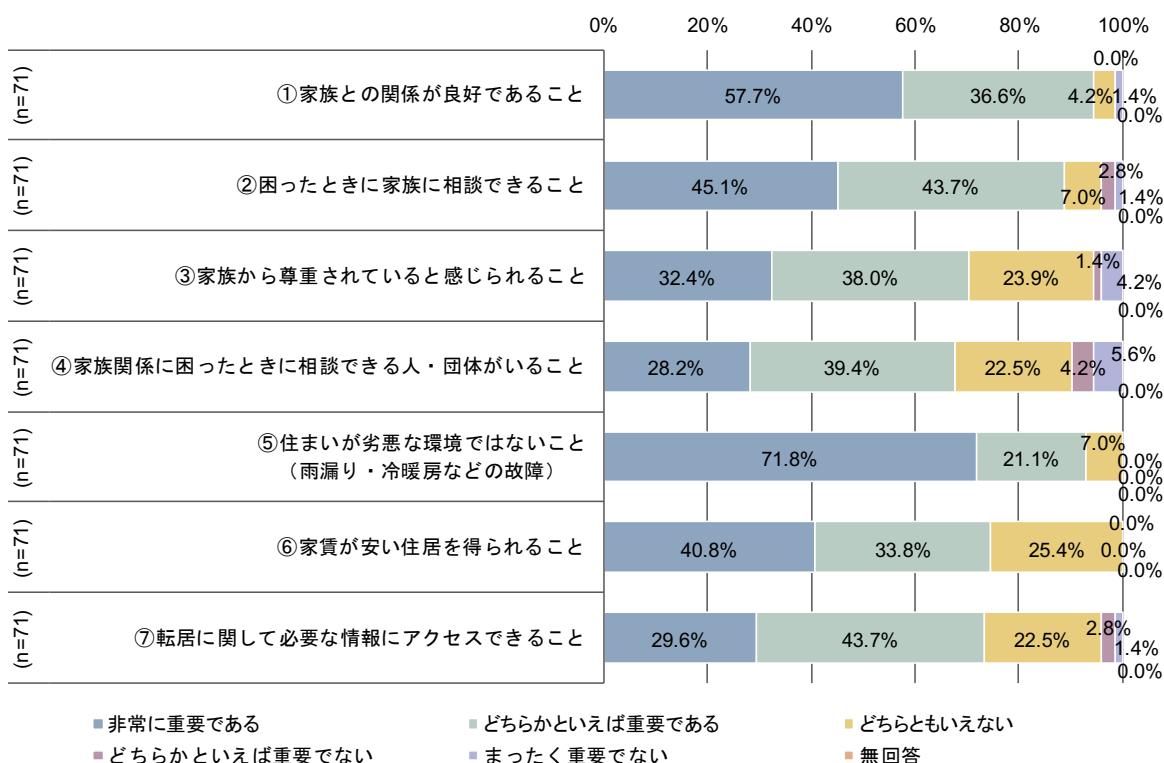
i. 重要度について

「親からの自立」に関するニーズについて、「重要度」をみると、「家族との関係が良好であること」が重要であると回答する割合が94.4%で最も高く、次いで「住まいが劣悪な環境ではないこと」(93.0%)である。

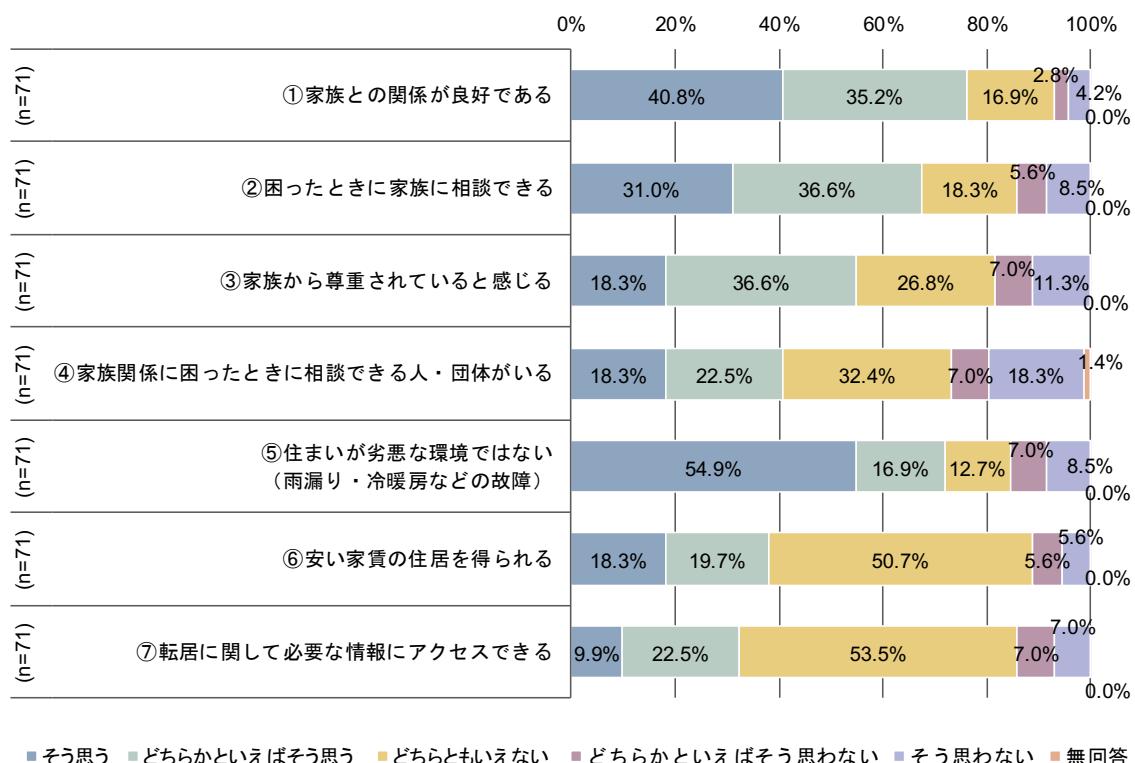
ii. 充足度について

「充足度」をみると、重要度が高かった「家族との関係が良好であること」では76.1%、「住まいが劣悪な環境ではない」は71.8%であった。一方、「家族関係に困ったときに相談できる人・団体がいる」「安い家賃の住居を得られる」「転居に関して必要な情報にアクセスできる」はいずれも過半数を下回る。

図表 III - 52 【重要度】「親からの自立」に関するニーズ



図表 III - 53 【充足度】「親からの自立」に関するニーズ



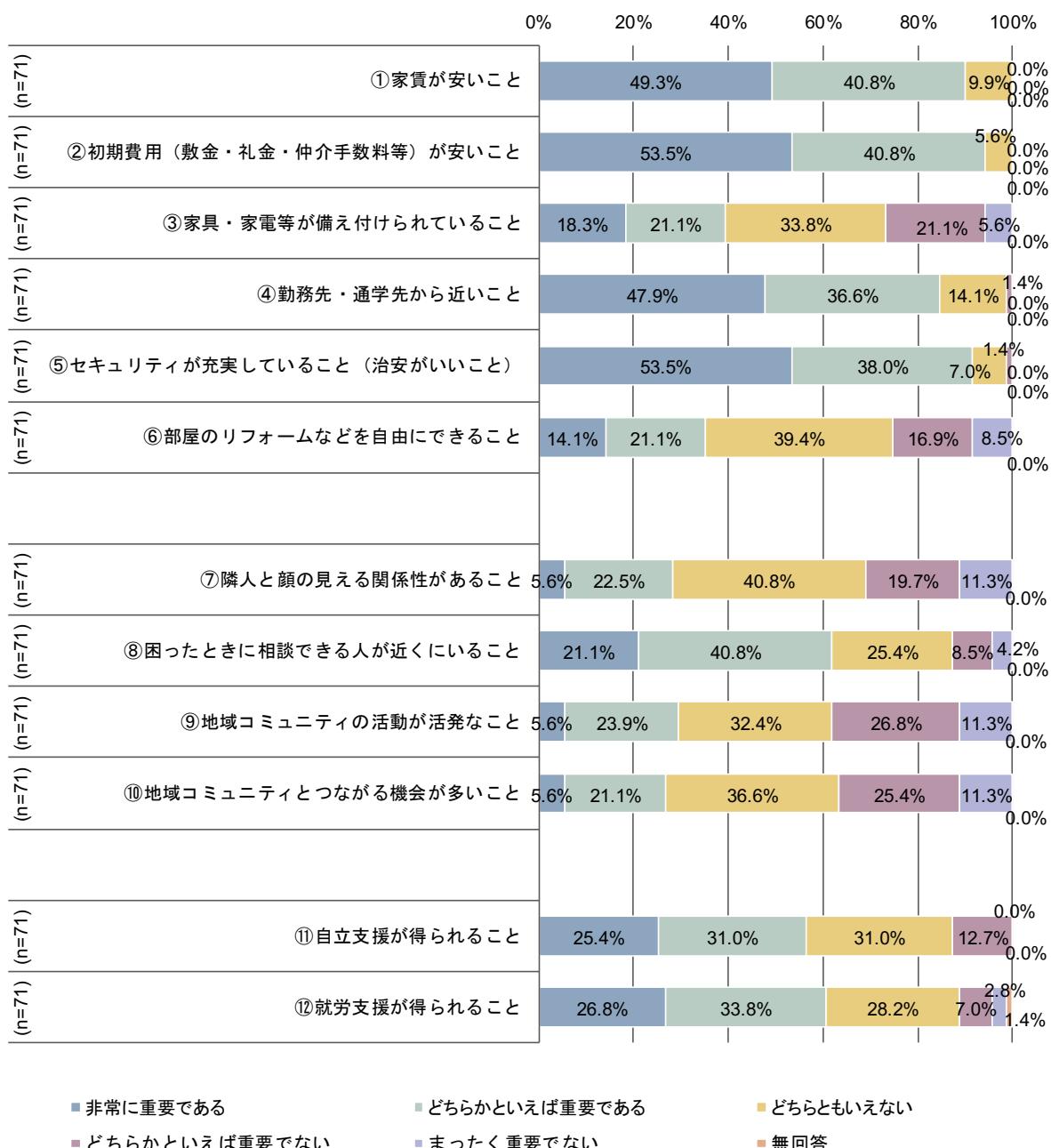
(4) 四條畷市におけるターゲット層が求める住まいの設備・機能

住まいに求める設備・機能について、「物件の設備・仕様について」では「初期費用（敷金・礼金・仲介手数料等）が安いこと」と回答する割合¹⁰が94.4%で最も高い。次いで、「セキュリティが充実していること（治安がいいこと）」（91.5%）、「家賃が安いこと」（90.1%）などの経済的負担に関する項目が挙げられた。

本事業の重要な機能である「コミュニケーション・地域参加」では、「困ったときに相談できる人が近くにいること」と回答する割合が62.0%と最も高い。また、「地域コミュニティの活動が活発なこと」「地域コミュニティとつながる機会が多いこと」といった機能はそれぞれ約3割程度である。

また、「自立支援が得られること」「就労支援が得られること」については、それぞれ過半数が住まいに求める設備・機能として挙げている。

図表 III - 54 ターゲット層が求める住まいの設備・機能



¹⁰ 「非常に重要である」「どちらかといえば重要である」の合計値

第IV章 今後の方針

1. 調査結果の総括

(1) 四條畷市における若者地域生活ニーズについて

① 若者の雇用状況について

- ✓ 若者の雇用状況について、**非正規雇用**（「パート・アルバイト」「契約社員」「嘱託社員」「派遣社員」の合計値）は 16.2%であり、「無職」と回答する割合は 3.2%である。
- ✓ 「無職」と回答した方の就業希望の有無については、就業希望ありと回答する割合は 59.3%であり、うち**現在就職活動を行っている**と回答する割合は 29.6%である。

② 若者のひとり暮らしの意向について

- ✓ 現在、ひとり暮らしをしている若者は、「正規雇用」は 10.5%であるのに対して、「**非正規雇用・無職**」で「ひとり暮らし」をしている割合は 4.9%に留まる。
- ✓ ひとり暮らしの意向の有無をみると、「**正規雇用**」「**非正規雇用・無職**」とともに約 5 割の回答者が「ひとり暮らし意向あり」（「ひとり暮らしをしたい」「どちらかといえばひとり暮らしをしたい」と回答する割合の合計値）と回答している。なお、「ひとり暮らしをしたい」と回答する割合だけをみると「正規雇用」では 27.5%であるのに対して、「**非正規雇用・無職**」で「ひとり暮らしをしたい」は 36.6%に上る。
- ✓ ひとり暮らしを希望する理由としては、「ひとり立ちしたいから（親元から自立したいから）」が 74.6%で最も多く、次いで「今よりも自由に暮らしたいから」（49.6%）である。就業状態別にみると、「**非正規雇用・無職**」では、特に「家が手狭だから」「同居している人との関係がうまくいっていないから」と回答する割合が「正規雇用」と比較して高い。

③ 若者の地域生活ニーズについて

i. 就労に関して

①重要度

- ✓ 「安定しており、生活する上で困らない収入を得られること」が重要であると回答する割合が 97.1%で最も高く、次いで「継続して働き続けられる仕事があること」（92.1%）、「就労に関して相談できる人・団体がいること」（67.9%）である。

②充足度

- ✓ 「就労に関する情報にアクセスできること」「就労に関して相談できる人・団体がいること」「キャリアにおけるロールモデルがいること」の充足度はいずれも過半数を下回る。
- ✓ 就業状態別にみると、「**非正規雇用・無職**」で「安定しており、生活する上で困らない収入を得られること」「継続して働き続けられる仕事があること」「今後のキャリアにおけるロールモデルがいる」が充足していると回答する割合は、「正規雇用」と比較して低い。

ii. 生活に関するニーズ

①重要度

- ✓ 「定期的に休暇を得られること」が重要であると回答する割合が 95.2%で最も高く、次いで「医者にかかれること」(94.0%)、「趣味があること」(91.9%) である。
- ✓ 就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」で「生活に困ったときに相談できる人・団体がいること」「生活保護を受給できること」が重要であると回答する割合は「正規雇用」と比較して若干高い傾向にある。

②充足度

- ✓ 「定期的に休暇を得られること」では 74.0%、「医者にかかれること」では 85.3%であった。また、「生活に困ったときに相談できる人・団体がいる」といった項目の充足度は 58.0%に留まる。
- ✓ 「非正規雇用・無職」で「必要な物品（食料・衣服）を必要なときにいつでも購入できる」「死亡・障がい・病気などに備えるための保険に加入できる」が充足していると回答する割合は、「正規雇用」と比較して低い。

iii. 社会参加に関するニーズ

①重要度

- ✓ 「安心できる居場所があること」が重要であると回答する割合が 97.3%で最も高く、次いで「友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑であること」(92.0%) である。また、地域コミュニティとの関わりについては、「コミュニティ活動など地域とのつながりがあること」(54.1%)、「他者へ貢献できていると感じられること」(63.6%) であり、いずれも過半数を超えていた。
- ✓ 就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」で「友人や周囲の人から尊重されていると感じられること」が重要であると回答する割合は「正規雇用」と比較して若干低い傾向にある。

②充足度

- ✓ 「充足度」をみると、重要度が高かった「安心できる居場所があること」では 88.1%、「友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑である」では 79.6%であった。また、地域コミュニティとの関わりについて、「コミュニティ活動など地域とのつながりがあること」で 34.3%、「他者へ貢献できていると感じられること」で 43.6%といずれも過半数を下回った。
- ✓ 就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」で「友人や周囲の人から尊重されていると感じられる」が充足していると回答する割合は、「正規雇用」と比較して低い。また、「非正規雇用・無職」の方が、「友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑である」「他者へ貢献できていると感じられること」も若干低くなっている。

iv. 親からの自立に関するニーズ

①重要度

- ✓ 「住まいが劣悪な環境ではないこと」が重要であると回答する割合が 95.6%で最も高く、次いで「家族との関係が良好であること」(93.7%)、「困ったときに家族に相談できること」(90.0%)である。
- ✓ 就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」で「転居に関して必要な情報にアクセスできること」「家賃の安さ」が重要であると回答する割合は「正規雇用」と比較して若干高い傾向にある。

②充足度

- ✓ 「家族との関係が良好である」では 85.5%、「住まいが劣悪な環境ではないこと」では 85.0%であった。一方で、「家族関係に困ったときに相談できる人・団体がいる」は 55.2%に留まり、また「安い家賃の住居を得られる」「転居に関して必要な情報にアクセスできる」はいずれも過半数を下回った。
- ✓ 「非正規雇用・無職」で「家族との関係が良好である」「困ったときに家族に相談できること」「家族から尊重されていると感じること」「住まいが劣悪な環境ではない」「安い家賃の住居を得られる」が充足していると回答する割合は、「正規雇用」と比較して若干低い傾向にある。

④住まいに求める設備・機能

- ✓ 「物件の設備・仕様について」では「セキュリティが充実していること（治安がいいこと）」と回答する割合が 92.6%（「非常に重要である」「どちらかといえば重要である」の合計値）で最も高い。次いで、「家賃が安いこと」(88.1%)、「初期費用（敷金・礼金・仲介手数料等）が安いこと」(87.2%)などの経済的負担に関する項目や、「勤務先・通学先から近いこと」(85.9%)といった交通アクセス面に関する項目が挙げられる。
- ✓ 「コミュニケーション・地域参加」では、「困ったときに相談できる人が近くにいること」と回答する割合が 64.7%と高い傾向にある。また、「地域コミュニティの活動が活発なこと」「地域コミュニティとつながる機会が多いこと」といった機能もそれぞれ約 3 割に上る。
- ✓ また、就業状態別にみると、「非正規雇用・無職」では「自立支援が得られること」「就労支援が得られること」が重要だと回答する割合が、それぞれ過半数を超えている。

(2) MODEL HOUSE プロジェクトのターゲット層における若者地域生活ニーズについて

① ターゲット層のボリューム・属性

- ✓ 四條畷市における「非正規雇用・無職」の若者は **19.4%**である。そのうち、ひとり暮らしをしていない（同居家族あり※配偶者・パートナー、子どもを除く）若者をターゲットとすると、四條畷市における本事業のターゲット層の割合は **8.5%**である。
- ✓ このターゲット層の属性をみると、性別は「女性」が約 **6割**であり、年齢は「**25～29歳**」が **32.4%**で最も高く、次いで「**20～24歳**」「**30～34歳**」である。また、就業状態をみると、「**パート・アルバイト**」が **42.3%**で最も高く、次いで「**無職**」(26.8%)、「**契約社員**」(16.9%)である。「**無職**」の方のうち、就業意向の有無をみると、約 **7割**が**就業を希望**している。また、1年間の収入（回答者）をみると、**収入が200万未満**の割合は **7割強**に上る。

② ターゲット層のひとり暮らし意向について

- ✓ 現在、ターゲット層のうち、ひとり暮らしの意向の有無をみると、「ひとり暮らしをしたい」(36.6%)、「どちらかといえばひとり暮らしをしたい」(16.9%)であり、約 **5割**が**ひとり暮らしの意向がある**ことが分かる。
- ✓ また、ひとり暮らしを希望する理由をみると、「ひとり立ちしたいから」と回答する割合が **76.3%**で最も高く、次いで「今よりも自由に暮らしたいから」(52.6%)、「家が手狭だから」(21.1%)である。

③ ターゲット層の地域生活ニーズについて

i. 就労に関するニーズ

①重要度

- ✓ 「**安定しており、生活する上で困らない収入を得られること**」が重要であると回答する割合が **95.8%**で最も高く、次いで「**継続して働き続けられる仕事があること**」(87.3%)である。また、「**就労に関する情報（企業情報・就労支援団体など）にアクセスできること**」(60.6%)、「**就労に関して相談できる人・団体がいること**」(70.4%)であり、いずれも過半数を超えている。

②充足度

- ✓ 「**安定しており、生活する上で困らない収入を得られること**」が**充足している**と回答する割合は **31.0%**、「**継続して働き続けられる仕事があること**」は **40.8%**であった。また、「**就労に関する情報（企業情報・就労支援団体など）にアクセスできること**」「**就労に関して相談できる人・団体がいること**」はいずれも **3割程度**であり、「**今後のキャリアにおけるロールモデルがいる**」は **15.5%**に留まる。

ii. 生活に関するニーズ

①重要度

- ✓ 「趣味があること」が重要であると回答する割合が 95.8%で最も高く、次いで「定期的に休暇を得られること」(94.4%)、「（必要な時に）医者にかかること」(90.1%) である。
- ✓ 「生活リズムが規則的なこと」「生活に困ったときに相談できる人・団体がいること」が重要であると回答する割合はいずれも 8 割を超える。

②充足度

- ✓ 「充足度」をみると、重要度が高かった「趣味があること」では 76.1%、「定期的に休暇を得られている」では 66.2%であった。また、「生活リズムが規則的なこと」では 57.7%、「生活に困ったときに相談できる人・団体がいること」は 56.3%である。

iii. 社会参加に関するニーズ

①重要度

- ✓ 「安心できる居場所があること」が重要であると回答する割合が 94.4%で最も高く、次いで「友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑であること」(87.3%)、「友人や周囲の人との人間関係に困ったときに相談できる人・団体がいること」(80.3%) である。
- ✓ また、地域コミュニティとの関わりについては、「コミュニティ活動など地域とのつながりがあること」は 40.8%で相対的に低い一方で、「他者へ貢献できていると感じられることは 63.4%で過半数を超える。

②充足度

- ✓ 重要度が高かった「安心できる居場所があること」では 78.9%、「友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑である」では 69.0%であった。また、地域コミュニティとの関わりについて、「コミュニティ活動など地域とのつながりがある」は 15.5%、「他者へ貢献できていると感じられる」は 36.6%に留まる。

iv. 親からの自立に関するニーズ

①重要度

- ✓ 「家族との関係が良好であること」が重要であると回答する割合が 94.4%で最も高く、次いで「住まいが劣悪な環境ではないこと」(93.0%) である。

②充足度

- ✓ 「家族との関係が良好であること」では 76.1%、「住まいが劣悪な環境ではない」は 71.8%であった。一方、「家族関係に困ったときに相談できる人・団体がいる」「安い家賃の住居を得られる」「転居に関して必要な情報にアクセスできる」はいずれも過半数を下回る。

④ ターゲット層が住まいに求める設備・機能

- ✓ 住まいに求める設備・機能について、「物件の設備・仕様について」では「**初期費用（敷金・礼金・仲介手数料等）が安いこと**」(94.4%) や「**家賃が安いこと**」(90.1%) など経済的な負担に関する項目を回答する割合が多い。その他にも、「**セキュリティが充実していること（治安がいいこと）**」(91.5%) が挙げられた。
- ✓ 本事業の重要な機能である「コミュニケーション・地域参加」では、「困ったときに相談できる人が近くにいること」と回答する割合が **62.0%**と最も高い。また、「地域コミュニティの活動が活発なこと」「地域コミュニティとつながる機会が多いこと」といった機能はそれぞれ約 3 割程度である。
- ✓ また、住まいに求める設備・機能として「**自立支援が得られること**」「**就労支援が得られること**」を挙げる割合は、それぞれ過半数を超えており、

2. 目指す方向性

(1) 地域との協働関係の深化

MODEL HOUSE の取組には、入居者となる若者、サービス提供者となる HELLOlife を中核としつつ、行政の住宅部局・雇用部局・産業部局・福祉部局などが直接的に関与している。また、地域の自治会や近隣住民、商工会・産業支援機関やこれらに所属する企業、若者支援に取り組む団体など、幅広いステークホルダーとの関わりの中で事業を展開することになる。このため、MODEL HOUSE の実施にあたっては、地域内の多様な関係者の理解を得て、協働関係を深めることが求められる。

このうち自治体（都道府県及び市区町村）については、人口構成や産業構造の変化に対応した地域づくりが求められる昨今、MODEL HOUSE の取組に高い関心を寄せる地域も増えつつある。就労だけでなく、生活・社会参加・親からの自立も含めた多面的な MODEL HOUSE の取組が、今後、四條畷市にとどまらず他地域にも普及（スケールアウト）する際には、自治体に新規導入時の中心的役割を期待したい。同時に、当該自治体内の多様な関係者にも理解を得て、それぞれの地域に根付く取組とすることも必要である。

その実現のためには、自治体内の特定の部局にとどまらず、首長や企画担当部局も巻き込んだ全市的取組として位置付けてもらうよう働きかけることが重要になる。本調査で示したような調査結果を基に、ステークホルダーに若者のニーズを理解してもらいつつ、それぞれの期待を受け止められるような、地域で育んでいく MODEL HOUSE のあり方を一緒に考えてもらう機会が必要である。

(2) 若者の顕在的・潜在的ニーズへの対応

本調査では文献調査やインタビュー調査の結果を踏まえ、若者地域生活ニーズを「就労」「生活」「社会参加」「親からの自立」の4側面からなる26項目で構成されるものとして、四條畷市の若者にアンケート調査を実施することで、それぞれのニーズがどの程度存在し、どの程度充足している（または、充足していない）かを明らかにした。その結果、非正規雇用や無職の若者は正規雇用の若者と比べて、「安定した収入」「継続的な仕事」といった就労に関する項目が低いだけでなく、「生活保護の受給」「生命保険・医療保険の加入」などセーフティネットにも不足感を感じていた。さらに、「キャリアのロールモデル」「地域とのつながり」「他者への貢献実感」は重要度も充足度も低かった。

HELLOlife が掲げるハローライフ構想やその具体策としての MODEL HOUSE プロジェクトは、どんな状況の若者でも地域で暮らし続けられるために支援を提供するものである。収入の安定性や仕事の継続性は非正規雇用等では正規雇用より低くなるが、その時に支えになるのが相談相手としての HELLOlife であり、また行政等が提供するセーフティネット、目標となる存在、地域とのつながりでもある。つまり、若者地域生活ニーズ26項目で欠けている部分があっても、他の項目が充足されていれば、それによって若者は社会とのつながりを維持し、次のステップに向かっていくと考えられる。

調査結果から、MODEL HOUSE で提供している支援の各要素はおおむね若者のニーズを捉えていいことが確認できたが、ロールモデルやコミュニティの形成は前述のように就労状況によるギャップがありつつも、若者自身が強いニーズ（顕在的ニーズ）を有しているわけではなく、ニーズが潜

在化していることも確認された。事業設計として MODEL HOUSE は理論的裏付けがあると考えられる一方、潜在的ニーズをどのように顕在化させるかも含め、多面的な若者のニーズに的確に対応することが求められる。

(3) エビデンスやナラティブによる国への働きかけ

これまで HELLOlife では国土交通省や厚生労働省といった規制官庁との意見交換を通じて、ハード（公営住宅の活用等）とソフト（就労支援事業のあり方等）の両面で様々な政策提言を行ってきた。コミュニティ維持が困難な地域や非正規雇用・無職の若者の増加への対策は全国的にみても喫緊の課題であり、早期に有効な対策が図られるよう、国には今後も継続的に働きかけていくこととなる。

MODEL HOUSE は政策提言のアイディアを具現化した先行モデルであり、本調査を通じて地域・若者に事業に対するニーズが存在することが確認できた。MODEL HOUSE のような事業を評価する際の一般的枠組みである「プログラム評価」では、ニーズ評価に続いて、セオリー評価（ロジックモデルの作成等）、プロセス評価（理論に基づく実践の実施状況確認等）、インパクト評価（アウトカム指標の測定等）、効率性評価（費用便益分析等）があり、国レベルでの予算化と規制緩和に向けて、エビデンス情報を引き続き提供することが重要である。

これと並行して、ナラティブな情報も政策形成の上では同様に有用である。MODEL HOUSE ではこれまで 12 人の入居者が自分自身の意思で利用を決め、親から独立して地域で住みながら生活し、就職に向けて活動を続けてきた実績がある。正規雇用の職を得て次のステップに進んだ若者もいれば、就労面では道半ばながらもコミュニティから自身を認められたことで自信を取り戻した若者もある。このようにすべてのケースが「モデルケース」であるため、MODEL HOUSE という期間限定の取組を経て若者たちがその後どうなっているかを追跡することも、示唆に富んだ情報になると考えられる。

3. 今後検討すべき事項

(1) 若者地域生活ニーズの把握枠組み

本調査における若者地域生活ニーズ調査は、四條畷市の全面的な協力を得て、市内の若者のうち約半数にあたる 7,000 人を対象としたアンケート調査が実現した。しかしながら、若者支援を扱う行政計画は多くの自治体では存在しないため、若者のニーズは把握されておらず、定期的なニーズ把握は非現実的な状況にある。

四條畷市の調査結果から読み取れるように、非正規や無職ながらも自立したいと考える若者は多く、そのための支援の開発も必要である。地域の課題として関係者に再認識を求めるためにも、多くの自治体で同様の調査が実施されることを期待したい。

(2) 調査パッケージの継続的改良

本調査で「若者地域生活ニーズ」を測定するために用いた 26 項目の調査項目は、「就労」「生活」「社会参加」「親からの自立」の 4 側面を広くカバーしたものである。これは必ずしも MODEL HOUSE の取組を前提としていないが、若者支援の観点では、他にも把握すべき項目が示されることは十分に想定される。

全国的に若者支援の充実が必要とされる現在、学識者や他地域の支援者等とともに、より若者のニーズを適切に反映できる指標の設定と、その共通理解醸成に向けた議論が望まれる。また、これに伴い、現行ではバージョンが「1.0.」となっている調査票等の調査パッケージについても、バージョンアップを図る必要がある。

第V章 参考資料

1. 若者地域生活ニーズ調査パッケージ（VER.1.0.）

(1) 調査実施手順

若者地域生活ニーズ調査の実施手順は下記の通り。

1

若者地域生活ニーズの再検討

- 若者地域生活ニーズver.01（「就労」「生活」「社会参加」「親からの自立」に関する全26項目）について、それぞれの地域の現状や特性に応じて、追加項目又は削除・修正項目を検討します。
- 若者地域生活ニーズの項目を検討する際には、「若者」の「就労」「生活」「社会参加」「親からの自立」に関わる関係主体と協議をしながら、協働で作り上げるようにします。そうすることで、調査結果に対する関係主体間の“納得感”的醸成につながり、関係主体が調査結果を踏まえて次のアクションへ踏み出すきっかけになることが期待されます。

2

調査票の作成

- 参考資料にある「調査票ver.01」をベースに、上記で再検討した若者地域生活ニーズの項目を踏まえて、調査票の修正を行います。

3

調査実施の準備

①サンプルの抽出

- 調査対象を抽出します。住民基本台帳より18歳～39歳の男女を無作為に抽出します。
- 「非正規雇用・無職」の層の回答率は低くなる可能性があります。一方で、「非正規雇用・無職」と「正規雇用」の比較分析を行うためには、「非正規雇用・無職」のサンプル数を一定数確保する必要があります。そのため、無作為抽出のサンプル数は、予算上の制約に加えて、「非正規雇用・無職」の出現率を考慮して決定するようにします。

（参考）試行調査の事例

- a.四條畷市における18歳～39歳の男女（母集団）：約14,000人（2019年1月時点）
- b.試行調査におけるサンプル抽出数：7000人
- c.有効回答数：839人（回答率12.0%）
- d.うち、「非正規雇用・無職」と回答した人数：163人

②発送準備

- 試行調査では、ウェブアンケート調査を用いました。具体的には、ウェブアンケート調査の調査画面URL・QRコードを、官製はがきに印字し、発送した。回答者は、PC又はスマートフォンを使用し、ウェブ上で回答します。
- その他、ウェブアンケート調査での実施が難しい場合には、紙媒体で出力した調査票及び返信用封筒（後納郵便）を発送用封筒に封入し、発送します。

③その他

- 回答率の向上のために、謝金・景品等を用意することも検討します。試行調査では、景品として、クオカード（回答者のうち抽選で数名）を用意しました。

4

調査の実施

- 試行調査では、調査期間を2週間としました。調査期間は、2～3週間程度とし、十分な期間を設けるようにします。
- 回収後に、入力(*)及び集計を行います。
*郵送による配布・回収の場合

5

調査結果の分析

- 調査結果について、単純集計に加えて、以下の集計・分析を行います。
 - 就業別のクロス集計：「非正規雇用・無職」「正規雇用」を比較して、それぞれの傾向を分析します
 - 「重要度」「充足度」の分析：選択肢をスコア化した上で、評価点を算出し、「重要度」と「充足度」の分析を行います（詳細は第Ⅲ章を参照）。
- その他、必要に応じて追加の分析を行います
(例：経年比較、同調査を実施する地域との比較等)

6

調査結果の共有、次のアクションの検討

- 調査結果について、「若者」の「就労」「生活」「社会参加」「親からの自立」に関わる関係主体が集まる場を設け、そこで報告します。
- それによって、議論の前提となる情報（調査結果）を各関係主体間で共有する（目線を合わせる）ことができます。その上で、現状を踏まえて、共通のアジェンダ（解決するべき課題）を設定し、また、その課題解決のために、それぞれの主体が今後どのようなアクションをするか、また主体間が協働してどのようなアクションを取るのかを検討します。また、それらのアクションの進捗状況を測り、常にアクションを改善していくことを目的に、共通の評価指標も併せて検討します。
- これらを通して、「若者」の地域生活ニーズを充足するための支援を推進していきます。
- なお、この調査を定期的に実施することによって、若者の地域生活ニーズの現状をモニタリングとともに、上記のアクションの成果を測定・評価することができます。

(2) 調査票 ver.1.0.

若者地域生活ニーズ調査の調査票 ver.1.0.は次頁の通り。

若者地域生活ニーズの把握に向けた実態調査 ver.1.0.

1. あなたご自身について

問1. あなたの性別をお選びください。(あてはまるもの1つ)

- | | |
|-------|-----------|
| 1. 男性 | 3. その他 |
| 2. 女性 | 4. 答えたくない |

問2. あなたの年齢をお選びください。(あてはまるもの1つ)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 19歳以下 | 3. 25~29歳 | 5. 35~39歳 |
| 2. 20~24歳 | 4. 30~34歳 | |

問3. あなたの職業をお選びください。(最もよくあてはまるもの1つ)

- | | | | |
|---------------|---------|------------|------------|
| 1. 正社員(フルタイム) | 4. 契約社員 | 7. 自営業・自由業 | 10. 無職 |
| 2. 正社員(短時間) | 5. 書類職員 | 8. 家事専業 | 11. その他() |
| 3. パート・アルバイト | 6. 派遣社員 | 9. 学生 | |

問4. 問3で選択肢「10」を回答した方にお伺いします。あなたは現在、就業を希望していますか。
(最もよくあてはまるもの1つ)

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| 1. 就業を希望しており、現在求職活動を行っている | 3. 就業を希望していない |
| 2. 就業を希望しているが、現在求職活動を行っていない | 4. 分からない |

問5. あなたの一年間の収入の合計額(税込み)をお選びください。(あてはまるもの1つ)

- | | | |
|------------------|------------------|-------------------|
| 1. 100万未満 | 5. 400万円~500万円未満 | 9. 800万~900万円未満 |
| 2. 100万円~200万円未満 | 6. 500万円~600万円未満 | 10. 900万~1000万円未満 |
| 3. 200万円~300万円未満 | 7. 600万円~700万円未満 | 11. 1000万円以上 |
| 4. 300万円~400万円未満 | 8. 700万円~800万円未満 | |

問6. あなたの世帯の一年間の収入の合計額(税込み)をお選びください。(あてはまるもの1つ)

- | | | |
|------------------|--------------------|-------------|
| 1. 200万円未満 | 4. 500万円~700万円未満 | 7. 1500万円以上 |
| 2. 200万円~300万円未満 | 5. 700万円~1000万円未満 | 8. 分からない |
| 3. 300万円~500万円未満 | 6. 1000万円~1500万円未満 | |

問7. あなたが生活を送る上で主な収入源をお選びください。(あてはまるもの1つ*該当するものが複数ある場合には、最も収入の多いものを選んでください)

- | | | |
|-------------|-----------------|-----------|
| 1. あなた自身の収入 | 3. 配偶者・パートナーの収入 | 5. その他() |
| 2. 親の収入 | 4. 兄弟姉妹の収入 | |

問8. あなたは現在、雇用保険に加入していますか。(あてはまるもの1つ)

- | | | |
|-----------|------------|----------|
| 1. 加入している | 2. 加入していない | 3. 分からない |
|-----------|------------|----------|

問9. あなたが住んでいる住宅の形態をお選びください。(あてはまるもの1つ)

- | | | |
|---------------|----------------|-----------|
| 1. 持ち家（一戸建て） | 4. 民間借家（一戸建て） | 7. その他() |
| 2. 持ち家（マンション） | 5. 民間借家（マンション） | |
| 3. 公営住宅 | 6. 社宅・官舎・寮 | |

問10. 現在、あなたと同居している人をお選びください。(あてはまるものすべて)

- | | | |
|--------------|--------|-----------|
| 1. ひとり暮らし | 4. 母親 | 7. 兄弟姉妹 |
| 2. 子ども | 5. 父親 | 8. 友人・知人 |
| 3. 配偶者・パートナー | 6. 祖父母 | 9. その他() |

問11. 問10で選択肢「2」～「9」のいずれかを選択した方にお伺いします。あなたは、今後ひとり暮らしをしたいですか。(あてはまるもの1つ)

- | | | |
|----------------|------------------|-----------|
| 1. ひとり暮らしをしたい | 3. どちらかといえばしたくない | 5. その他() |
| 2. どちらかといえばしたい | 4. したくない | |

問12. 問11で選択肢「1」または「2」を選択した方にお伺いします。あなたがひとり暮らしをしたい理由は何ですか。(あてはまるものすべて)

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1. ひとり立ちしたいから
(親元から自立したいから) | 4. 家が手狭だから |
| 2. 今よりも自由に暮らしたいから | 5. 同居している人との関係がうまくいっていないから |
| 3. 家が通勤先・通学先から遠いから | 6. その他() |

2. 生活する上でのニーズについて

問13. あなたが、日頃の生活を送る上で、重要だと思うことは何ですか。(項目ごとに、それぞれあてはまるもの1つ)

大項目	項目	あなたにとって重要ですか (あてはまるもの1つ)				
【就労】に関するニーズ	① 安定しており、生活する上で困らない収入を得られること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	② 継続して働き続けられる仕事があること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	③ 就労に関する情報（企業情報・就労支援団体など）にアクセスできること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	④ 就労に関して相談できる人・団体がいること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	⑤ 今後のキャリアにおけるロールモデルがいること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
【生活】に関するニーズ	① 必要な物品（食料・衣服）を必要なときにいつでも購入できること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	② 定期的に休暇を得られること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	③ 趣味があること（気晴らしができること）	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	④ 生活リズムが規則的なこと	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	⑤ （必要な時に）医者にかかること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	⑥ 生活に困ったときに相談できる人・団体がいること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			

	⑦ (必要な時に) 生活保護を受給できること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない
	⑧ (必要な時に) 死亡・障がい・病気などに備えるための保険に加入していること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない

大項目	項目	あなたにとって重要ですか（あてはまるもの1つ）				
【社会参加】に関する ニーズ	① 安心できる居場所があること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	② 友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑であること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	③ 友人や周囲の人から尊重されていると感じられること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	④ 友人や周囲の人との人間関係に困ったときに相談できる人・団体がいること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	⑤ コミュニティ活動など地域とのつながりがあること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	⑥ 他者へ貢献できていると感じられること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
【親からの自立】に関する ニーズ	① 家族との関係が良好であること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	② 困ったときに家族に相談できること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	③ 家族から尊重されていると感じられること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	④ 家族関係に困ったときに相談できる人・団体がいること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	⑤ 住まいが劣悪な環境ではないこと（雨漏り・冷暖房などの故障）	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	⑥ 家賃が安い住居を得られること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	⑦ 転居に関して必要な情報にアクセスできること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			

問14. あなたの現在の状況に最も近いものをお選びください。(項目ごとに、それぞれあてはまるもの1つ)

大項目	項目	あなたは左記の項目についてあてはまりますか(それぞれあてはまるもの1つ)				
「就労」に関する二ーズ	① 安定しており、生活する上で困らない収入を得られている	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	② 継続して働き続けられる仕事を得られている	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	③ 就労に関する情報(企業情報・就労支援団体など)にアクセスできる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	④ 就労に関して相談できる人・団体がいる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	⑤ 今後のキャリアにおけるロールモデルがいる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
「生活」に関する二ーズ	① 必要な物品(食料・衣服)を必要なときにいつでも購入できる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	② 定期的に休暇を得られている	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	③ 趣味がある(気晴らしができる)	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	④ 規則的な生活を送っている	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	⑤ (必要な時に) 医者にかかる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	⑥ 生活に困ったときに相談できる人・団体がいる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	⑦ (必要な時に) 生活保護を受給できる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	⑧ (必要な時に) 死亡・障がい・病気などに備えるための保険に加入できる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			

大項目	項目	あなたは左記の項目についてあてはまりますか（それぞれあてはまるもの1つ）				
【社会参加に関する二ーズ】	① 安心できる居場所がある	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	② 友人や周囲の人とのコミュニケーションが円滑である	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	③ 友人や周囲の人から尊重されていると感じられる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	④ 友人や周囲の人との人間関係に困ったときに相談できる人・団体がいる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	⑤ コミュニティ活動など地域とのつながりがある	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	⑥ 他者へ貢献できていると感じられる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
【親からの自立に関する二ーズ】	① 家族との関係が良好である	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	② 困ったときに家族に相談できる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	③ 家族から尊重されていると感じる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	④ 家族関係に困ったときに相談できる人・団体がいる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	⑤ 住まいが劣悪な環境ではない（雨漏り・冷暖房などの故障）	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	⑥ 安い家賃の住居を得られる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			
	⑦ 転居に関して必要な情報にアクセスできる	1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない 5. そう思わない			

3. 住まいに求める設備・機能について

問15. あなたが、住まいを選ぶ際に重要だと思うことは何ですか。（項目ごとに、それぞれあてはまるもの1つ）

	項目	重要だと思うこと（あてはまるもの1つ）				
物件の設備・仕様について	① 家賃が安いこと	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	② 初期費用（敷金・礼金・仲介手数料等）が安いこと	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	③ 家具・家電等が備え付けられていること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	④ 勤務先・通学先から近いこと	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	⑤ セキュリティが充実していること（治安がいいこと）	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	⑥ 部屋のリフォームなどを自由にできること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
コミュニティ・地域参加シヨン	⑦ 隣人と顔の見える関係性があること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	⑧ 困ったときに相談できる人が近くにいること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	⑨ 地域コミュニティの活動が活発なこと	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	⑩ 地域コミュニティとつながる機会が多いこと	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
支援	⑪ 自立支援を得られること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			
	⑫ 就労支援が得られること	1. 非常に重要である 2. どちらかといえば重要である 3. どちらともいえない	4. どちらかといえば重要でない 5. まったく重要でない			

住宅つき就職支援プロジェクト “MODEL HOUSE”

若者地域生活ニーズの把握に向けた調査報告書

2019年11月

NPO 法人 HELLOlife

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町 1-16-14

電話：06-6147-3286

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

